

山形大学人文学部叢書 4

山形大学 COC事業

観光資源の有効活用と 中心市街地の再生

一連携自治体 山形県上山市一



山田 浩久

山形大学人文学部叢書 4

平成 25 年度 「地（知）の拠点整備事業」
自立分散型（地域）社会システムを構築し、運営する人材の育成

観光資源の有効活用と中心市街地の再生
— 連携自治体 山形県上山市 —

山 田 浩 久

はじめに

多くの地方中小都市では、観光を産業化することによって、市街地再生の糸口を探ろうとしている。本研究では、文部科学省の平成 25 年度「地（知）の拠点整備事業」として採択された山形大学の「自立分散型（地域）社会システムを構築し、運営する人材の育成」事業の支援を受け、学生参加型の調査を実施した。同事業の目的は、「大学等が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図る」ことである。本調査は、この目的に準じ、上山市との共同研究という形で進められ、同市観光物産協会の協力のもと、筆者が担当する講義「地誌学」の受講生を中心に地域づくりに興味を持つ学生を上山市に宿泊させることによって、観光客の行動に合わせた同市の観光資源の活用方法を具体的に明らかにするとともに、調査結果を活かした中心市街地の再生プランを提言することを目標に行われた。なお、本調査を今後の旅行商品の開発に役立てたいという上山市側からの要望を受け、学生の宿泊には同市が提案する宿泊パッケージ・プランを採用した。

チェック・インからチェック・アウトまでの館内行動はもちろん、館内行動を挟んだ旅程全体における観光客の実態はプライバシーに抵触することもあり、一般的な面談調査では明らかにしにくい。また、研究者による現地調査では、観光客の多様な行動パターンを把握することはできない。そのため、学界においても先行事例はほとんどなく、同規模の都市が模索する観光政策にも指針を与える研究ができた。学生にとっても、教室での講義や演習では分からない観光を実際に体験することにより、地域づくりの視点や市街地衰退の様子を具体的に学ぶことができたと考える。

筆者は、山形大学東北創生研究所のもとで、2012年8月より、上山市の観光動向調査を行っており、20歳代の若者の行動を把握することが今後の上山市の観光を考えるうえで重要な作業になる、という考えに至った。また、同調査結果は、学生を送り出す際に行った授業にも使用した。これらのことから、本書は以下のように構成される。

まず、第1章で、全体の研究計画と上山市の概観をまとめた。第2章では、観光動向調査で行ったホテル・旅館の経営者に対するインタビュー調査の結果を記載し、第3章では同調査で行った一般宿泊客に対するアンケート調査の結果を記載した。第4章では、学生参加型の調査に参加した各学生のレポートを掲載した。最終第5章では、宿泊客の行動を類型化し、本研究全体を総括した。

本書が、学生参加型調査を企画する大学教員の参考となり、上山市の観光政策はもとより、観光の産業化によって市街地の再生を模索する自治体の市民になんらかの指針を与えられれば幸いである。

2014年3月

山形大学人文学部
山田浩久

目 次

はじめに	1
第1章 研究計画	
1 本研究の目的	5
2 3つの現地調査	6
3 上山市概観	9
第2章 旅館経営者の意識	
1 宿泊業のバリュー・チェーン	17
2 旅館経営者に対するインタビュー調査	19
第3章 宿泊客の動向	
1 宿泊客に対するアンケート調査	25
第4章 学生による上山温泉宿泊調査	
1 湯町地区	37
2 新湯地区	61
3 葉山地区	131
第5章 総括	
1 旅行者の段階的意思決定	215
2 旅行形態別の行動の差異	218
3 上山市に求められること	222
おわりに	226

第1章 研究計画

1 本研究の目的

地方中小都市では、少子・高齢化に進行に加え、大都市部への人口流出が継続し、人口減少に歯止めがかからない問題が生じている。これらの都市では、常住人口減による消費活力の低下やそれに伴う経済活動の低迷を交流人口増によって回避しようとしている。住民主体のまちづくり活動や市民協働による中心市街地活性化策も、多くは当該地域の常住人口減を根幹とする問題を地域外から人を呼び込むことによって解決しようとするものである。

しかしながら、常住人口を維持できない都市が、交流人口を増やすことはきわめて難しい。住民にとって魅力の無い街に来訪者が魅力を感じることはないからである。全国的な人口動態から見て常住人口の急増は望めないにしても、常住人口の維持と交流人口の増加は同じ視点で論じられるべきであろう。

常住人口を維持できない最大の理由として挙げられるのは、新規雇用が創出されない、あるいは所得の増加が見込めないといった経済的不活性である。そして、経済活動が低迷しているのは、当該地域に市場を形成するような財が存在しないためである。ただし、多くの地方中小都市には、興味深い文化や希少な自然環境といった市場を形成しにくい潜在的な財が存在する。地方中小都市の経済を活性化させるためには、この潜在的な財に経済的な価値を見出し、市場を形成させることが必要である (Clope, 1992)。

地方中小都市が有するこの潜在的な財は地域資源と呼ばれ、それらに市場を形成させる方策の一つとして観光が着目されている (足場, 1988; 田林, 2012)。地域資源を観光資源として、そして来訪者を観光客として捉え直し、観光を地域経済に取り込む以上、そこには競争が想定され、差別化や付加価値の議論が

第1章 研究計画

生まれる。換言すれば、同列の観光地よりも大きな魅力を提供するために必要な具体案を提起・検討しなければならない。重要な点は、地域が創出した魅力を観光客が受け入れるかどうかではなく、観光客が欲する魅力を地域が創出できるかどうかである。地域には、「観光業」に取り組む覚悟が問われる。それぞれの観光地が今後の可能性を模索している中で、一歩前に出るためには、観光資源の需要者となる観光客の動向と供給者となる地域の思惑を探る大規模なマーケティングが必要である。

そのため、本研究では、山形県上山市を研究対象地域に設定して、地方中小都市における観光の産業化に必要な観光客の動向とその受け入れ実態を明らかにするために、主に宿泊業と宿泊客に対する以下の3段階の調査を行い、同市の観光政策に対する今後の指針を提示する。上山市は、平成25年度「地（知）の拠点事業」として採択された山形大学の「自立分散型（地域）社会システムを構築し、運営する人材の育成」事業の連携自治体になっているほか、山形大学東北創生研究所が行っている地域調査のモデル都市になっている。

2 3つの現地調査

本研究では、まず、地域全体の発展を目指す行政の姿勢と宿泊業者とのズレを経営者へのインタビュー調査を中心に明らかにした。この調査は、山形大学東北創生研究所のもとで、筆者が平成24～25年度に行ったものであり、対象としたのは、上山市の観光物産協会に加盟する22のホテル・旅館（以下、旅館）の社長あるいは女将であったが、インタビューを了承したのは18の旅館であった。インタビューの調査時期は、2012年8月24日～9月24日の1ヶ月で、1）経営者の姿勢、2）設備投資、3）観光客の月別変動、4）宿泊者・宿泊形態の変化、5）異業種間連携、に関する経営者の見解を聞き取った。

次に、上山市に訪れる観光客の属性と行動を明らかにするために、旅館に宿泊した宿泊客を対象にしたアンケート調査を行った。調査は、経営者に対するインタビュー時にアンケートの調査協力を依頼し、了解を得た16軒の旅館の宿

泊客を対象に 2012 年 9 月～2013 年 8 月の 1 年間にわたって行われた。回答者は宿泊者または宿泊グループの代表者である。1 年間の全数調査は不可能であるため、各旅館には 1～2 ヶ月の間隔をあけて 10 部ずつ調査票を配布した（計 160 部／回配布）¹⁾。調査は、フロントから宿泊客にアンケートへの記入をお願いしてもらい、それらを 7～10 日後に訪問回収するという形で進められた。なお、本調査もまた、東北創生研究所のもとで行った。

上山市に訪れる観光客数には月別の特徴が現れることが分かっているが、それが数的なものだけの特徴なのか、属性や目的に関わるものであるのかは把握されていない。本アンケート調査の調査期間は 1 年であり、宿泊客者の属性や観光活動の特徴はもとより、それらの年内変化を明らかにすることができる。質問項目は、1) 宿泊月、2) 訪問回数、3) 情報源、4) 宿泊目的、5) 宿泊地の選定理由、6) 楽しみにしていること、7) 購入土産、8) 訪れた観光地、9) 年齢、10) 居住地である。1 年間で配布した調査票の総数は 1,440 通であり、回収数 568 通、有効回答 564 通（有効回答率 39.2%）であった²⁾。

これらの上山市に対する観光動向調査を受け、2014 年 1 月 17～20 日において、学生参加型の調査を行った。本調査は、「自立分散型（地域）社会システムを構築し、運営する人材の育成」事業の支援を受け、上山市との共同研究という形で進められた。学生の募集は、筆者が担当している「地誌学」（山形大学人文学部平成 25 年度後期開講科目）を通じて行われ、計 32 名の学生が集められた。また、対象とした旅館は、上山市観光物産協会から紹介された 16 軒の旅館である。

学生は 2 名 1 組で、上山市が考える 16 の選択型宿泊パッケージ・プラン（1 泊 2 日）を選び、実際に上山市の観光を行うことで、上山市街地の実状と同市の観光に関する問題点を調査した。筆者は彼らの意見・感想を後日レポートを提出させることで収集した。上山市が提案した宿泊プランは試行段階で、いくつかのオプション観光を事前に提示し、それらを利用できる「ゆかった手形」と呼ばれるクーポンを宿泊に付加するというものであった（写真 1-1）。調査結果に対する上山市の反応については、本書への掲載は間に合わなかったが、

第1章 研究計画

学生が提出したレポートは同市と共有し、上山市の宿泊商品の開発に利用されることになっている。

講義「地誌学」では、年度当初より上山市の観光について取り上げる予定であったため、シラバスの大きな変更は必要なかったが、調査予定日に合わせて講義で取り上げる順番を変更した。その結果、他の授業を含め16組中15組が上山市の観光についての講義を受けた学生が1人以上いる状態で調査に臨むことができた。「地誌学」では調査前に2回、調査後に1回、観光動向調査の結果をもとに上山市の観光について講義を行った。また、調査予定日前日の2014年1月16日には上山市観光課石井隆課長と同市観光物産協会伊藤こずえ主宰を招いて説明会を開催し、参加学生に現地調査の目的と注意事項を再度伝えた。

本研究では、これらの調査結果をもとに宿泊客の行動パターンを類型化する。類型化された行動パターンから宿泊客の意思決定過程が明らかになれば、それによって他の観光地ではなく「上山市」に泊まる宿泊客が何を求めているかが解明されと考える。地域間連携や着地型観光の可能性を考える場合においても、当該地域における観光客の行動把握は不可欠である。観光客が求めているものに対応したサービスを提供することが観光地に求められているものである限り、「上山市」のための観光開発であっても、基本となるテーマは、観光客は何を求めているか、である。



写真1-1 ゆかった手形

3 上山市概観

上山市は山形市の南東に位置する人口 33,843 人の市である（2010 年国勢調査報告）。上山市の歴史は中世期における鶴脛温泉の発見に始まり，16 世紀初頭から 17 世紀末までは城下町として，その後は羽州街道の街道町として発展した。湯治場としての素地に加え，城下町と街道町の特色を併せ持つ都市は珍しく，その歴史的特徴を活かした上山市独自の活性化策が模索されている。地形的には山形盆地と米沢盆地の間に位置する上山盆地の西側斜面に市街地が形成されている。同市の中心河川は須川で，市街地北東で前川，市域北端で蔵王川と合流する（図 1-1）。

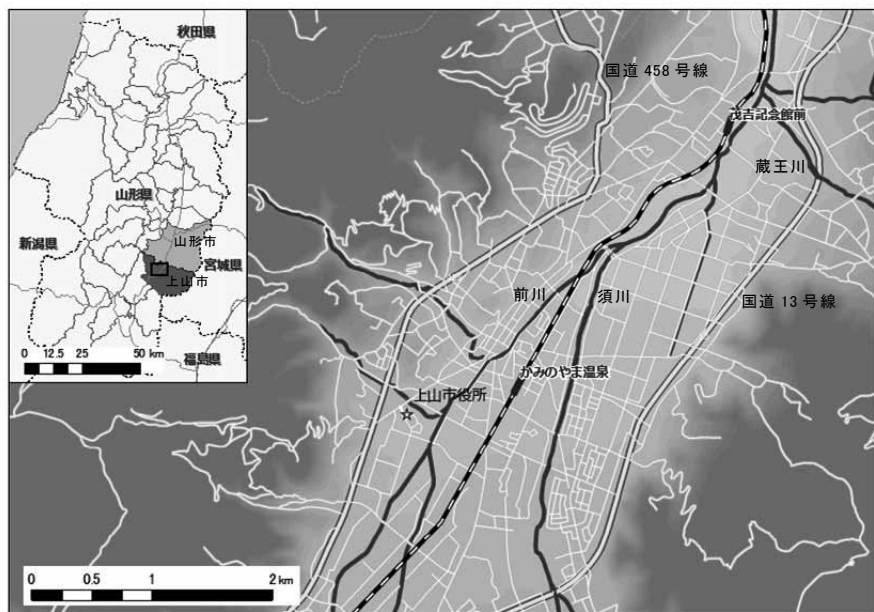


図 1-1 上山市の地形

第1章 研究計画

山形市の北部に位置し積極的に宅地開発を行ってきた天童市とは対称的に、上山市は宅地開発に消極的であったため、市街地の拡大も最小限に抑えられてきた。近年では盆地東側斜面に沿って走る国道13号線から西側の平地部分で民間ベースでの宅地開発が進められているが、水田として利用されてきた盆地中央部の開発には、河川合流地点との標高差や湿地帯の軟弱地盤に対する対策が必須であり、災害リスクの低減が大きな課題となっている。

『国勢調査報告』によれば、上山市は1990年から連続して人口が減少している。人口の恒常的減少は地方都市においてとくに珍しい現象ではないが、県内には1990年から連続して人口が増加している東根市のような自治体も存在し、県内で一様に衰退が進行しているわけではない。人口減少が続く中、温泉旅館から観光ホテルへの転換に成功した宿泊業を中心に観光を同市活性化の中核に据える動きが現れている。中心市街地の再開発の遅れが逆にレトロ調の景観を残存させている商店街との連携や、蔵王の自然環境やスポーツ施設を活かしたクアオルト構想による交流人口増が、常住人口減による経済の低迷をどの程度カバーできるかが今後の大きな課題であるが、問題を一つずつ解決していこうとする姿勢は、市職員や宿泊業者はもとより市民全体の総意となっており、今後の展開が期待される。

上山市内の温泉街は現在3地区に分けられている（図1-2）。開発の歴史が最も古いのは市街地北部の「湯町」地区で、その南部には昭和期に開発された「新湯」地区があり、歴史が最も新しいのは市街地南西の丘陵部に位置する「葉山」地区である。敢えて周囲の旅館とは異なる特徴を創り出そうとしている旅館を除くと、3地区にはそれぞれに特徴がある。

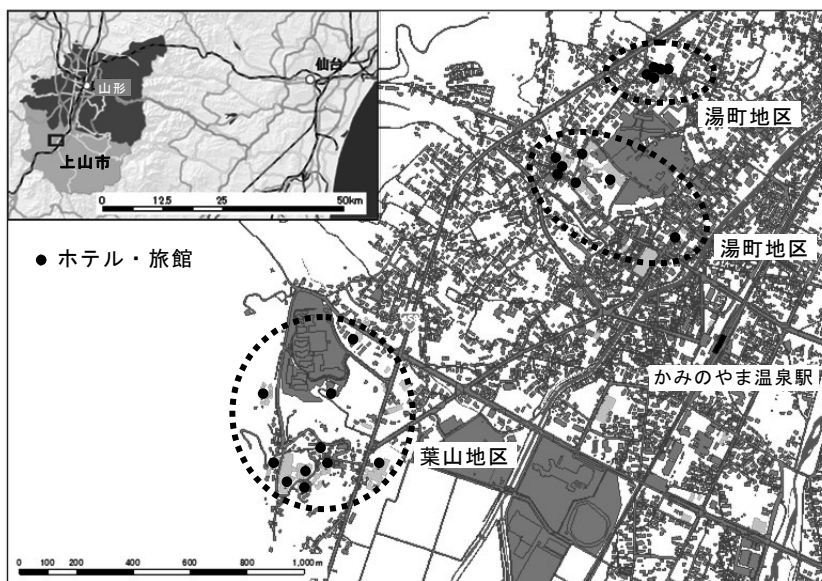


図 1-2 ホテル・旅館の分布

湯町地区は湯治場時代の名残が残る温泉街で、周囲には八百屋や肉屋といった食料品店が残存する。同地区には小規模で宿泊単価も低い旅館が密集して立地している（図 1-3，1-4）³⁾。今回の調査で協力を得られなかった旅館はこの地区に集中しており、既存システムの改変には消極的な地区といえる。新湯地区には土産屋や飲食店が立地し、温泉旅館群として発展してきた景観を見ることができる。同地区には 50 部屋以上の部屋数を有する上山市内では大型旅館に位置づけられる旅館が立地しており、宿泊単価は湯町地区よりも高めに設定されている。葉山地区に立地する旅館は 50 部屋未満の中規模旅館で、宿泊単価は 3 地区の中で最も高く設定されている。宿泊客の館内取り込み型が多く、周囲に立地する小売・飲食店舗は少ない。

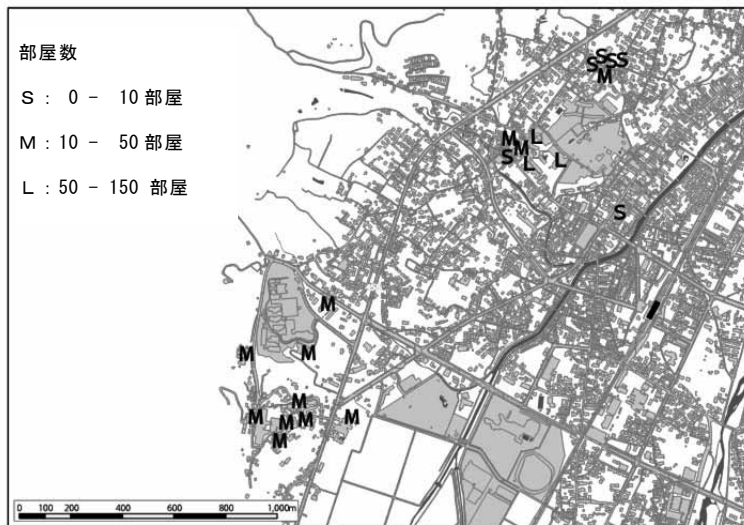


図 1-3 各ホテル・旅館の部屋数

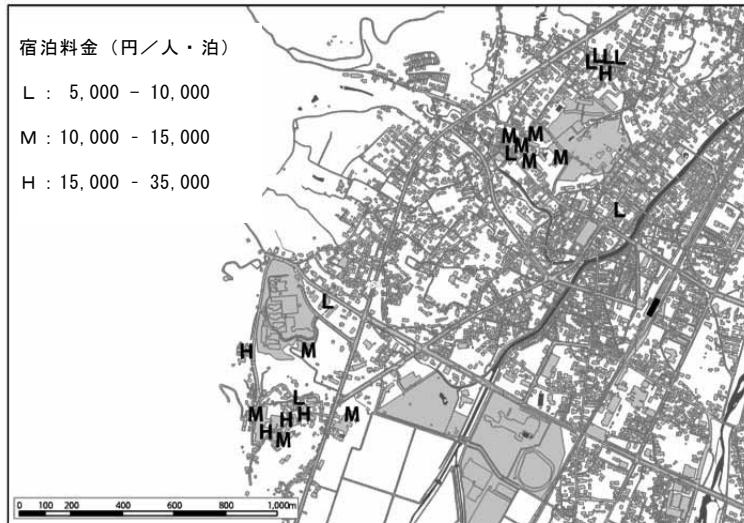


図 1-4 ホテル・旅館の宿泊単価
(1室2名で宿泊した場合の1名分の宿泊料金, 参考価格)

上山市に納付された入湯税に基づく集計によれば、宿泊客数は1980年代まで60万人前後で推移していたが、1990年代に大きく減少し40万人台にまで低下した（図1-5）。さらに、2000年代後半は再び減少化傾向を見せるようになった。いずれも全国的な景気の低迷が反映されていると考えられるが、2000年代後半に見られる減少の一部は、葉山地区の旅館に代表されるように、宿泊客数を抑え付加価値を高めることで宿泊単価を上げるといった経営戦略の転換やそのような転換に乗り遅れた旅館の廃業によると推測される。

上山市の観光客調査に見られるもう一つの特徴は、2月の樹氷観覧、6月のさくらんぼ狩り、10月の紅葉観覧に観光客が集中することである（図1-6）。この傾向は東日本大震災によって一時的に見られなくなったが、半年後の8月期からは前年比を若干上回るような形で復元された。原発事故による風評被害や被災県の復興に伴う観光客の回帰等新たな課題も生じている現状を個々の経営者がどう捉えているか、次章で明らかにしたい。

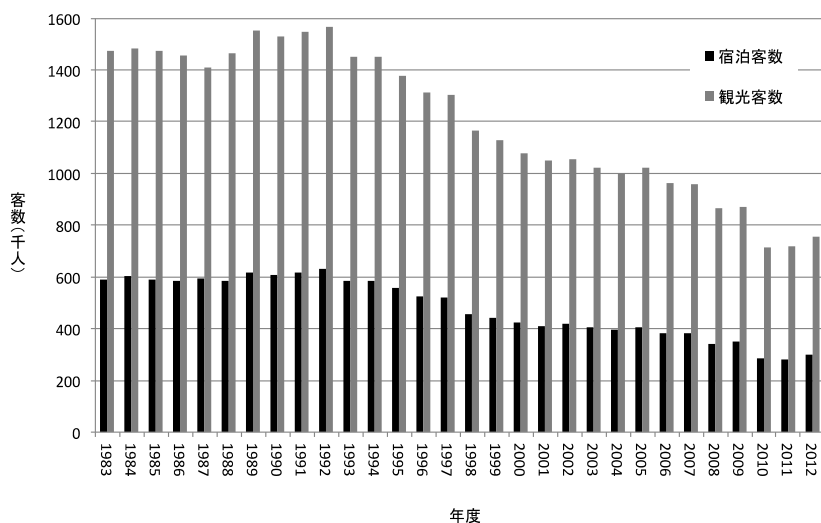


図1-5 観光客数・宿泊客数の年次別推移

第1章 研究計画

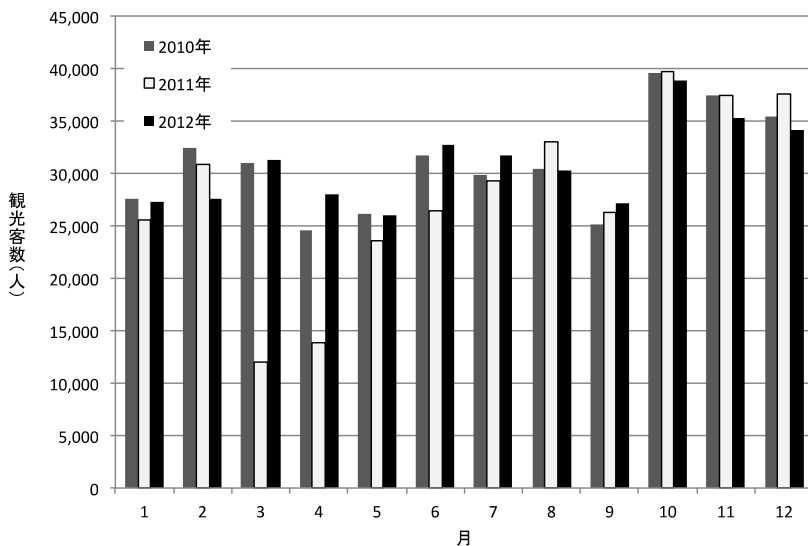


図1-6 観光客数の月別変化

注

- 1) 調査当初は、1ヶ月に1度、年12回の配布を予定していたが、悪天候や調査者の都合から計9回の配布にとどまった。
- 2) 無効回答としたのは、各質問項目にすべて同じ数字が記入されていたといった調査票のみで、無回答の質問項目がある調査票や誤記入の回答がある調査票も有効とし、分析可能な項目について集計した。
- 3) 表1-4に用いた宿泊料金は、上山市物産協会から提供された参考価格である。実際の宿泊料金は、宿泊日や部屋のグレードによって異なる。

参考文献

- 足場洋保 1988. 観光資源, 小池洋一・足場洋保編著『観光学概論』108-137.
- 総務省 2010. 『平成22年国勢調査報告』.

田林 明 2013. 日本における農村空間の商品化, 地理学評論, 86—1, 1-13.

Cloke, P. 1992. The countryside: Development, conservation and an increasing marketable commodity. In *Policy and Change in Thatcher's Britain*, ed. P. Cloke, 269-295. London: Pergamon.

第2章 旅館経営者の意識

1 宿泊業のバリュー・チェーン

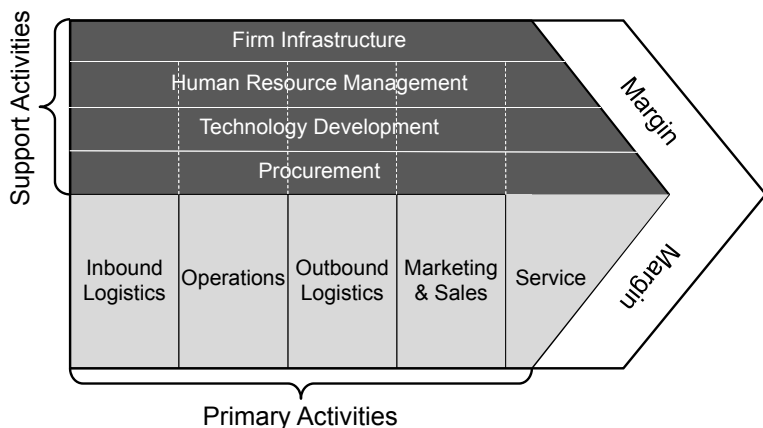
気の向くままに各地を巡る漫遊とは異なり、現代の観光は明確な目的を持つ旅行であり、時間的、予算的な制限がある（足場、1988）。そのため、旅行者側から見た発地型観光は、当初の目的を効率的かつ安価に達成することを重視して提案される。一方、旅行者を受け入れる観光地が観光を産業として考え、地域活性化のためにそれを発展させていこうとすれば、旅行者を観光「客」として能動的に受け入れ、彼らの滞在時間を伸ばし、消費活動を促す着地型観光の提案が必要になる（深見・井出、2010）。

このように、本来矛盾する発地型観光と着地型観光であるが、潜在的観光客を自宅から引き出す発地型観光の提案と観光客の行動を地域の経済活動に取り込む着地型観光の提案を両立させなければ、双方の満足度を同時に高めることはできない。そのためには、観光地側が観光客の予定している滞在時間と消費額を上回るサービス（価値）を提供し続けていくことが必要であり、観光地における付加価値の創出過程が重要な着眼点となる。ここでは、ポーター（1985）のバリュー・チェーン理論に基づき、観光客受け入れの主軸となる宿泊業の経営者が考える付加価値の創出を、インタビュー調査の結果をもとに整理する。

ポーターのバリュー・チェーンは主活動と支援活動に分けられる（図2-1）。主活動は原材料購入（Inbound Logistics）、製造（Operations）、出荷（Outbound Logistics）、マーケティング・販売（marketing & Sales）、アフター・サービス（Service）からなり、それぞれのパートで価値が創出されると考える。一方、支援活動は設備投資（Firm Infrastructure）、人的資源管理（Human Resource Management）、技術開発（Technology Development）、設備配置（Procurement）

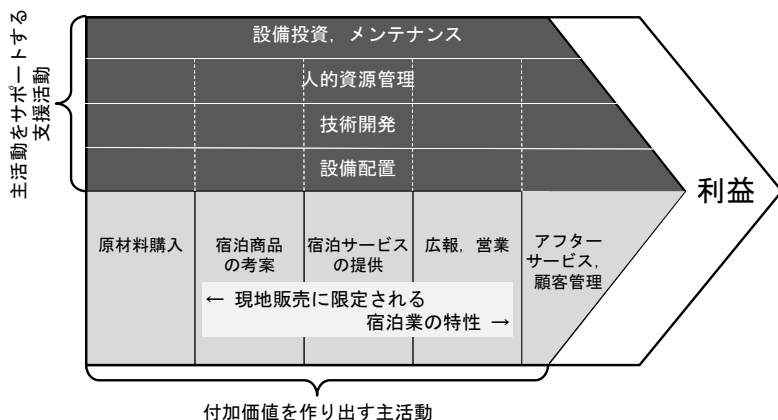
第2章 旅館経営者の意識

によって構成され、主活動による価値創出の効率を高めるとされる。これを宿泊業に適応した場合、製造は宿泊商品の考案となり、出荷は顧客が現地まで商品を買ってくることになるため宿泊サービスの提供ということになる。そのため、販売に関してもマーケティングを含んだ広報や営業活動になると考えられる（図2-2）。



Value Chain, Michael Porter (1985)

図2-1 ポーターのバリュー・チェーン



付加価値を作り出す主活動

図2-2 宿泊業のバリュー・チェーン

2 旅館経営者に対するインタビュー調査

インタビューに応じたのは18の旅館であるが、うち1件は休業中であるため以下の記載は現在営業中の17の旅館に対して行った調査結果に基づく¹⁾。

①経営者の姿勢

世代交代が進み、若女将や新社長を中心に新しい考えに基づいた経営姿勢を打ち出そうとする意識が生まれており、それらの意識をコンサルタントの利用や各種セミナーへの参加等によって実践しようとする経営者も現れ始めている。一方で、危機意識はあるものの、従前のやり方に固執する経営者も存在し、経営者間のスキル格差が拡大している。元来、経営は個々で行うものといった考え方が浸透しているため、従来のやり方に固執する経営者が特に問題視されることはないが、葉山地区では先進的な経営者同士が館内施設の相互利用を提案するなど、個々の設備投資に頼らない新しい宿泊商品を考案し、同業者間での連携も進んでいる。ポーターの理論に対照させると、価値が段階的に創造されると考え、自らが経営する旅館の強い部分を活かし、伸ばそうとする経営者は現れてきているが、弱い部分を補強しようとする経営者はまだ出てきていないようである。

②設備投資

17人の経営者のうち9人が山形新幹線の開通した1992年（平成4）を宿泊客数のピークであったと答えた。一方で、10人の経営者が宿泊客の伸びは施設のリニューアルと密接に関連していると述べている。彼らによれば、バブル期の融資増を新幹線開業に合わせて設備投資にまわしたことが宿泊客増に繋がったということである。確かに、景気が良い時にこそ設備投資に力を入れておかないと、景気が悪くなった時に主活動で価値を創造できない。バブル期の宿泊客増は、観光する側の余暇費増大によるものとする指摘が多いが、旅館の設備投資が同時期に集中したことも一因であり、個々の経営努力によるところが大

第2章 旅館経営者の意識

きいと言える。現在は、まさに融資額の伸びを期待できない状況であり、設備投資以外の支援活動によって次期の価値創造を期待しなければならない時代である。設備投資以外の支援活動の一つとして、市民による地域全体の押し上げが位置づけられるようになれば、つまりは他地域との差別化がうまく宿泊商品の考案に結びつけられるようになれば、景気変動に左右されにくい価値創造が期待できる。

③観光客の月別変動

入湯税による温泉の入込客数の月別変化を見ると、樹氷観覧、さくらんぼ狩り、紅葉観覧の時期に客数が増加する傾向が見られるが、このカーブと自分の経営する旅館の宿泊動向が一致すると答えた経営者は4人のみであった。もちろん、この時期に宿泊客が落ち込むと答えた経営者はいなかったが、5月の連休や8月の夏休み、さらには忘年会シーズンの12月や歓送迎会の3、4月にも宿泊客は増えるということである。

入湯税による資料は市全域での総数であり、大型旅館の動向が反映されやすい。そのため、いずれの経営者もその資料には懐疑的で関心は薄いが、経営する旅館の季節変動は正確に把握している。経営者は繁忙期の集客よりも閑散期の集客に関心が高い。これは、満室状態の時期に集客しても売り上げは伸びないからである。支援活動はコンスタントに継続されることが理想であるが、主活動には繁忙期に価値を創出するパートと閑散期に価値を創出するパートがあるため、例えば繁忙期においては営業活動よりも館内での宿泊サービスに力を入れた方が収益は増加するというように、季節に合わせた各パートへの力配分が必要になる。ただし、このような宿泊業のバリュー・チェーンは必ずしも他の業種と一致するわけではない。宿泊業者の集客に対する考え方は、イベント期に多くの観光客を呼び込もうとする行政や商店街の考え方と相反しており、市の観光政策から宿泊業が孤立する一要因となっている。

④宿泊者・宿泊形態の変化

団体客が減少し、個人客の割合が上昇しているとの見解はすべての経営者が指摘した。部屋数を減らし、館内施設を充実させた旅館はいずれも団体客の減

少をその理由に挙げた。インバウンド観光の高まりから、外国人の団体客増を期待できるのではないかと思われたが、積極的に受け入れたいという意向を示した経営者は1名のみであり、他はその必要性は認めながらも、施設面での問題を挙げ消極的な回答に止まった。同様に、一人旅の増加に対しても対応の必要性は感じているものの、収益性の問題から繁忙期での受け入れを嫌う傾向が見られ、常時受け入れ可とする経営者は2名であった。

経営者の視点は収益性にある。その意味で、単純に「観光客の増加＝収益の増加」とは考えていない。売上が伸びても経費がかさめば収益は伸びない。集客と同時に合理化も重要なテーマであると言える。1人の経営者が述べた「長期滞在は魅力的だが、違う料理を出すと、食材や手間がかかる。収支を考えると、単泊を増やす方が良い場合もある」という意見は印象的であった。また、プログラムチャーター便の就航など山形県はインバウンド観光に積極的な姿勢を示している。全国的に見ても外国人観光客への対応は必須であろう。しかしながら、中小規模の旅館の実状を考えると早急な対応は難しく、外国人観光客に対する一様な対応を上山市の旅館に期待することはできない。

上山市の宿泊業は主活動におけるパートのバリエーションが少なく、対応できる（利益の上がる）観光客の層がきわめて限定的だと言える。価格設定に代表される旅館の階層性には幅があるものの、各旅館の主活動におけるバリエーションの少なさが収益の伸びを抑えているとも考えられる。

⑤異業種間連携

市街地の商業者との連携は、館内に土産店を抱えているところも多く、積極的ではない。自らが所有する遊休地に商業施設の設置を企画する経営者や地元商業者の出張販売を期待する経営者もいるが、商店街との連動を勘案したものではない。一方、地元農業者との連携は考えてないと答える経営者が多いなかで、3人の経営者は、地産地消の促進や食の安心を売りにした料理を提供しており、地元農業者と関わりをもっている。また、2名の経営者は、提供する料理には使用しづらいとしながらも、地元野菜の販売を館内で行っている。一般に、観光という枠組みから宿泊業と小売り・飲食業はリンクしやすいと思われ

第2章 旅館経営者の意識

がちで、市も疑いなく両者のリンクを想定しているが、現実にはズレがある。逆に、直接的には関係ないと思われる農業や工業との連携を考える経営者が増えてきている。

経営者の多くは個々の経営努力によって事業を成功させてきており、設備投資をはじめ、人的資源管理、技術開発等の自らが行動することで高められる支援活動に関しては、十分な経験と知識を有している。反面、原材料購入やアフター・サービス、顧客管理といった異業種や顧客との並列的な関係によって成立する主活動のパートに関しては、あまり注意を払ってこなかったようで発展途上の段階にある。主活動の両端に位置するこれらのパートを開拓することは経営者にとって急務であると考ええる。なお、異業種との連携をコーディネートするソーシャル・ビジネスを提案する経営者もいたが、実現には至っていない。

補足：インタビュー調査を終えて

経営者は、自らが経営する旅館の特徴を誰よりもよく理解している。しかし、それ故に、当たり前、不可能という判断が早く、変動に対してやや硬直的である。また、何が不足しているかを常に考えているにも関わらず、それを自分で判断してしまっており、旅行者の望むものと一致しているかどうかの検証は行われていない。もちろん、今が上山温泉の転換期であるという認識は多くの経営者が持っており、それに対応できない経営者は休業、廃業の道を進む。行政も地域の発展を考えいくつかの観光政策を打ち出しているが、旅館経営者との間で意見が完全に一致しているわけではない。それぞれに主張を言い合うことは重要なことであるが、欠けているのはそれぞれの主張の検証である。

注

- 1) 経営者へのインタビューによって、1軒の旅館では2012年の8月の時点で集客活動を行っていないとの発言を得たため、当該旅館を休業中と判断し、残り17軒の旅館を対象にした考察を行った。

参考文献

- 足場洋保 1988. 観光学を学ぶために, 小池洋一・足場洋保編著『観光学概論』, 1-14.
- 深見 聡・井出 明 2010. 観光の本質をさぐる —歴史観光論と復興観光論の立場から—, 深見 聡・井出 明編『観光とまちづくり —地域を活かす新しい視点—』, 1-23.
- Porter, Michael E. 1985 Competitive Advantage. The Free Press. New York.

第3章 宿泊客の動向

1 宿泊客に体するアンケート調査

本章では、アンケート調査の結果から宿泊客の動向を明らかにする。調査方法については、第1章に記したので詳細は省略するが、以下の記述は回収された564通の回答に基づくものである。本調査結果の中で最も特徴的な点は、旅行の目的を観光とした宿泊者が全体の36.0%であったのに対し、休養と答えた宿泊者が45.6%に達したことである（図3-1）。「観光」を定義する際に、しばしば引用される観光政策審議会の1970年答申よれば、観光には、休養も含まれるが、温泉地という地域性を考え、アンケートでは回答欄に休養という項目を加えた¹⁾。両者の違いをどう考えるかは回答者の主観によるが、休養と回答した宿泊客は積極的な行楽を主な目的とはしない観光客と考えることができる。

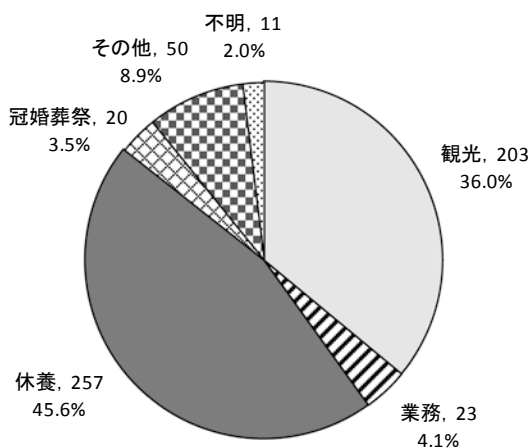


図3-1 宿泊客の旅行目的

第3章 宿泊客の動向

①宿泊目的別の動向

観光を目的とする回答者の宿泊地の選定理由を見ると、目的地への近接性が32.0%、観光地としての魅力が22.2%となり、合わせると半数を超えるものの(54.2%)、休養目的のそれらはそれぞれ10.1%と7.0%となり、2割に満たない(17.1%) (表3-1)。また、全体で見ても観光地の魅力を宿泊地の選定理由として挙げた宿泊客は、11.3%にすぎず、地域の差別化が宿泊客の誘引材料になっていないことが分かる。業務目的や冠婚葬祭・法事等の個別目的が目的地への近接性に偏ることは当然であるにしても、少なくともそれらの選定理由には上山市という場所やその位置が考慮されている。しかし、旅館の魅力を宿泊地の選定理由に挙げた宿泊客は、旅行の決定と同時に泊まる旅館を想定していると言える。このような宿泊客が全体の40.8%、休養目的においては59.1%を占めていることが、上山市の観光政策と旅館の経営戦略とのズレを生じさせる要因の一つになっていることは否めない。

表3-1 旅行目的別の宿泊地選定理由の割合

(単位：%)

	目的地に 近い	自宅に 近い	知人が いた	観光地とし ての魅力	ホテル・旅 館の魅力	その他	不明	計
観光	32.0	5.9	5.9	22.2	26.6	5.4	2.0	100.0
業務	82.6				17.4			100.0
休養	10.1	11.3	4.7	7.0	59.1	6.6	1.2	100.0
冠婚葬祭・法事	55.0	10.0	10.0		15.0	5.0	5.0	100.0
その他	32.0	8.0	24.0	2.0	26.0	8.0		100.0
不明	36.4		9.1		36.4	18.2		100.0
計	25.0	8.3	6.9	11.3	40.8	6.2	1.4	100.0

ただし、上山市が温泉街として認識されていないというわけではない。現地に着いてからの旅行の楽しみを聞くと、全体の86.0%が温泉と答えている(表3-2、複数回答)。問題は、温泉を楽しみにしているにも関わらず、「観光地としての魅力」によって上山市を宿泊先に選んだ宿泊客が少ない点である。「上山温泉」が観光地として認識されない限り、観光客の増加を見込むことはできない。観光を目的にした宿泊客の楽しみとして10%を超えている歴史散策や自然

散策、全体的に高い数値を示した飲食といった部分の魅力を高め、付加価値を付与することで「温泉地としての魅力」を総体的に高めることが今後の課題と言えるだろう。

表 3-2 旅行目的別の旅行の楽しみの割合

(単位：%)

	温泉	歴史散策	自然散策	イベント	買物	果樹狩り	スポーツ	飲食	その他	不明	計
観光	86.2	13.8	17.7	1.5	5.4	4.9	0.5	19.2	3.4	1.0	153.7
業務	78.3	8.7	4.3		4.3	4.3		13.0	8.7	8.7	130.4
休養	93.0	1.9	5.4	0.8	4.7	0.8	0.8	23.7	2.3	1.2	134.6
冠婚葬祭・法事	85.0	5.0						35.0	5.0	10.0	140.0
その他	70.0	2.0	4.0	2.0			12.0	26.0	20.0		136.0
不明	9.1							9.1		81.8	100.0
計	86.0	6.6	9.4	1.1	4.3	2.3	1.6	22.0	4.6	3.2	141.0

②季節別の変化

本研究は、宿泊客の月別の動向を明らかにするために、1年間という長期のアンケート調査を行ったが、繁忙期においては旅館側からの協力を得にくかったことや中間報告（2013年4月）によって本調査への関心が高まったことなどの事情から回収数にはばらつきが生じた²⁾。そのため、ここでは絶対値による議論を避け、12～2月を冬期、3～5月を春期、6～8月を夏期、9～11月を秋期として、季節ごとの構成比から調査の報告を行う。

最も大きな特徴は、冬期には休養を目的とする宿泊が多くなるのに対して（休養 64.6%，観光 15.6%），夏期には観光目的による宿泊がそれを上回ったことである（休養 38.9%，観光 45.2%）（表 3-3）。他の目的に季節ごとの差異は観察されないが、旅館の館外に対する消極性は冬期の降雪に関連があることを類推させる。

表 3-3 季節別の旅行目的の割合

(単位：%，括弧内は宿泊組数)

	観光	業務	休養	冠婚葬祭・法事	その他	不明	計
冬期	15.6	4.2	64.6	2.1	10.4	3.1	100.0 (96)
春期	39.2	2.7	44.1	3.2	9.7	1.1	100.0 (186)
夏期	45.2	4.8	38.9	2.4	7.1	1.6	100.0 (126)
秋期	37.2	5.1	41.0	5.8	8.3	2.6	100.0 (156)
計	36.0	4.1	45.6	3.5	8.9	2.0	100.0 (564)

第3章 宿泊客の動向

季節と現地に着いてからの旅行の楽しみとの関係を見ると、温泉と答えた宿泊客は全体で8割を超えているものの、冬期（90.6%）と夏期（81.0%）ではおよそ10ポイントの差が現れた（表3-4、複数回答）。飲食関連の楽しみはともに2割を超えているが、夏期では購買や果樹狩りといった消費関連の楽しみが増していることが特徴である。一方、春期及び秋期は歴史散策や自然散策といったアウトドア関連の楽しみが挙げられている。夏期と秋期は類似点が多いが、冬期は館内休息型、夏期は館外消費型、春期及び秋期は館外アウトドア型の観光が多くなると大別できる。なお、季節ごとの土産種類については、全体で1回答者当たりおよそ1.18種となり、大きな差異は観察されなかった。

表3-4 季節別の旅行の楽しみの割合

（単位：％、複数回答、括弧内は宿泊組数）

	温泉	歴史 散策	自然 散策	イベ ント	買物	果樹 狩り	スポ ーツ	飲食	その 他	不明	計
冬期	90.6	3.1	1.0		1.0		1.0	25.0	2.1	4.2	128.1 (96)
春期	87.1	7.0	11.3		2.2	0.5	3.2	19.4	5.9	2.2	138.7 (186)
夏期	81.0	7.9	8.7	3.2	6.3	5.6	1.6	26.2	6.3	4.8	151.6 (126)
秋期	85.9	7.1	12.8	1.3	7.1	3.2		19.9	3.2	2.6	142.9 (156)
計	86.0	6.6	9.4	1.1	4.3	2.3	1.6	22.0	4.6	3.2	141.0 (564)

③一見客とリピーター客との差異

宿泊業にとって、そして観光政策において、新規顧客の開拓とリピーター客の確保はともに重要な課題であり、それぞれに戦略の立て方も異なる。その他として記載のあった個々の目的も明示し、宿泊目的と両者との関係を見ると、全体では54.6%の宿泊客がリピーター客であったのに対し、観光を目的とする宿泊客の62.6%が初めての来訪と答えた（表3-5）。逆に、休養を目的とする宿泊客の66.5%がリピーター客であった。冠婚葬祭・法事を含めた個別目的を見ても、インドア型の目的ほどリピーター客の比率が高まる傾向があることが分かる。また、一见客の予約方法はインターネットによるものに偏っていたのに対し（56.9%）、リピーター客の予約方法は分散しており、特に電話での直接予約が相対的に高いことが特徴である（表3-6）。

表 3-5 旅行目的別の一見客とリピーター客の割合

		宿泊組数(組)				比率(%)			
		一見客	リピーター客	不明	計	一見客	リピーター客	不明	計
観光		127	73	3	203	62.6	36.0	1.5	100.0
業務		12	11		23	52.2	47.8		100.0
休養		81	171	5	257	31.5	66.5	1.9	100.0
個別目的	冠婚葬祭	6	14		20	30.0	70.0		100.0
	スキー・スノボ	2	3		5	40.0	60.0		100.0
	ハイキング・マラソン	2	1		3	66.7	33.3		100.0
	スポーツ応援	2	1		3	66.7	33.3		100.0
	記念日	4	2		6	66.7	33.3		100.0
	親睦	2	2		4	50.0	50.0		100.0
	研修		1		1		100.0		100.0
	新年会		1		1		100.0		100.0
	同窓会		6		6		100.0		100.0
	農業体験		2		2		100.0		100.0
	忘年会		2		2		100.0		100.0
	その他	4	13		17	23.5	76.5		100.0
不明		6	5		11	54.5	45.5		100.0
総計		248	308	8	564	44.0	54.6	1.4	100.0

表 3-6 一見客とリピーター客別の予約手段の割合

(単位：%)

	電話	インターネット	旅行会社	観光案内所	職場	飛び込み	友人	その他	不明	計
一見客	16.1	56.9	17.3	4.0	0.4	0.8	1.6	2.4	0.4	100.0
リピーター客	37.7	33.4	14.6	3.2	1.6		2.9	5.5	1.0	100.0
不明	12.5	25.0						12.5	50.0	100.0
計	27.8	43.6	15.6	3.5	1.1	0.4	2.3	4.3	1.4	100.0

一見客とリピーター客との違いは館外行動に対する積極性にも現れる。両者と訪問観光地数との関係を見ると、全体では 23.8% の宿泊客が観光地を 1 カ所も訪れないのに対し、一見客は同値が 15.7% にまで低下し、リピーター客に比べて多くの観光地を訪れている（表 3-7）。1 回答者当たりの訪問観光地数は全体で 1.51 カ所であり、一見客 1.77 カ所。リピーター客 1.27 カ所であった。しかし、1 回答者当たりの土産種類は一見客が 1.15 種、リピーター客が 1.21 種となり、若干リピーター客が上回った。一般に、一見客の方が土産を購入すると思われるが、この結果は、土産のインパクトが弱いことを類推させる。

第3章 宿泊客の動向

表3-7 一見客とリピーター客別の訪問した観光地数の割合

(単位：％)

	訪問地 無し	1カ所	2カ所	3カ所	4カ所 以上	不明	計
一見客	15.7	36.3	23.8	12.9	10.5	0.8	100.0
リピーター客	30.8	37.7	14.0	7.8	7.8	1.9	100.0
不明		50.0		12.5	37.5		100.0
計	23.8	37.2	18.1	10.1	9.4	1.4	100.0

④世代別の差異

アンケート調査によれば、宿泊客の年齢層は40歳代(22.0%),50歳代(20.4%)に集中しており、全体の42.4%に達する(図3-2)。

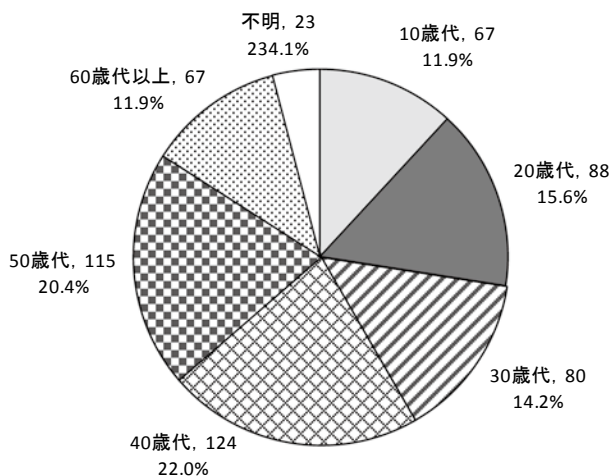


図3-2 宿泊客の代表者の年齢構成

60歳代以上の比率は11.9%にまで低下することや、宿泊客の半数以上がリピーター客であることを考えると、現時点における若年層をリピーター客として取り込んでおくことが持続的な発展に繋がると考えられる。40～60歳代ではリ

ピーター客がそれぞれ6割を超えるのに対し、10～30歳代はいずれの階層においても一見客がリピーター客を上回ることからも、次世代のリピーター客として若年例層を取り込む必要がある。（表3-8）

表3-8 世代別の一見客とリピーター客の割合

（単位：％）

	一見客	リピーター客	不明	総計
10歳代	62.7	37.3		100.0
20歳代	50.0	46.6	3.4	100.0
30歳代	57.5	42.5		100.0
40歳代	35.5	62.9	1.6	100.0
50歳代	39.1	60.0	0.9	100.0
60歳代以上	28.4	71.6		100.0
不明	34.8	56.5	8.7	100.0
計	44.0	54.6	1.4	100.0

宿泊客の年齢階層と旅行目的との間には明確な相関は指摘されないが、10歳代、20歳代においては4割以上（44.8％、47.7％）が観光を目的としている（表3-9）。また、宿泊地の選定理由も20歳代以下の階層は観光地としての魅力と答えた宿泊客の比率が全宿泊客における比率（11.3％）を上回り、逆に旅館の魅力と答えた比率は全体比（40.8％）を下回る（表3-10）。これらのことから、若年層の旅行は活動的であると結論づけられる。

表3-9 世代別の旅行目的の割合

（単位：％）

	観光	業務	休養	冠婚葬祭・法事	個別目的	不明	計
10歳代	44.8		44.8	1.5	3.0	6.0	100.0
20歳代	47.7	4.5	42.0			5.7	100.0
30歳代	37.5	8.8	37.5	2.5		13.8	100.0
40歳代	19.4	5.6	58.1	5.6		11.3	100.0
50歳代	47.0	4.3	36.5	2.6	0.9	8.7	100.0
60歳代以上	29.9		52.2	10.4		7.5	100.0
不明	13.0		47.8		34.8	4.3	100.0
計	36.0	4.1	45.6	3.5	2.0	8.9	100.0

第3章 宿泊客の動向

表3-10 世代別の宿泊地選定理由の割合

(単位：％)

	目的地に近い	自宅から近い	知人がいた	観光地としての魅力	ホテル・旅館の魅力	その他	不明	計
10歳代	22.4	17.9	3.0	13.4	38.8	4.5		100.0
20歳代	26.1	6.8	8.0	15.9	35.2	5.7	2.3	100.0
30歳代	33.8	6.3	2.5	8.8	38.8	7.5	2.5	100.0
40歳代	21.8	7.3	8.9	6.5	50.0	4.8	0.8	100.0
50歳代	27.8	5.2	9.6	11.3	36.5	8.7	0.9	100.0
60歳代以上	16.4	10.4	6.0	16.4	46.3	3.0	1.5	100.0
不明	26.1	8.7	8.7	8.7	30.4	13.0	4.3	100.0
計	25.0	8.3	6.9	11.3	40.8	6.2	1.4	100.0

宿泊の予約方法については、30歳代以下の階層ではすべての階層でインターネットでの予約が6割を超えているのに対し、40歳代以上の階層では年齢が上がるごとに同値が低下し、60歳代においては1割に満たない(7.5%) (表3-11)。若年層におけるインターネット利用の突出は情報収集にも現れ、20歳代は64.2%の宿泊客がインターネットを利用したと答えている(表3-12、複数回答)。ただし、10歳代は家族や知人(30.4%)あるいは旅行会社(13.0%)を通して情報を収集したとしており、情報収集能力の未熟さが現れた。

表3-11 世代別の予約手段の割合

(単位：％)

	電話	インターネット	旅行会社	観光案内所	その他	不明	計
10歳代	22.4	67.2	6.0	1.5	3.0		100.0
20歳代	27.3	60.2	5.7		5.7	1.1	100.0
30歳代	17.5	62.5	12.5	2.5	5.0		100.0
40歳代	30.6	40.3	13.7	3.2	10.5	1.6	100.0
50歳代	27.8	32.2	24.3	7.0	7.8	0.9	100.0
60歳代以上	38.8	7.5	29.9	6.0	14.9	3.0	100.0
不明	34.8	26.1	17.4	4.3	8.7	8.7	100.0
計	27.8	43.6	15.6	3.5	8.0	1.4	100.0

表 3-12 世代別の情報収集源の割合

(単位：％、複数回答、括弧内は宿泊組数)

	テレビ・ラジオ	新聞・雑誌	インターネット	旅行会社	知人・家族	職場	その他	事前情報無し	無回答	計
10歳代	8.7		8.7	13.0	30.4		4.3	4.3	39.1	108.7 (23)
20歳代	4.5	14.9	64.2	4.5	13.4		1.5	9.0	3.0	114.9 (67)
30歳代	1.1	18.2	55.7	1.1	19.3	3.4	4.5	9.1		112.5 (88)
40歳代	5.0	25.0	55.0	2.5	20.0	2.5	2.5	5.0	2.5	120.0 (80)
50歳代	3.2	21.8	37.9	8.1	22.6	1.6	3.2	13.7	3.2	115.3 (124)
60歳代以上	5.2	14.8	31.3	15.7	20.0	0.9	5.2	13.0	5.2	111.3 (115)
不明	1.5	10.4	6.0	22.4	38.8		10.4	17.9	1.5	109.0 (67)
計	3.7	17.2	39.9	9.2	22.3	1.4	4.4	11.2	4.3	113.7 (564)

年齢階層別の差異で、最も重要な点は彼らの居住地（出発地）である。10 歳代の宿泊客の 17.9%が宿泊地の選考理由に自宅からの近接性を挙げたことに代表されるように、10 歳代、20 歳代の若年層は自県内あるいは近隣県からの旅行者が多く、移動距離や移動時間にかかる費用や時間を節約する傾向にある（表 3-13）。一方、30～50 歳代は関東県からの旅行者が多くなっており、旅行の行程自体を行楽と考えている。60 歳代は、上山市内からの宿泊が 1 割を超えるが（13.4%）、これは、経営者へのインタビュー調査によれば、友人同士による忘年会や収穫後の休息をかねた宿泊によるものである。反面、60 歳代のおよそ 2 割（19.4%）は東北、北陸、関東以外の県を発地としており、広域からの集客ターゲットとして期待できる。

表 3-13 世代別の居住地（出発地）の割合

(単位：％)

	上山市内	山形市	その他山形県	宮城県	福島県	その他東北	北陸	関東	その他	不明	総計
10歳代	6.0	13.4	9.0	23.9	7.5	6.0	4.5	22.4	4.5	3.0	100.0
20歳代	1.1	10.2	4.5	20.5	12.5	4.5	3.4	31.8	6.8	4.5	100.0
30歳代	1.3	2.5	7.5	21.3	6.3	8.8	2.5	43.8	5.0	1.3	100.0
40歳代	2.4	8.9	6.5	13.7	6.5	3.2	5.6	37.9	8.1	7.3	100.0
50歳代	2.6	7.0	9.6	7.8	7.0	7.0	0.9	47.0	9.6	1.7	100.0
60歳代以上	13.4	9.0	9.0	11.9	1.5	3.0	1.5	26.9	19.4	4.5	100.0
不明	4.3		13.0	4.3	4.3			13.0	8.7	52.2	100.0
計	3.9	8.0	7.8	15.2	6.9	5.1	3.0	35.5	8.7	5.9	100.0

第3章 宿泊客の動向

⑤地区別の差異

上山市の温泉街は成立・発展の経緯と地形的な要因から湯町、新湯、葉山の3地区に区分されているが、湯町での調査協力旅館が1軒であったことから湯町と新湯をまとめ、葉山との比較を行った。

葉山は他の2地区に比べると成立の歴史が浅く、革新的な地区である。中心市街地への近接性も低い。そのため、当初より宿泊者の行動パターンには差異が生じやすいことが予測できた。調査結果に現れた顕著な差異をまとめると、旅行目的については、葉山での宿泊客の54.1%が休養目的であったのに対し、湯町・新湯では観光目的と休養目的の比率が逆転し、観光を目的とする宿泊客が41.6%となり最多を示した（表3-14）。また、宿泊地の選定理由は、葉山では50.3%が旅館の魅力と答えたのに対し、湯町・新湯では目的地への近接性が35.6%で最多となり、観光地の魅力も葉山を上回った（表3-15）。

表3-14 地区別の旅行目的の割合

（単位：％、括弧内は宿泊組数）

	観光	業務	休養	冠婚葬祭・法事	その他	不明	計
湯町・新湯	41.6	4.0	34.8	4.8	12.0	2.8	100.0 (250)
葉山	31.5	4.1	54.1	2.5	6.4	1.3	100.0 (314)
計	36.0	4.1	45.6	3.5	8.9	2.0	100.0 (564)

表3-15 地区別の宿泊地選定理由の割合

（単位：％）

	目的地に近い	自宅に近い	知人がいた	観光地としての魅力	旅館・ホテルの魅力	その他	不明	計
湯町・新湯	35.6	8.4	6.4	12.8	28.8	6.4	1.6	100.0
葉山	16.6	8.3	7.3	10.2	50.3	6.1	1.3	100.0
計	25.0	8.3	6.9	11.3	40.8	6.2	1.4	100.0

立地場所の違いとして気になる訪問した観光地の数と土産の種類については、葉山の1回答者当たりの訪問地数は1.45カ所で湯町・新湯の同値が1.59カ所となり、中心市街地への近接性が館外行動に対する積極性と関係していることが分かったが、1回答者当たりの土産種類に関しては、葉山（1.24種）が湯町・新湯（1.11種）を上回った。これは、館内の土産販売施設の充実によるところ

が大きいと考えられる。なお、両地区間における季節別の差異は観察されなかった。

世代間の差異を見ると、最多年齢階層は葉山が40歳代(22.6%)、湯町・新湯が50歳代(24.0%)となった(表3-16)。各年齢階層の値を比較しても、葉山よりも湯町・新湯の方が高齢化していると言える。しかし、リピーター客の割合は葉山(58.3%)が湯町・新湯(50.0%)を上回る(表3-17)。宿泊客全体では、若年齢層は一見客、壮高年齢層はリピーター客の傾向が観察されたことを考えると、湯町・新湯には全体的傾向とは異なる壮高年齢層の一見客が集中していると言え、同地区固有の集客ターゲットとして着目できる。

表3-16 地区別の年齢構成割合

(単位：%)

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代 以上	不明	計
湯町・新湯	9.6	16.4	14.8	21.2	24.0	10.4	3.6	100.0
葉山	13.7	15.0	13.7	22.6	17.5	13.1	4.5	100.0
計	11.9	15.6	14.2	22.0	20.4	11.9	4.1	100.0

表3-17 地区別の一見客とリピーター客の割合

(単位：%)

	一见客	リピーター客	不明	計
湯町・新湯	49.2	50.0	0.8	100.0
葉山	39.8	58.3	1.9	100.0
計	44.0	54.6	1.4	100.0

注

- 1) 観光政策審議会の1970年答申では、観光は「自己の自由時間(＝余暇)の中で、鑑賞、知識、体験、活動、休養、参加、精神の鼓舞、生活の変化を求める人間の基本的欲求を充足するための行為(＝レクリエーション)のうち、日常生活圏を離れて行った自然、文化等の環境のもとで行なおうとする行為」とされているが、1995年の答申では、「余暇活動の中で、日常生活圏を離れて行う様々な活動であって、触れ合い、学び、遊ぶということを目的とするもの」となっており、具体的な行為は示されなく

第3章 宿泊客の動向

なった。それだけ、「観光」という言葉が意味する内容が多岐にわたるようになったということであり、「観光」の定義は、同語を提示する側やそれを受け取る側の判断に任されるようになったと考えられる。

- 2) 2013年3月にひとまず平成24年度分のアンケート調査結果をまとめ、2012年8月、9月に行った経営者インタビューの調査結果とともに、「上山市観光動向調査」の中間報告を上山市役所の会議室で行った。日時は2013年4月23日の14:00～16:00で、対象としたのは上山市職員と上山市の宿泊業者（約20人）である。

参考文献

観光政策審議会 1995. 今後の観光政策の基本的な方向について（答申第39号），国土交通省．

観光政策審議会 1970. 国民生活における観光の本質とその将来像（答申第9号），国土交通省．

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

前章までの分析から、今後の上山市の観光を考えるためには、20歳代の若者の行動を把握することが必要であると考えられる。本研究では、山形大学の学生を実際に上山市に送り込み、彼らの目線による上山観光の実態調査を行った。本章では、事後に提出された彼らのレポートを掲載する。

1 湯町地区

①花明りの宿『月の池』 宿泊日 2014年1月18～19日

報告者：2年 平花菜，3年 清水祐司郎

②『ふち金旅館』 宿泊日 2014年1月19～20日

報告者：4年 佐藤友美，桑原博子

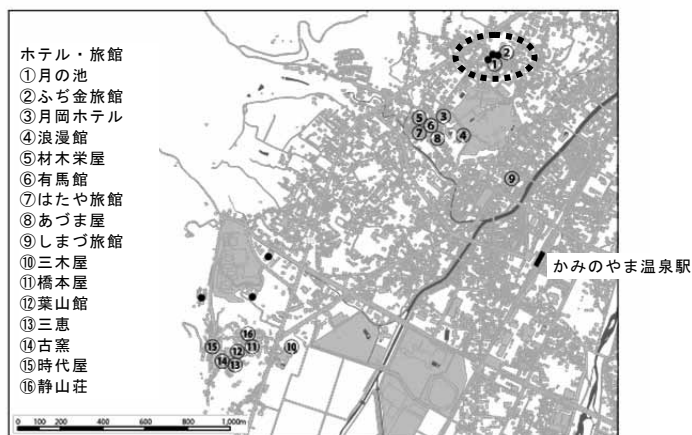


図4-1 湯町地区の協力旅館

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

一泊二日かみのやま温泉ぐるり旅 ～カップルで行くかみのやま散策のすすめ～

清水祐司郎，平花菜

1 宿泊した旅館の名称

花明りの宿 月の池 宿泊日 2014 年 1 月 18～19 日

1 日目の行動記録

9：25 仙台市内の自宅を出発
(平)

↓ 自転車

9：41 JR 仙山線東照宮駅
山形方面(下り)普通電車出発(平)

↓ 電車(平)

10：30 山形市内の自宅出発(清水)

10：57 JR 山形駅到着(平) ↓

11：00 合流

12：13 JR 奥羽本線(山形線)山形駅
福島方面(上り)普通電車出発

↓ 電車

12：26 JR かみのやま温泉駅到着

12：40 ラーメンやぶそばにて昼
食【ラーメン，塩ラーメン】

12：15 だんご本舗 たかはし
【黒いどら2個，ドーナツ2個購入】

13：26 かみのやま駅前バス停

↓ 市営バス

13：31 高松葉山温泉バス停留所

↓ 徒歩



写真1 意地で辿り着いた恋人の聖地



写真2 上山市営バス

14:20 花咲山展望台

15:00 カフェレストン【フルーツケーキセット、フレンチトーストセット】

16:00 春雨庵

16:30 月の池 チェックイン

↓ 休憩, 浴衣選び, 着替え

18:00 お風呂

18:30 夕食

21:00 平→エステ, 清水→部屋でテレビ

↓ 1日のまとめ&2日目の予定立て

22:30 お風呂

23:30 夜食【黒いどらと夕食時にもらったおにぎり】

24:00 就寝

2日目の行動記録

8:00 起床

8:30 朝食

10:20 チェックアウト

↓ 旅館の売店で土産選び, 写真撮影



写真3 部屋の様子



写真4 折鶴脇のかみのやま温泉の源泉

10:50 旅館出発

11:00 武家屋敷 散策

11:10 折鶴【クリームあんみつ】

11:30 上山城 かかし茶屋【玉こんに】

12:00 十五屋【いちご大福】

12:30 長屋門ギャラリー

12:50 まち Cafe2011【プレミアムどんどん焼き, チーズ入りどんどん焼き】

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

- 13:20 ショッピングセンター カミン
13:30 アトリエコロボックル
13:50 栗川稲荷神社
14:30 中華料理 新華楼【チ
ャオジータンメン, チューロースメン】
15:10 だんご本舗 たかはし
【黒いどら4個購入】



写真5 まち Cafe のどんどん焼き

- 15:25 JR奥羽本線（山形線）かみのやま温泉駅
新庄方面（下り）普通電車出発
15:38 JR山形駅到着
15:43 JR仙山線山形駅
仙台行き（上り）快速電車（平）
↓ 電車（平） 16:00 帰宅（清水）
16:57 JR仙山線東照宮駅到着
↓ 自転車
17:15 帰宅（平）

2 宿泊した旅館に関する事前情報

かみのやま温泉の湯町地区の温泉旅館。花をモチーフにしたオブジェが館内のいたる所に飾られ幻想的な雰囲気である。四季ごとに変わる地元の食材にこだわった郷土懐石料理や、源泉かけ流しの桧露天風呂などが大きな魅力として挙げられる。2013年発行の『マップルマガジンまっふる 温泉&やど 東北』では、山形・かみのやま温泉のコーナーで二番目に紹介され、記事の大きさ（7枚のカラー写真掲載）や月の池に宿泊経験のある読者の声が掲載されていることもこの宿が好評価であることを物語る。

月の池の公式ホームページは料理や館内の画像が多く掲載されていて、全体的に高級で華やかな印象を受けた。美味しそうで綺麗なお料理、館内やお風呂の独特の雰囲気、それらが違う世界を作っているようでため息がでた。幻想的過ぎてこんな夢みたいな宿が本当にあるのかと不安になり気後れする部分も出てきたくらいだった。

(ツール：月の池ホームページ <http://www.tsukinoike.co.jp>)

昭文社『まっぷる 温泉&やど 東北』月の池掲載ページ59頁)



写真6 月の池入り口

3 上山の観光について

上山市は山形県の南東部に位置し、城下町・宿場町・温泉街の3つの面を兼ね備えた都市である。開湯から今年で555年を迎える温泉街は昔ながらの湯町、昭和に繁栄した新湯、新しくて大規模な宿が多い葉山、の大きく3つの地区に分かれていて諸所に足湯がある。山形県観光物産協会のホームページによると、観光の



写真7 上山城

ページで最初に出る「斉藤茂吉記念館」、「蔵王のお釜」、「檜下宿」あたりがおすすめなのだろうか。しかし調べてみると「お釜」と「檜下宿」は自家用車がない観光は難しいようだ。他の観光地は「上山城」とその中の「郷土資料館」、沢庵和尚が暮らした「春雨庵」、中国の明・清時代の漆工芸品や日本の刀剣などが展示された「蟹仙洞博物館」、上山市の指定文化財である「武家屋敷」があ

る。

調べてみると建築物がそれぞれ歴史を感じさせるもので、現代生活の中ではなかなか見ることでできない雰囲気があって良いと思った。「上山城」、「蟹仙洞」、「春雨庵」、「武家屋敷」辺りは徒歩観光圏内で町歩きに丁度いい距離だが、アレンジのきかないコースになりそうだ。また気になったのは観光物産協会のホームページの中で、おすすめの観光地が掲載されていないこととその観光地を観光するときの所要時間が書いていないことで、それがわかれば観光コースを考えるのにとっても役に立つと思う。

(参考：山形県上市市観光物産協会ホームページ <http://kaminoyama-spa.com/>)

4 予定していた観光

〈1日目〉a. 花咲山展望台 b. カフェクレストン

a についてはかみのやま温泉観光物産協会のホームページで見て決めた場所である。決め手は眺めが良いことと「恋人の聖地」であることだった。地図で場所を見ると葉山温泉街からかなり近そうで、調べると葉山温泉街から徒歩20分とあったため山の上でも簡単にたどり着けそうだった。実際に行ってみるとまず



写真8 カフェレストランのフレンチトースト

葉山温泉街の坂を上りきった後からしか展望台への道案内がないため、そこに行くのにまず迷う。そしてその案内板から展望台まで20分と書いてあったが40分は掛かった。多少雪があったのと写真を撮りながらだらだらと登ったせいもあるが、20分では登れない人の方が多いのではと思った。展望台の眺めはとても良く、他の観光客もいなかったためカップルが頑張って登るには良いところだと思った。ただ、歩きやすい靴と万全な体力が必要な観光スポットなのは言うまでもない。

bは事前指導でいただいた『とうるとうる』のスイーツめぐりのコーナーで紹介されていた記事を読んで決めた場所だ。ここは観光とは違うかもしれないが雑誌で紹介されていたフレンチトーストがとても美味しかったためここで特筆した。値段は学生には少し高めかもしれないが、葉山地区に泊まる方にはぜひ食べてほしい絶品のフレンチトーストである。

〈2日目〉c. 栗川稲荷神社

cは事前指導でいただいたかみのやま温泉の観光ガイドマップに載っていたのを見て決めた。平が個人的に稲荷神社好きなので行ってみようと思っただけで半ば無理に2日目の観光ルートに付け加えた。実際に行ってみると場所がかなり分かりにくかった。いまある案内板よりもっと手前に「あと〇m先右」などの案内板があると分かりやすくなると思う。境内は立ち並ぶたくさんの鳥居とうっそうとした木々で薄暗く、雰囲気のある神社だと感じた。



写真9 積雪と栗川稲荷神社



写真10 長門門ギャラリー入り口

5 予定していなかった観光

〈2日目〉長屋門ギャラリー

1日目はほぼ予定通りのコースで特に寄り道もなかったが、2日目はざっくりばらんに「十日町通りを散策する」予定だったので立ち寄ったお店はすべてその場で決めた。この長屋門ギャラリーはガイドマップにも載っておらず何のお店か分からなかったが、おしゃれな外観だったので覗いていたところをスタッ

フの方に呼びかけられお邪魔した。
ここはチーム・ラムという山形県出身のアーティスト集団の作品が展示・販売されている場所だ。とても気さくでちょっと変なスタッフの皆さんが和気藹々と説明してくれたり、羊毛フェルトアートの体験もできたりと楽しい場所だった。



写真 11 チクチクのお兄さんの成果を

余談だが、ここを出てから向かいのまちC a f e 2 0 1 1という喫茶店に行ったとき、そのときにお店の方とお客さんが「そのチクチクのお兄さんが……（※チクチクは羊毛を針で刺してフェルト地にする工程のことを指す）」と話しているのを聞いて地元の方同士のあたたかい繋がりが感じられ、いい町だなあと感じた。

6 提案されたオプションについて

〈月の池でのエステ（プチ・フェシヤル30分 5250円のコース）〉

エステの予約はチェックイン時に行い、夕食前の時間帯は全て予約が埋まっていたため、夕食後の時間にした。コースもその時に決めたのだが初めてということもあり仲居さんにおすすめをうかがうと「うーん」と首をひねられてしまい、こちらも



写真 12 エステルーム

「うーん」となってしまったので、ホテル側あるいは仲居さんの個人的おすすめがあったらさらに好感が持てるだろう。

担当のエステティシャンの方が部屋まで迎えに来てくださり、部屋に入ると静かに音楽が流れておりアロマの良い香りがした。マッサージ中は全身がふわ

一っと温まるのが感じられて気分が良くなり、終始「贅沢しているなー」と思っていた。担当の方が、せっかくなので思い言ってみた私の肌の悩み相談なども聞いてくださり、本当に良い方で、ありがたかった。

7 上山観光に対する率直な意見

上山はどこを見ても景色が良いと思える場所だった。町の中心にある上山城、雄大な蔵王山、坂の多い温泉街の風景、武家屋敷、趣のある商店街、その全てが自分の住む町にはないため普段とは違って楽しむことができた。十日町通りでは新しそうなお店でも外観も内観もレトロな雰囲気ですべて統一され



写真 13 雪と柳と赤い橋

ている。観光地の建物には木がよく使用されていて温かみのある印象を受けた。お店の方も町の雰囲気同様にあたたかくて気持ちの良い対応をしていただけたと感じた。

ただ、事前に調べていた観光協会のホームページに載っているお店（アトリエ S O U）が実際には見つからなかったり、ホームページがあるお店でも長い間更新されていなかったりしていたのでそこは改善してほしい。若い年齢層の方ほどホームページを見て訪れるお店や宿泊先を決めるため、ホームページがこまめに更新されているお店は好感度や安心感につながる。また、同様にインターネットを活用するならば、観光協会のホームページから協賛店で使えるクーポン券をダウンロードできるようにすればさらに、色々な場所へ足が伸びるかもしれない。食べ歩きだけでも思ったよりお金が掛かったので何十円引き程度でもありがたい。



写真 14 花懷石の一部

8 宿泊した旅館に対するコメント

中に一步入った瞬間から感動が止まらず、「とんでもない贅沢をさせてもらった」というのが率直な感想であり、その一言に尽きる。まずエントランスがホームページの写真と同じで本当に驚いた。ふわふわのソファで落ちつかないままチェックインをすると担当の方が平と同年でまた驚いた。お部屋はバストイレ付10畳の一般客室で、アメニティがとても充実していた。夕食は噂の花懷石でとにかく豪華でどれもこれも今まで食べてきた中で一番というほど美味しかった。一品ごとに料



写真 15 浴衣の無料貸し出し

理の説明があり、地元産の素材を使ったこだわりが感じられた。夕食後には夜食用のおにぎりもいただき、お腹は大変に満足した。お風呂もとても心地よく、露天風呂には笹の葉をモチーフにした一人用のお風呂もあり、そこは常にお湯が流れていて雰囲気も良かった。大きい露天風呂には和紙を加工して作ったような花型の明りが浮いており情緒があった。脱衣所にも部屋同様アメニティが充実していて思いやりが感じられた。宿では浴衣の無料貸し出しをしていて着付けの用紙もあって1人で着ることができ、これは本当に嬉しいサービスだ。

滞在中は仲居さんが一人担当としてついていてくれるので何か分からないことや聞きたいことがあればこの人に聞けばいいというのがあり安心した。また、チェックアウトまで宿の方が部屋に入らないため時間ぎりぎりまでくつろげる。本当に思いやりの行き届いた素晴らしい宿だった。

9 拡散について

二人ともSNSのツールを使っていないため拡散はしていないが、ツイッタードと写真とともにリアルタイムで拡散でき、不特定多数の人が見る可能性があるため有効な手段だと考える。

10 出費について

ゆかった手形4000円分はすべてエステ優待券として使った。

月の池→夕食時の飲料代1008円

エステ代5250円

合計 6258円⇒エステ割引で2258円

〈1日目〉

やぶそば→ラーメン600円、塩ラーメン600円 計1200円

だんご本舗たかはし→黒いどらチョコクリーム220円

黒いどらキャラメルマキアート200円

ドーナツいちご味130円

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

ドーナツチョコバナナ味 130円 計680円

上山市営バス→1人 150円 計300円

カフェクレストン→フレンチトーストドリンクセット 750円

フルーツケーキドリンクセット 700円 計1450円

〈2日目〉

月の池売店→おみやげ代 2385円

折鶴→クリームあんみつ 620円

上山城 かかし茶屋→玉こんに 1本 100円 計200円

十五屋→いちご大福 1個 150円 計300円

まちCafe 2011→プレミアムどんどん焼き 150円

チーズ入りどんどん焼き 200円 計350円

中華料理 新華楼→チャオジータンメン 800円

チューロースメン 950円 計1750円

だんご本舗たかはし→黒いどらつぶあん 160円

黒いどらいちごクリーム 180円

黒いどらチョコクリーム 220円

黒いどらモンブラン 250円 計810円

お安く楽しく！庶民派な旅を目指して

— “食” の 1 日目＜檜下＞と “湯” の 2 日目＜上山温泉街＞—

佐藤友美，桑原博子

1 宿泊した旅館の名称

ふぢ金旅館 宿泊日 2014 年 1 月 19～20 日

1 月 19 日（日）日程表

時間	行動	ゆかった手形	現金
9:35	山形駅発（JR 奥羽本線米沢・福島方面）		460 円
9:48	かみのやま温泉駅着 ロッカーに荷物を預ける		300 円
10:15 ～ 11:25	蟹仙洞見学（見学科：大学生 300 円） 蟹仙洞から檜下宿までタクシー移動（2650 円）	600 円 2600 円	50 円
11:40 ～ 13:10	檜下宿・大黒屋（ばあちゃんズクラブ 525 円コース：納豆焼餅・漬物・リンゴ・南瓜ムース）	1000 円	50 円
13:15 ～ 13:20	武田屋見学		
13:30 ～ 14:15	滝沢屋見学（見学科：大学生 150 円）	300 円	
14:30	檜下宿番所跡		
14:50 ～	こんにゃく番所着（蛸揚げ串：105 円，	2200 円	840 円

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

15:45	その他 735 円) タクシー移動 (2290 円)		90 円
16:00 ~ 16:15	長屋門ギャラリー見学		
16:30	ふぢ金旅館着, チェックイン		
17:30 ~ 18:10	入浴		
18:30 ~ 19:15	夕食		
20:00 ~ 21:10	外出		
21:15 ~ 21:40	入浴		
23:00	就寝		

1 月 20 日 (月) 日程表

7:00	起床		
7:30 ~ 8:15	朝食		
9:00	ふぢ金旅館出発		
9:10 ~ 9:20	湯町足湯		
9:25	湯町共同浴場 (休み。外観のみ確認)		
9:30 ~ 9:45	武家屋敷 (外観のみ) 見学		
9:50 ~ 9:55	月岡神社		

1 湯町地区

10:00 ～ 10:10	上山城足湯		
10:10 ～ 10:30	上山城売店（かかし茶屋）見学		
10:30 ～ 11:25	上山城郷土館見学（見学科：大学生 350 円）	700 円	
11:40 ～ 11:50	新湯足湯		
11:55 ～ 12:00	中条饅頭（中条まんじゅう：84 円）		168 円
12:10 ～ 12:20	前川足湯		
12:20 ～ 13:00	少々想定外の事態が起きたが、特に 問題はなし		
13:10 ～ 13:20	風月堂		
13:20 ～ 13:30	だんご本舗たかはし（ごまみそ：95 円，ゆずみそ+ホイップ：125 円）		220 円
13:45	上山市内循環バス乗車（運賃 170 円）		340 円
13:55	葉山着		
14:10 ～ 14:20	葉山足湯		
14:20 ～ 14:25	橋本屋（足湯スタンプラリー景品交 換）		
14:50 ～ 15:20	松茶庵（ランチメニュー：800 円ず つ）	600 円	1000 円
15:25	バス乗車南山形行き（運賃 170 円）		340 円

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

15:35	上山城口降車		
15:40 ~ 16:00	下大湯共同浴場（入浴料：150 円）		300 円
16:00 ~ 16:15	湯の上観音		
16:25 ~ 16:30	十五屋本店（苺大福：150 円，白餡まんじゅう：80 円，塩糰まんじゅう：100 円）		330 円
16:35 ~ 16:40	おくりびとロケ地		
16:45 ~ 16:50	だんご本舗たかはし（お墨付き饅頭15 個入り+1 個：1910 円）		1910 円
16:50 ~ 16:55	風月堂（御土産：840 円）		840 円
17:06	かみのやま温泉駅発（230 円）		460 円
17:18	山形駅着		

2 宿泊した旅館に関する事前情報

【住所】〒999-3156 山形県上市市湯町4-1 【TEL】023-672-0102 【FAX】023-672-5875

【客室数】8 室（和室）

【浴室】湯は無色透明。温度は熱め。ナトリウム・カルシウム-塩化物・硫酸塩温泉（上山温泉1号・2号源泉）。大浴場が1，小浴場が1，男女別内湯。

【料金】1泊2食付 8550 円（消費税込・入湯税 150 円込），日帰り入浴 400 円（営業時間 9：00～20：00）

【サービス】家庭的サービスと四季に応じた料理がおすすめ。お風呂はその日の状況により，大浴場・小浴場ともに無料で貸切りにすることが可能。

【情報源】「i タウンページ」<http://nttbj.itp.ne.jp/0236720102/index.html#basic>

【事前調査の感想】ふぢ金旅館そのものの HP を見つけられず、i タウンページや口コミ情報で旅館について簡単に調べた。いろんな人の評価を知ることができたが、旅館自身が発信した情報も知りたい。例えば今季の料理など。

3 上山の観光について

上山城と温泉がメインの観光地である。上市市街に点在する数多くの温泉を総称して「かみのやま温泉」と呼ぶ。150 円と安く利用できる共同浴場や観光客向けの日帰り入浴可能なサービスも充実している。

「かみのやま温泉—山形県上市市観光物産協会—」<http://kaminoyama-spa.com/>

「かみのやま温泉の観光・旅行情報—MAPPLE 観光ガイド」

<http://www.mapple.net/byarea/0202040300.htm/>



写真1 道路から見た蟹仙堂。

(中は見た目以上に広い)

4 予定していた観光

1月19日(日)

蟹仙洞と櫓下宿のみ予定を決め、あとは現地で決めようと考えていた。

8:13 山形駅発の電車で行く予定だったが、時間を変更し、9:35 発の電車で移動した。この日は朝から雪が降ったり止んだりと天気が落ち着かなかった。

蟹仙洞については、個人のコレクションの展示だと下調べの段階で知り、あまり期待はしておらず、櫓下宿に行く前の時間つぶしの考えだった。しかし、嬉しい誤算で、刀剣や漆彫りなど個人的には興味深い展示品を見ることができた。ただ、館内が寒く、ゆっくり見るという気にはならなかった。所々に設けられている暖かい和室の休憩所の存在は有難かった。

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

土日祝日は檜下までのバスが出ていないため、受付の方にタクシーを呼んでもらい、檜下宿まで移動した。タクシーの往復の移動代でゆかった手形（8000 円分）の半分が無くなることは予想していたが、それでも堪えるものがある。土日祝日にやって来る観光客は、交通手段が無いために檜下宿への来訪を諦めることが多いのではないかと感じた。

檜下宿の大黒屋では、ばあちゃんずくらぶの方に納豆焼餅と漬物などを出してもらえた。出されたものは全て檜下宿で取れたものらしく、味は美味しい。納豆餅を古民家の囲炉裏で焼いていただく経験は新鮮だったが、においに敏感な人は少々苦手かもしれない（納豆のやける匂いと燻されたような匂い）。貴重な体験をさせてもらえたが、やはり寒さが身にしみた。おばあちゃんずくらぶの方から昔の話なども伺えたが、ばあちゃんずくらぶの方も寒さに震えていて、少々申し訳ない気持ちになった。その後古民家をめぐった。滝沢屋はばあちゃんずくらぶの方が勧めてくれただけあり、綺麗な簪や文書など貴重な展示品を見ることができた。しかし、やはり寒さに集中力を奪われた。ゆっくり見たいというより早く帰りたくてしょうがなかった。滝沢屋では展示の解説をしていただいたが、申し訳ないことに正直あまり覚えていない。ただ、昔の人は寒さに強いなと思った。



写真2 囲炉裏で納豆餅を焼く様子



写真3 天井が高い古民家（大黒屋）の様子

1月20日（月）

足湯めぐりスタンプラリーをしようと前日の夜に決めた。

湯町の足湯に行き、近くに湯町共同浴場があるから行ってみようと足を運んだが、残念なことに休みだった。浴場の清掃をするとのことだ。湯町の方々が清掃をするらしいことをたまたまそこにいたおじさんに聞いた。

足湯をめぐって回ったが、非常に疲れることが分かった。スタンプラリーをやろうとすると上山城下町内は巡りやすいが、やはり葉山の足湯まで行くのは大変だった。足湯が目的で葉山に行き、何があるのだろうと思って見て回ろうとしたが、坂道が結構急で登る気が失せて途中で引き返した。途中にあった雑貨屋さんが気になったが、見ようという気になれなかった。というより、お昼を食べるのをすっかり忘れていたため、食事がしなかった。葉山は古窯や橋本屋などの高級そうな旅館があるだけで、あまり見応えのあるものはないと思った。

スタンプを集めた後、橋本屋で湯あがりタビと交換してもらった。ピンクと黒の色違いをそれぞれいただいた。橋本屋の暖簾に描かれているうさぎがタビにも描かれているため、交換場所によって柄が違うのだろうかとも興味を持った。



写真4 葉山の足湯から見た景色



写真5 橋本屋で手に入れた湯あがりタビ

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

5 予定していなかった観光

1月19日（日）

こんにやく番所と長屋門ギャラリーは道中で観光することにした場所である。また、夕食を食べた後に街中を歩こうと考え、上山城周辺を歩いた。

こんにやく番所は檜下宿に向かう途中に見えて気になり、檜下宿の後に向かった。檜下宿からこんにやく番所まで30分程雪道を歩いた。こんにやく番所はこんにやく尽くしで面白かったし、美味しかった。30分間雪道を歩いた後の体に、温かいこんにやく料理は最高だった。試食がたくさんあり、食欲と購買意欲が湧いた。丁度観光客の団体と来店が重なり、店内の賑わいがすごかった。

長屋門ギャラリーはふち金旅館に向かう途中にあり、何だろうと道路から中を窺っていたら、中にいた方に招かれたので入ってみた。そこは展示画廊らしく、その日は「チームラム」という芸術集団の展示が行われていて、最終日であるとのことだった。「ウールウール」という作品がとても可愛らしく、思わず夢中で見ていた。個人的には良い寄道ができたと思った。

夜の観光で楽しめる場所は、酒場と温泉とライトアップされた上山城くらいかなと思った。残念なことに旅館を出る際にタオルを持ち出し忘れてしまったため、温泉には入らず、上山城と酒場の



写真6 コンにやく番所でいただいた温かいこんにやく料理の1つ



写真7 長屋門ギャラリーのウールウール

通りを眺めて帰ってきた。上山城は昼間の印象とは異なり、神秘的な雰囲気だった。上山城から眺める夜景も綺麗だった。

1月20日（月）

足湯スタンプラリーの途中で見かけた、武家屋敷・上山城見学、中条饅頭、風月堂、だんご本舗たかはしなどの観光をした。

見応えがあるかといわれると微妙だが、個人的に上山城の展示は面白かった。食べ物は美味しかった。店内に喫茶的空間がある店が多いという印象を持った。ただ、歩きながら・・・という場合、ベンチとかちょっと休める場所がもう少しほしいと思った。



写真8 ライトアップされた夜の上山城

6 提案されたオプションについて

檜下宿でのばあちゃんずくらぶからのもてなしはとても美味しかったので良かった。ただ、参加するなら夏のほうがいいのかもしれない。冬に行くのはお勧めしない。行く場合は防寒対策をしっかりと行こうようにした方が良い。

足湯めぐりはスタンプがたまっていくのが楽しかった。ただ、スタンプをためるだけならわざわざ足湯に入る必要はないなとは正直思った（足湯のところにあるスタンプを押して回ればいいから）。



写真9 だんご本舗たかはしの「ゆずみそ+ホイップ」団子。

7 上山観光に対する率直な意見

全体的にどの観光施設でも街中でももてなされていると強く感じた。観光地の方々はとても親切で温かく感じた。

夜は手持無沙汰だった。歓楽街に出たいような気もしたが、駅前まで行かないとそういったものは無いようだった（ふぢ金旅館は温泉街にある）。そして、温泉に入ってしまうと本当にやることがないと思った。メインが温泉だから温泉で終わるべきなのかもしれないが、入れる温泉の数には限りがあるし、多くの温泉に入るということに面白みは特に感じなかった。

また、これは日曜日月曜日に宿泊したというタイミングの問題でもあるのだが、武家屋敷などの市で提案している観光地が月曜定休なのは勘弁していただきたいところだと思った。現地の人に伺った話では、有給を取って土～月と旅行に来る観光客は結構いるらしい。

「加勢鳥」のポスターがそこかしこに貼られていた。グッズとかあればほしいと思ったが、あまりなくて残念だった。かかし祭りや加勢鳥という面白い祭りが季節毎にあるなら、その時期限定に祭り関連商品があっても面白そうだった（例えば1月から3月まで加勢鳥のキャラクターグッズなどを季節限定発売し、レア商品感を出す）。

お土産品に上山市限定という感覚を感じるものが少なかった（ほとんどの市町村の場合そうかもしれない）。「山形」土産だと山形県内から来た人はお土産を買おうという気にはならないように思う。ただ、県外からの観光客がメインのターゲットならば致し方ないのかもしれない。



写真 1 紅花で漬けた沢庵

8 宿泊した旅館に対するコメント

とても親切に対応していただき、家庭的な温かさがあった。料理が美味しかった。紅花の漬物など山形らしさもあって良かった。半纏などの細かな気遣いが良かった。お湯の熱さに関しては予め心の準備をしていたつもりだったが、想像以上に熱かったことが面白かった。上がった後はいつまでもポカポカと体が温かくて良い。

9 拡散について

同じ演習を受講している友人に「上山行ってきた」と言ったら「ノロ（ウイルス）に巻き込まれなかった？」と返された。お土産に中条饅頭を買っていった。美味しいと食べてくれたが、「これノロ大丈夫な奴？」と聞かれた。少々心配になったが、大丈夫だと信じる。一か所でそういったことがあると、上山のもの全体的にそういう目で見られてしまうのだろうか。また、上山への旅行に興味をもったような感じはさほどないように思った。

Twitter で行動をこまめに発信していたが、フォロワーが 40 人強と少ないこともあり、ネット上での反応はほとんどなかった。一方で、サークル内で県内の温泉施設に泊まろうという話が持ち上がった際に、フォロワーの一人が「上山温泉」を候補に挙げてくれた。頭の片隅に残ると思うので、ポジティブな情報をこまめに発信することは重要だと感じた。

10 出費について

ゆかった手形

出費先	ゆかった手形金額（円）
蟹仙洞	600
タクシー代（蟹仙洞→檜下宿）	2600
檜下宿・大黒屋	1000
滝沢屋	300

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

タクシー代（こんにやく番所→かみのやま温泉駅）	2200
上山城郷土館	700
松茶庵	600
合計	8000

現金出費（2人合計）

出費先	金額（円）
電車代（山形駅→かみのやま温泉駅）	460
ロッカー代	300
タクシー代（蟹仙堂→檜下宿）	50
檜下宿・大黒屋	50
こんにやく番所（蛸揚串，その他）	840
タクシー代	90
中条饅頭	168
だんご本舗たかはし（ごまあん，ゆずみそ+ホイップ）	220
バス代（かみのやま温泉駅前→葉山）	340
松茶庵	1000
バス代（葉山→上山城口）	340
下大湯共同浴場	300
十五屋本店	330
お土産代（風月堂）	840
お土産代（だんご本舗たかはし）	1910
電車代（かみのやま温泉駅→山形駅）	460
合計	7698

2 新湯地区

③『月岡ホテル』 宿泊日 2014 年 1 月 17～18 日

報告者：2 年 神田大輔，長谷部雅人

④ニュー村尾『浪漫館』 宿泊日 2014 年 1 月 17～18 日

報告者：2 年 石塚沙羅，須貝奈緒

⑤木の香の宿『材木栄屋』 宿泊日 2014 年 1 月 18～19 日

報告者：2 年 C. N.， 3 年 H. O.

⑥展望露天の湯『有馬館』 宿泊日 2014 年 1 月 17～18 日

報告者：2 年 横尾莉紗，上杉香織

⑦『はたや旅館』 宿泊日 2014 年 1 月 19～20 日

報告者：3 年 森彩香，仲谷宗一郎

⑧天神の御湯『あづま屋』 宿泊日 2014 年 1 月 18～19 日

報告者：4 年 福岡麻美，Y. A.

⑨本陣『しまづ旅館』 宿泊日 2014 年 1 月 19～20 日

報告者：4 年 村井和樹，松田健吾

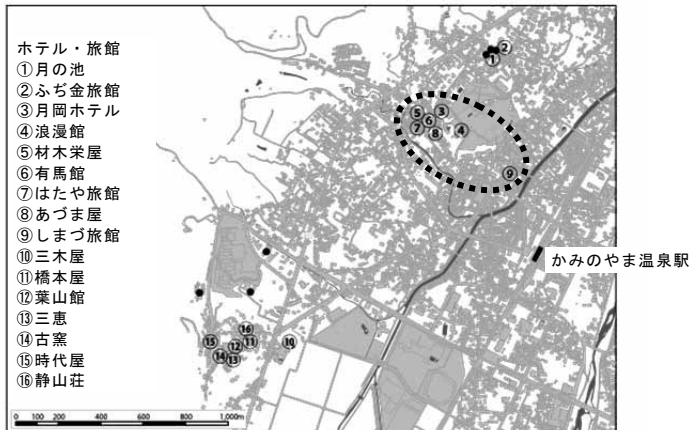


図 4-2 新湯地区の協力旅館

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

2014 年 1 月 かみのやま温泉宿泊レポート

—若年男性からみた上山観光—

神田大輔，長谷部雅人

1 宿泊した旅館の名称

月岡ホテル 宿泊日 2014 年 1 月 17～18 日

1 日目の行動記録—2014 年 1 月 17 日—

09:25 山形駅にて集合

09:35～09:48 奥羽本線米沢行に乗車，かみのやま温泉駅で下車

09:50～11:00 かみのやま温泉駅(貸ロッカーに荷物を預ける)→新湯地区→武家屋敷通り→湯町地区の順に散策・見学

11:00～12:00 上山城に入館，館内展示などを見学

12:20～13:30 そば店「味津肥廬(みつひろ)」(新湯地区)にて昼食

13:30～15:30 新湯地区→沢庵坂→春雨庵→栗川稻荷神社→(国道 458 号線)→高松葉山地区の順に散策・見学

その後，駅の貸ロッカーから荷物を取り出し，ホテルへ

15:30～17:30 ホテルにチェックイン，その後休憩・歓談

17:30～18:30 館内大浴場にて入浴

19:00～20:30 部屋にて夕食

20:30～ 部屋にて休息

24:00～ 就寝

2 日目の行動記録—2014 年 1 月 18 日

08:00 起床

08:10～08:40 館内にて朝食

08:50～09:30 館内大浴場にて入浴

09:40～09:50 館内売店にて土産物購入

10:00 チェックアウト

10:00～12:40 駅を経由(貸ロッカー使用のため)した後、高松葉山地区→
「花咲山」展望台(「恋人の聖地」認定地)の順に散策・見学

12:40～13:10 ラーメン店「山椒」(葉山地区)にて昼食

13:10～14:00 新湯地区を経由し、かみのやま温泉駅へ

14:22～14:34 奥羽本線山形行に乗車、山形駅(終点)で下車

14:35 解散

2 宿泊した旅館に関する事前情報

出発前に、観光物産協会や宿泊先のホテルのWebサイトを閲覧し、設備やサービスについて事前に調べた。その中でも、宿泊前後の流れを紹介したページは参考になった。

ただし、クチコミ情報などのユーザーレビューは特に調べなかった。

3 上山の観光について

何度か上市を訪れてはいるが、観光をテーマとして訪れたのは2回目である。前回訪れた際にある程度の予備知識があるため、過去に訪れた際のメモや観光案内所で配布されている案内地図を読み直すなどした。

冬季かつ市街地で行われるイベントが少ない日に行くこともあり、蔵王の樹氷を見学するプランも考えたが、最も手軽な市街地での観光に目的を絞ることにした。

4 予定していた観光

現地に行く前に宿泊先を調べた程度であったため、特に明文化された予定をたてて観光したわけではなく、以前訪れた時のガイドマップ等の事前情報を参考に、「上山らしい」場所を散策した。反省点として、出発前にある程度のプランを作成しておくにより良い観光になったのではないと思う。

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

5 予定していなかった観光

当初、葉山地区の「花咲山」展望台まで登ることは考えていなかったが、時間があつたためその先の葉山神社まで登ることにした。

6 提案されたオプションについて

観光物産協会から提案されたオプション観光について、ホテルを予約する時など、事前に予約できればより充実した体験などが可能であると思われる。しかし、多くが前日～5日、最長で1週間前に予約する必要があるため、現地でオプションの存在を知ったとしても体験することができない。「自由に」観光したい宿泊客に向けて、ホテルへのチェックイン時に申込みできるオプション観光が充実されていると便利ではないかとも言える。

7 上山観光に対する率直な意見

実際にかみのやま温泉(新湯・湯町・高松葉山の各地区)を観て回る中で実感した、外部からの来訪者の目線で温泉街・市街地に対する意見・感想をまとめた。

・かみのやま温泉駅前から新湯地区に通じる通りについて



写真1 新湯地区から駅前
方向の様子

2014/01/17

撮影:神田大輔



写真2 駅前から新湯地区
に通じる道路沿いの様子
(上の写真とは逆方向)

2014/01/17 10:10

撮影:長谷部雅人

平日の午前中ということもあってか、駅前から新湯地区に通じる通りがさびしく感じられた。とはいえ自動車が頻繁に通るため完全に人気(ひとけ)が無いというわけではなかった。休日など週に1度でよいので、各店舗が通りまで出てきて販売するなど、街が賑やかになりそうな企画をするとういと思う。また、団子屋やケーキ店など甘いものを取り扱う店舗が多かったのも、観光客の目に留まって宿泊先でお菓子を食するといったことも考えられる(ちなみに、同行人の出身地である石巻市では日曜朝に駅前広場で朝市を開催しているという)。

・廃業した宿泊施設の周辺環境について



写真3 廃業した宿泊施設
の付近

(一部画像加工)

手前右に足湯がある

湯町地区にて

2014/01/17

撮影:長谷部雅人

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

廃業した宿泊施設が何らかの景観対策をされることなく放置されている状況から、(これはもう仕方ないとしか言いようがないかもしれないが) やはり上山が全体的に寂れているという印象を受けざるを得なかった。美化されてあるとその印象は変わると思われる。荒れているところも少なくなかったので、荒らされたり盗まれたりしないように、そのような場所の監視(防犯対策)は強化した方が良くと思われる。

- ・映画『おくりびと』ロケ使用の店舗「上山コンチェルト館」周辺について



写真4 「上山コンチェルト館」

正面の様子

2014/01/18 10:36

撮影:神田大輔

店舗そのものと、『おくりびと』ロケ地」という解説と写真の看板2枚のみであり、何か物足りない気がした。作品そのものは上山が舞台ではないが、有名称かつ社会現象になった映画ということもあり、コアなファンが多いはずなので、ファンの意見を聞きながら街づくりに上手く組み込めると良いのではないかとと思われる。

ここからは、若年層(特に大学生)を上山に引き込む方策について記す。

- ・周辺観光地との連携

今回は上山市街地を中心に行動したが、実際には蔵王高原や山寺といった知名度の高い周辺観光地を経由してかみのやま温泉を訪れる、あるいは宿泊後に向かう旅程も考えられる。コース・プラン作りにあたって、上山周辺のみなら

ず、周辺観光地を組み込んだものがあるとより楽しめるのではないと思われる。

・「青春 18 きっぷ」ユーザーの取り込み

自分と同行人が「鉄道」という共通の趣味を持つこともあり、今回ついホテルの部屋や散策中に何度も趣味の話で盛り上がってしまった。その中で、「青春 18 きっぷ」を利用し何度か遠方へ旅行した経験から、同きっぷのユーザーを取り込んではどうかという話題になった。春・夏・冬の学校が長期休業となる時期に限って発売される「青春 18 きっぷ」であるが、最大の特長として、5 日(人)分 11,500 円、つまり 1 日(人)2,300 円で在来線普通・快速列車に限って乗り放題となることが挙げられる(2013 年夏季の場合)。新幹線を利用する場合に比べ何倍もの時間をかけて行き、その上早朝に宿泊先を出発することが多いため、目的地での滞在時間は短くなってしまう。その一方で、移動費を抑えた分、宿泊地や宿泊先にはこだわりたい(天然温泉のある旅館にしたい等)という需要はあるのではないと思われる。

・9 月上・中旬は、夏季休業期間中の大学生を取り込む

例年、先述の夏季「18 きっぷ」有効期限直前である 9 月上・中旬は大学の夏季休業期間と重なる。なおかつ、本州の JR 線特急指定席料金が閑散期料金(指定期間のみ、通常同料金より 200 円引)となる日が多く、お盆や小中学校の夏季休業と重なる 8 月に比べて一般の旅行者が少ないことから、混雑回避や交通費圧縮が可能である利点を生かし、同じ若年層の中でも大学生向けに特化したプランが考えられる。

8 宿泊した旅館に対するコメント

・安価な宿泊施設にはない「おもてなし」

チェックインから夕食の準備、撤収まで同じスタッフが対応し、些細なところまで気配りされていた。普段、安価で簡便な宿泊施設(ビジネスホテル等)に慣れているためか、きめ細やかで質の高いサービスが提供されることに新鮮さを感じた。

第4章 学生による上山温泉宿泊調査



写真5 ホテル客室内の様子(この客室は最大
6名まで利用可能という)

2014/01/17 撮影:神田大輔



写真6 「かかし祭」参加作
品の展示

「上山城」入口付近

2014/01/18 撮影:神田大輔

・環境保護意識の高さ

一般に、旅館・ホテルは外部から宿泊客を迎え入れる施設ということもあり、トイレットペーパーの残量があっても新しいものに交換したり、館内の照明を明るく見せたりするなど、資源を必要以上に使用する傾向があると言える。トイレットペーパーの使い切りや照明の一部消灯といった省エネルギーに加えて、夕食の食材の一部を米沢市にある自社農園で有機栽培されたものを使用するなど、ISO9001を取得しているということも相まって全体的に環境保護意識が高く感じられた。

・ホテルの売店について

驚いたことに、風呂上りにホテル館内売店でコーラを買おうとしたら、賞味期限が約2か月半過ぎていたものを販売していた。売れなかったのだと思うが、それでも期限が切れていたものは撤去して新しいものと交換してほしいものである。

9 拡散について

普段各種 SNS を情報発信するために利用していないため、実際に発信(拡散)は行わなかった。拡散の効果を高める方法として、つい写真を載せたいくなるような場所を作るなど、SNS 上で話題になるようなきっかけを用意する方法が考えられる。具体的には、上山市で行われている「かかし祭り」の優秀作品を市街地各所にある足湯付近に展示することが考えられる。左の写真は、十日町商店街から上山城郷土資料館への入口に展示されていたものである。

10 出費について

表:かみのやま温泉宿泊体験 「ゆかった手形」支出表(2名1組)

日付	場所	項目	1 名分	2 名分	使用枚数	負担
1/17	JR 奥羽本線	運賃 (山形-かみのやま温泉)	230	460	-	460
	上山城	入館料	400	800	8	0
	味津肥廬 (新潟地区)	板そば	930	1,860	18	60
	月岡ホテル	月山自然水(500 ml)	200	400	4	0
1/18	月岡ホテル	ビール(大瓶・夕食時)	840	-	8	40
	月岡ホテル	「樹氷ロマン」(2 箱)	1,480	-	-	-
	月岡ホテル	「中條饅頭 15 個入り」	1,260	-	-	-
	-	合計	-	2,740	27	40
	山椒 (葉山地区)	みそラーメン (辛みそ付)	650	-	-	50
	山椒 (葉山地区)	鳥中華ざる	700	-	-	0
	-	合計	-	1,350	13	50
	JR 奥羽本線	運賃 (かみのやま温泉-山形)	230	460	-	460
※金額は消費税(5%)を含む			使用枚数・金額合計		78	1160
			余剰		2	-
			当初枚数		80	-

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

上山温泉食べ歩きツアー

石塚沙羅，須貝奈緒

1 宿泊した旅館の名称

ニュー村尾 浪漫館 宿泊日 2014 年 1 月 17～18 日

1 日目の行動記録

11:30 出発→11:40 コンビニ前で待ち合わせ→山形 12:13 発→電車内でとうとうるを見て飲食店チェック→かみのやま温泉前駅 12:23 着→12:40 だんご本舗
たかはしで黒いどら焼きを 1 個ずつ購入→12:50 丸内牛肉店でコロッケを 1 個
ずつ購入→13:00 カミン探索→13:30
ジローズピザで昼食（ピザ×1，ドリ
ンク×2）→15:00 月岡公園で遊ぶ→
15:50 足湯（新湯）→16:20 ニュー村
尾チェックイン→17:30 足湯（ホテル
前）→18:00 十五屋本舗でケーキセッ
トを食べる→19:00 ホテルで夕食（～
20:30）→21:00 入浴→23:00 部屋で団
らん→1:00 就寝



写真1 ジローズピザ ハーフ&ハーフ

2 日目の行動記録

7:00 起床→8:00 朝食→10:00 チェッ
クアウト→10:30 上山城→12:00 湯ノ
上観音→12:30 果樹工房 YOSHIDA でお
菓子×3 を購入→12:40 鶴の休石・足
湯→13:00 武家屋敷→14:00 味津肥盧
で昼食（てんぷらそばと鴨南蛮）→



写真2 味津肥盧 てんぷらそば

14:45 栗川稲荷神社→15:15 おくりびとロケ地→15:20 大國屋菓子店でアップルパイ×2を購入→15:40 だんご本舗たかはしでお土産購入→16:02 かみのやま温泉駅発→16:05 齋藤茂吉記念館→17:18 山形着→18:00 帰宅

2 宿泊した旅館に関する事前情報

インターネットで検索し、ニュー村尾浪漫館の公式ホームページやじゃらん、楽天トラベルで情報を集めました。公式ホームページでは、旅館のコンセプトなど、どのように建てられた旅館なのかということ。ホームページのトップには、「モダン建築が夢見た、空間の美学」「かつての旅人が夢見た浪漫が、今も息づく」などのフレーズがあります。が、これにより旅館側が宿泊者に対し、旅館のどのようなところに注目して宿泊して欲しい、と考えているのかを知ることができたと思います。また、写真から、旅館の外観や温泉、宿泊するお部屋の様子などの情報を得ることができ、宿泊の期待が膨らむと思いました。その他にも、実習には直接関係しないのですが、様々な宿泊プランが写真つきで提示されていることで、宿泊者側からすると予算を考慮し、宿泊の具体的なイメージをもってプランニングできるのでとても役に立つと思いました。ただ、ホームページ自体が浪漫館を中心の押し出している様子だったので、宿泊者は、「全てのお部屋が浪漫館みたいなお部屋なのかな?」と期待し



写真3 エントランスの様子

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

てしまうのではないかと考えました。実際に私たちも浪漫館にあるお部屋にとまれるのかな、と考えていて、旅館に行ってスタッフの方に聞いてから知る、ということがありました。旅館の歴史を知らなければ、浪漫館のほうに期待し、勘違いして泊まりに来る宿泊者が出てくると思うので、そのあたりは、わかりやすく明記しておいた方が旅館に行ってから知る、といったことを回避できると考えました。しっかり読んでいれば分かることなのだと思いますが、旅館の歴史などは、よく読まれないお客さんも多いと推測できるので念には念を、と思います。

また、じゃらんや楽天トラベルでは、主に口コミを利用しました。旅館に宿泊した方のリアルな感想や持って行った方が良いもの、気を付ける事など、ホームページにはない情報を得ることができました。

3 上山の観光について

上山の観光全般については、上山観光物産協会のホームページで調べました。上山駅と旅館の間、その周辺を中心に観光の計画を立てました。上山観光をする際の見どころやイベント、食べ物について、お土産の情報がまとめて掲載されていたのでとても分かりやすかったです。モデルコースもあり、観光のコースを考えるのに参考にさせていただきました。見どころやイベントについては、画像と説明がありどんな雰囲気なのかを前もって知ることができたのですが、食べ物に関しては、お寿司やお蕎麦屋さん、カフェなど様々なものが紹介されていたので、現地でどのようなものが食べたいか前もって考えることができました。ところどころ画像がなかったところも見受けられたので、画像が載っていた方が観光者からすると、現地に行ったときにお店が分かりやすいと思いました。

4 予定していた観光

当初予定していた観光は、斉藤茂吉記念館や上山城郷土資料館、武家屋敷、おくりびとロケ地（アトリエ・コロボックルの森）、三島神社、月岡公園、春雨

庵，蟹仙洞でした。ほとんど行く事が出来たので，取りやめた計画は春雨庵と蟹仙洞ぐらいでした。上山城郷土資料館は，上山に関する内容が盛りだくさんで面白かったです。昔の遊びコーナーではつい童心に帰って，けん玉や折り紙に興じてしまいました。展望台では，かみのやまを一望することができ，近くにいた観光客の方たちも驚いていたので，かみのやまのみどころの一つとして押していくのがよいと感じました。武家屋敷も，実際に屋敷内に入ることができ，屋敷の詳しい情報も得られました。当時の建築に触れることができ，歴史に興味がある人もない人も楽しめると思います。

また，おくりびとのロケ地ですが正直「ふーん」という印象を受けました。思っていたよりもこじんまりとしていて，ただ看板が立っていただけだったからです。米沢市のスイングガールズのロケ地も似たようなものではあったのですが…。

春雨庵と蟹仙洞については，時間がなくて仕方なく取りやめました。タクシープランなどもあったみたいですが，大学生の費用としては，タクシーに乗るという選択肢はあまりないと思うので，自転車レンタルのプランを設けてみてはどうかと考えます。



写真4 上山城



写真5 おくりびとのロケ地

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

5 予定していなかった観光

現地についてから決めた観光は、足湯めぐり、栗川稲荷神社、湯の上観音、鶴の休石があります。予定している観光をしている途中に、「かみのやま温泉街歩きフリーマガジン とうるとうる」のまち歩きマップを参考にして近くにある神社や足湯によって行こう、ということになりました。足湯は、あまり目立つようになっていなかったもので、幟をたてるなどの工夫をした方が分かりやすいと考えました。栗川稲荷神社は当初は予定していなかったのですが、実際に行ってみると多くの赤い鳥居が連なっていてとても印象的でした。



写真6 栗川稲荷神社

6 提案されたオプションについて 4, 5に含みます。

7 上山観光に対する率直な意見

観光施設は少ないと感じましたが、徒歩が可能な距離範囲に様々なものが密集していたので、観光地は巡りやすかったです。事前に地図で見たときは観光スポットがもっと点々とあるものと想像していましたが、実際に歩いてみると意外と近くにいろいろなものがありました。そのため計画を変更して様々な場所を回ってみることが



写真7 マンホールのふた

できました。マンホールの模様も案山子になっていてかわいらしかったです。強いて言うなら、町中に観光マップがもう少し欲しいと思いました。また、観光中は、おすすめルートやどういう順番で巡ればよいのかを知りたかったです。

飲食店は、お蕎麦屋さんやお寿司屋さん、ピザ屋さんなど数多くの種類のお店があり、選択肢が多いのがうれしいです。食べ歩きできるくらいのお店の特集などを組み、食べ歩き専用の雑誌や冊子などを作成してみてもどうかと考えました。そのお店のおすすめ

や人気商品、ランキングなどを載せた一覧などがあつたら観光者側は、「行ってみたい!」という気持ちが起こるだろうと思います。また、各飲食店の予算も分かると嬉しかったです。初めて行く土地だとどのお店がどのくらいの料金で食事を出しているのかはほとんどわからないと思います。そのため、何店か気後れしてしまったお店もありました。都市部等のお店ならば「ぐるなび」などによって大体の予算は分かりますが、地方の飲食店は記載されていないことがほとんどです。もし予算が載っていれば食事先を決める際に大いに参考になると思います。

また、上山に到着して最初にだんご本舗たかはしさんに伺いました。最初は和菓子を食べるつもりで入ったのですが、黒いどら焼きを見つけそちらを買うことにしました。黒いどら焼きは見た目のインパクトもあり、上山市にしかないもの、と思い一番人気と二番人気の商品を購入しました。黒いどら焼きは味もさることながら、パッケージのデザインがとてもかわいらしかったです。味ごとに色合いが異なっていて、しかもたくさん種類がありどれを買うかとても



写真8 一番人気の生チョコクリームと二番人気の抹茶あずき

悩みました。抹茶や小豆だけでなく生チョコなどの洋風なものもあり、若い女性に受けるのではないかと思います。季節限定の種類も出ていたのが良かったです。また、お土産で箱入りのものを購入した際の箱もシンプルな黒でおしゃれでした。帰りにお土産として買っていき、アルバイト先に持って行ったのですが、とても好評でした。その際上山で買ったことを話したのですが、お客さん(50代～60代)は中條饅頭がお好きだとのことでした。

また、足湯に関してですが「水虫対策ってどうなっているんだろう」と少し気になりました。以前別の温泉地に行き、足湯に入ろうと提案したところ「水虫がうつるかもしれないから嫌だ」と同行者に断られてしまったことがあります。私自身はあまり気にしないのですが、旅館の温泉よりも不特定多数の人間が利用可能なものですし、やはり気になる人もいるのだろーうと思いました。もし対策等を行っているのであれば、その旨を足湯場の近くに表示してもらえると安心してはいることができると思います。



写真9 選べる浴衣

8 宿泊した旅館に対するコメント

スタッフさんの感じがとてもよかったのが印象深いです。お部屋に関してはとても広く衛生的でお布団もふかふかで気持ち良かったです。窓からは風景が一望できました。浴衣もいくつかの種類の中から選ぶことができ、女性にはうれしいサービスだと思います。また、竹久夢二ギャラリーにも行きました。旅館に宿泊しているのに、美術館や博物館に行ったような気分になれるのは旅館の魅力だと思いました。夕食も食べきれないほど様々なお料理がありとてもおいしかったです。しかし、家族連れや恋人同士で来る人、と様々な方がいて他のお客さんと一緒の大広間が苦手な方や、個室でくつろぎたい、という宿泊客の方もいると思うので、個人的に個室の方がいいなと感じました。また、浪

漫館についてですが、宿泊はできずともフロアの見学くらいはできるものと思っていたため、HP で見た美しい色つきふすまが見られず残念です。

9 拡散について

「上山温泉に行きたい!」「上山いいなー!観光案内して!」など、「上山温泉」に興味をもってもらえました。観光、宿泊した旅館に対するコメントもありました。拡散は主に Twitter を利用して行いましたが、ツイートを RT されたりお気に入りに入れられたりと反応は良かったです。特に反応の良かったものは、やはり食べ物の画像でした。わたしが載せた画像を見て、翌日以降の実習者がその商品を買に行ったり、飲食店へ行ったりということもありました。

いま、Twitter の情報拡散力は侮れないものになっています。上山市の公式 Twitter や上山グルメ bot などを作成してみてもいいのでしょうか。山形ラーメン bot というものがありますが、私自身その写真を見て実際に食べに行ったこともあ



写 10 ニュー村尾夕食



写真 11 大國屋菓子店とアップルパイ

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

ります。上山の飲食店等の食事の画像を流し、「このツイートを見た(RT した)人は〇円引き」等の使い方をするのも良いと思います。また、大手 Twitter アカウントでは「このアカウントをフォローして RT した人に〇〇をプレゼント」というツイートで爆発的な宣伝を行うものもあります。Twitter を効果的に使うことで、上山の情報が若い人々の目に触れる機会を増やすことができるのではないのでしょうか。

10 出費について

<ゆかった手形明細>

一日目

どらやき×2 400 円

コロッケ×2 300 円

昼食(ピザ×1+ドリンク×2) 2000 円

ケーキセット×2 1000 円

一日目計 3700 円

二日目

上山城入場料×2 700 円

こんにゃく×2 200 円

和菓子×3 400 円

武家屋敷見学科×2 400 円

昼食(天ぷらそば、鴨南蛮) 2100 円

齋藤茂吉記念館見学科×2 500 円

二日目計 4300 円

<実費>

上山城全国城地図×1 800 円

お土産代(だんご屋たかはし どら焼きセット)×1 1260 円

何度も入りたい温泉，一度でもいい観光名所

C. N., H. O.

1 宿泊した旅館の名称

木の香りの宿 材木栄屋 宿泊日 2014 年 1 月 18～19 日

1 日目の行動記録

9:10 起床

11:53 家を出発

12:13 山形駅を出発

12:25 かみのやま温泉駅に到着

12:36-13:15 新華楼で食事

13:26-13:57 上山城にのぼる

14:10 観音寺に立ち寄る

14:25-14:48 鶴の休石の前で焼き芋を食べる。月の池の売店による

14:54-15:54 武家屋敷を見学

16:03 ホテルに到着

17:00-17:40 貸切風呂で入浴

18:00-18:23 色浴衣の着付け

18:25-19:30 夕食

19:30-22:00 のんびり，明日の予定を立てる

22:00-23:00 大浴場で入浴

24:00 就寝

2 日目の行動記録

7:30 起床

8:00 布団あげ

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

8:06-8:54 朝食

8:54-9:55 出発の準備

10:00 チェックアウト

10:10-10:26 春雨庵

10:35-10:42 栗川稻荷神社

10:53-10:55 おくりびとロケ地

11:06 荷物をコインロッカーに預けるため駅へ

11:25-12:07 蟹仙洞

12:15-13:15 イビサで昼食、次の行先を相談

13:30-13:50 駅で休憩

13:50-14:07 駅前でお土産購入

14:13-14:38 カミンで休憩

14:41-16:40 まち café でお茶

16:30-16:48 アトリエ SOU で小物購入

16:57 駅に到着

17:06 かみのやま温泉駅を出発

17:37 山形駅に到着（電車が遅れた）

17:47 帰宅

2 宿泊した旅館に関する事前情報

使用したツール：パソコン・スマホ

得た情報の内容

材木栄屋 HP：①吉の湯をはじめとした温泉について。ただ「19時に男女時間交代制」とあったが、19時以降（あるいはそれ以前）は男女どちらが利用できるのかが記載されていなかった。②旅館の様子（見た目）について。温泉や客室の写真は多くあったが、旅館の外観の写真が少ないと感じた（スマホサイトでは確認できず、PCサイトでも一部外観が写ったものが1枚あるのみ?）。そのため旅館を見つけられるか少し不安になった。施設紹介という形ではなくて

も、「旅館へのアクセス」のページに外観の写真が1枚あっても良いと思う。
じゃらん・楽天トラベル：①客室の設備について アメニティの有無などが簡単にまとまっているので参考にした。公式ホームページにも設備に関する記載はあったが、じゃらん・無線LANの有無は公式ホームページ（スマホサイト）では確認できなかった。②フォトギャラリー 気になっていた外観の写真が複数あり参考になった。③クチコミ 比較的好意的なコメントが多く、また問題点として指摘されていること（階段の多さ・料理の盛り付け等々）の大半は自分にはあまり気にならないことだったので安心できた。

3 上山の観光について

使用したツール：パソコン・スマホ・フリーペーパー（とうるとうる）

かみのやま温泉 上山市観光物産協会 HP：①観光名所について 武家屋敷や蟹仙洞など趣ある木造家屋が目に残った。またモデルコースもあり、効率よく観光名所を回るためのヒントになった。②お土産について ほぼ和菓子だったので、もっと塩味のお土産を紹介してほしい。③食事について 調べようとしたものの、店に関する説明文や写真が無いお店が多かった。そのためイメージがつかめずあまり参考にはならなかった。

とうるとうる：①食事について テーマごとの特集（肉料理・麺類・スイーツ等）という形で紹介されており、参考になった。また旅館内にある飲食店だけではなく「地元のお店」が多く紹介されているのも好印象だった（旅館の食事のおしゃれさもいいけど、地元のお店のアットホームな感じも気になる）。②かみのやま温泉について 明治～昭和の上山の様子や現在のかみのやま温泉の取り組みなどがコンパクトに紹介されており、「そもそも上山がどういったまちなのか、町の空気のようなもの」を知ることができた気がする。

4 予定していた観光

武家屋敷めぐり・湯めぐり：絶対に行くべき観光名所・とりあえず間違いのない場所というのが思いつかなかったので、しっかり予定を立てるのではなく大

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

まかに目的を決め、あとは成り行きにまかせようということになった。

食べ歩き：食に関する情報はとうとうで得られたので、いくつか候補が上がった。ただ二人とも大食いというわけではないので、候補のお店すべてを回るつもりはなかった。①丸内牛肉店②龍園③笑福④だんご本舗たかはし⑤新華楼

実際行ってみての感想

武家屋敷めぐり：屋敷内が公開されている武家屋敷（三輪家）の一室は暖房がきいており、外の景色を見ながら長い時間を過ごした。昼食以後はほぼ外にあり身体が冷えていたため、暖かな部屋がありがたかった。もちろん屋敷の雰囲気も良く、休憩・観光が同時にできた場所だった。

温泉めぐり：1 日目は到着してすぐに貸切風呂に入浴させていただけることになったこともあり、温泉めぐりは見送った（貸切風呂で温まった後に寒い外を歩く気になれなかった）。夏なら浴衣でも外を回れるので湯めぐりもいいかなと思った。

食べ歩き：2 日目の実施を予定していた。しかし 2 日目は雪が降り風もしたたかったので歩きたくなくなり、ほぼ中止という形になった。夕飯もかみのやま温泉で済ます予定だったがそれも取りやめ、早めに帰ろうということになった（2 日目の湯めぐりも同じ）。

5 予定していなかった観光

上山城：歩いている途中に上山城が見えたので、そのまま行ってみようということになった。城の展望台に上り、そのあと城の中の博物館を見学した。博物館は何とも言えない感じだった。ただ展望台から見えた町の景色には少し感動した。

観音寺：人が集まっているようだったので、少し立ち寄ろうということになった。特に何をするというわけでもなく、境内にいた猫を観察したりして過ごした。ものの 2, 3 分いただけだった。楽しいというより癒された場所だった。

春雨庵：旅館を出た後地図を見ていると案外近そうだから行ってみようとい

うことになった。100 円を払い庵の奥の方に入った。狭い茶室や低いドア？をくぐってみたいと意外と遊べた場所だった。

栗川稲荷神社：1 日目の夜の相談で行くことを決めた。境内を散策していると意外にも人が多くいた。多くの鳥居があるなど雰囲気は良かったが、神社の建物の一部がビニールに覆われていたのが残念だった。

蟹仙洞：1 日目の夜の相談で行くことを決めた。意外と駅から近くにあるなと思った。ただ近いとは言っても看板などの目印がなかったため辿りつけるか少し不安になった。建物も西口とは違いみな似たような住宅ばかりなので余計にそう感じたのかもしれない。また蟹仙洞は展示ももちろん良いが、それ以上に建物や庭の雰囲気が気に入った。ここにも武家屋敷と同じように、暖房がきいており休憩のできる部屋があった。2 日目は寒かったのでなおさらありがたかった。

6 提案されたオプションについて

興味はあるものの、檜下宿や蔵王など距離や移動の面で少し躊躇してしまうものが多かった。まちなかでのんびり遊ぶ予定だったので今回は参加を見送った。またエステ興味はあったものの、別にかみのやま温泉でなくとも良いと思ったので体験しなかった（上山観光というより旅館のサービスという感じ）。ただ今回のようにまちなかではなく、主に旅館で時間を過ごす 2 泊 3 日ほどの旅なら体験してみたいと思う。

7 上山観光に対する率直な意見

気になった点・改善してほしい点：①蟹仙洞や武家屋敷などに限らず、十日町～下大湯あたりの古びた民家などの街並みがいい感じだった。ただその分雰囲気に合っていない看板などが目立っていた。②十日町は歩道が無く歩きにくかった。③夜に楽しめる観光スポットが意外と近くに無い。そのためホテルにチェックインした後は外に出る理由が無くなってしまった。ライトアップなど夜にも楽しめる何かがあれば良いと思う。④ゆかった手形が使えるお店や観光施

設に分かりやすい目印が欲しい。⑤2日目になるとどう時間を潰したらいいのか悩み始めた。特に困ったのが、おなかも空いていない・お茶をするにもまだ早い時間帯だった。飲食店以外に時間が潰せる場所があればいいと思う（別に観光スポットでなくとも、休憩できる場所など）。⑥町での観光は十分楽しめたが、次かみのやま温泉に来るときは旅館目当てになってしまうと思う。今回行った観光スポットは、何度も繰り返し行きたいような場所だったかといわれると正直微妙である。

良いと思った点：①旅館の方はもちろん、行ったお店人も皆いい人だった。人が温かい町だと感じた。次かみのやま温泉に行くなら、こうした人々にもう一度会いに行くのも良いと思った。②雪に対するマイナスイメージとは裏腹に、雪景色のかみのやま温泉の街並み・周囲の景色はやはりきれいだった（雪を活かした灯籠なども見てみたいという話にもなった）。③旅館とその温泉がやはり良かった。その分、他の旅館の温泉も気になったので、湯めぐりのためのフリーパスがあればいいと思った。

8 宿泊した旅館に対するコメント

感激したところ：①色浴衣や貸切風呂のサービスは予想もしていないことだったので感激しました（というかむしろ申し訳ないくらいでした）。②うまく浴衣の帯が結べなかったため、ダメもとで着付けを依頼したところ快く引き受けていただけたのも嬉しかったです。③普段、旅館に泊まることがあまりないので最初は少し緊張していた。ただ従業員の方々が良い人（アットホームな感じ）ばかりだったので、その緊張もすぐ和らぎました。④料理の豪華さにも感激しました。品数も十分すぎるくらいありました。その分食べきれず残してしまったのが少し心残りです。⑤一番楽しみにしていたお風呂は期待通りいいお湯でした。二人でずっと「お風呂から出たくない」と言いながら入りました。結局のぼせるまで入りました。⑥備え付けのシャンプー類がいい香りで嬉しかったです。あと洗うと髪がギシギシになるようなタイプじゃなかったのも幸いです。⑦コンタクトを入れる時、歯磨き、髪のセット等ことあるごとにトイレの

ある空間に入るのも嫌なので、洗面台がトイレと独立していたのがいいなと思いました。⑧敷き布団が薄いマットレスのような感じだったので、ベッドでなくても心地よく眠れました。

改善すべき点：①タイツだとスリッパをはいてもうまくフィットせず、階段をのぼる時滑って少し怖かったです。靴で言う中敷きの部分のグリップの効くスリッパだったら、という話をしました。②自分たちの飲み物等を入れるスペースがあまり無かったのが気になりました。③布団に入ってからしばらく携帯をいじっていたのですが、布団からコンセントが遠かったので、延長コードがあるといいなと思いました。

9 拡散について

twitter などで「かみのやま温泉の材木栄屋に行った」と言っても正直かみのやま温泉がどこか分かってない人の方が多い印象を受けた。旅館や観光協会のアカウントが無い場合、tweet を見てからネットで改めて調べようとする人は少ないと思う。そのため twitter (その他 SNS) のアカウントの開設はどれか一つでもしておくべきだと思う。

10 出費について

(ゆ) は、ゆかった手形使用分

1 日目

電車賃 230 円×2

新華楼のチャオジータンメン 800 円(ゆ)とレモンスカッシュ 400 円(ゆ)

上山城入館料 350 円×2

焼き芋 300 円

月の池でのお土産 400 円(ゆ)

武家屋敷入館料 150 円×2 (ゆ)

自販機の飲み物 150 円×2、120 円×1

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

2日目

春雨庵の入場料 100 円×2

蟹仙洞の入館料 300 円(ゆ)×2

イビサのパスタ 800 円(ゆ)ピザ 700 円(ゆ)

コインロッカー300 円

自販機の飲み物 120 円

駅前の店でのお土産 2,680 円

カフェでの紅花美人サイダー300 円×2 イングリッシュマフィン 400 円

アトリエ sou の真鍮の小皿 1,000 円

電車賃 230 円×2

合計 11,634 円(うちゆかった手形使用分 4,000 円)

※参考 特に気に入った場所の写真をいくつか紹介する



写真1 上山城からの眺め



写真2 下大湯近くの古い町並み



写真3 武家屋敷(三輪家)



写真4 春雨庵へ向かう途中にある橋



写真5 栗川稲荷神社



写真6 蟹仙洞

女子力と食欲を高める旅 in かみのやま温泉

横尾莉紗，上杉香織

1 宿泊した旅館の名称

展望露天の湯 有馬館 宿泊日 2014 年 1 月 17～18 日

1 日目の行動記録（図 1）

09:30 自宅出発（横尾）

09:50 自宅出発（上杉）

10:30 かみのやま温泉駅行きの電車乗車

10:42 かみのやま温泉駅到着

10:50 だんご本舗たかはしにて軽食（ほんてん黒いどら購入）

11:20 『おくりびと』ロケ地

11:30 長屋門アトリエ SOU

12:00 足湯（湯町）・鶴の休石

12:20 蕎麦処一休にて昼食（鴨せいろう・天せいろう）

13:30 武家屋敷通り散策

13:50 春雨庵

14:00 タクシー乗車

14:10 タケダワイナリー見学（ワイン 2 本購入）

15:05 タクシー乗車

15:15 有馬館チェックイン

15:20 旅館内で荷解き

16:00 月岡ホテル内「ほぐし庵」にてマッサージ（全身もみほぐしコース）

16:40 マッサージ終了

17:00 ホテル帰宅

17:30 入浴（大浴場）

19:00 入浴終了
19:15 夕食
20:30 夕食終了
20:55 入浴（予約制貸切露天風呂・天空）
21:25 入浴終了
23:00 就寝



図 1 1 日目の行動記録

2 日目の行動記録（図 2）

07:00 起床
08:00 朝食
09:00 朝食終了
10:00 有馬館チェックアウト
10:15 中條饅頭にて軽食（饅頭白餡・黒餡それぞれ 1 つ購入）
10:30 栗川稻荷神社参拝
10:45 二日町ふれあいの湯（外観を写真撮影）
10:50 上山八幡神社参拝
11:10 モントレーふくやにて軽食（ちくわパンのめんたいこ味購入）

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

11:20 行先の相談

11:50 ショッピングセンター・カミン

12:30 ジローズピザにて昼食（マルゲリータ 1 枚・珈琲・紅茶）

13:20 昼食終了

13:40 月岡神社参拝（お守り購入）

14:00 かみのやま温泉駅西側散策

14:40 丸内牛肉店にて軽食（コロッケ購入）

15:00 大國屋菓子店にてお土産購入（かりんとう・アップルパイ）

15:20 だんご本舗たかはしにてお土産購入（お炭付き饅頭）・軽食（だんご）

15:40 かみのやま温泉駅到着

16:02 山形駅行きの電車乗車

16:14 山形駅到着

16:23 新庄駅行の電車乗車（横尾）

16:55 自宅到着（上杉）

17:10 自宅到着（横尾）



図2 2日目行動記録

2 宿泊した旅館に関する事前情報

主に旅館の公式ホームページを閲覧し情報を得た。宿泊する旅館を決定する際に温泉の内容や宿泊する部屋の様子、また朝食や夕食の様子などを調べて有馬館に決定した。温泉の種類が豊富で、岩盤浴があることが決め手となった。また、温泉に宿泊する際はできるだけくつろいでゆったりと過ごしたいと考えていたため、いかにも旅館といった風情の部屋や、食事を部屋まで運んでもらえる点を非常に気に入った。

3 上山の観光について

主に上山市観光物産協会の公式ホームページ及び『月刊山形 ZERO23 Vol.163 11月号(2013)』から情報を得た。ホームページでは「食べる」「遊ぶ」「お土産」など項目ごとに観光できる店がまとめてあり、その中から興味を惹かれた場所をピックアップし、予定に組み込んだ。項目別にまとめてあるため見やすく、またその店についても詳しい情報が記載されていたため、自分が行きたい・やりたいことを効率よく調べることができた。特に『かみのやま温泉 旨いものマップ』にはかみのやま温泉街周辺の蕎麦屋・ラーメン屋・定食屋・居酒屋といった食事処の場所が地図上に示され、定休日や営業時間、メニューの説明等が記載されているため、昼食場所を選ぶに役立つ。このマップは印刷すれば A4 用紙 1 枚に収めることができるため、持ち運びも可能である。『月刊山形 ZERO23 Vol.163 11月号(2013)』では、山形県内の温泉地特集が掲載されており、そこで上山温泉の泉質や温泉街周辺の飲食店等の情報を得た。

4 予定していた観光

現地に行く前に予定していた観光は、1 日目がだんご本舗たかはし、『おくりびと』ロケ地、長屋門アトリエ SOU、蕎麦処一休、武家屋敷通り、浅上餅屋、タケダワイナリー、月岡ホテルマッサージの 8 つである。

だんご本舗たかはしは、駅の目の前にあるので見つけやすかった。またどら焼きや団子をはじめとした和菓子類が売られており、私達以外にもお土産を買

う客が複数見受けられた。ここで販売されているほんてん黒いどらは餡の味が何種類もあり、中には寒天を使っているものもあるなど、良い意味で想像を超えた和菓子だった。イートインスペースもあるため、休憩がてら寄って行くのにちょうど良い。『おくりびと』ロケ地は、予想していたよりも小規模で、最初はどこにあるかわからないほど周囲の住宅の風景に紛れてしまっていた。実際に撮影で使われた家に入ったりすることができるわけではないため、『おくりびと』の大ファンでない限りあまり楽しめないように感じた。長屋門アトリエSOUは、「ウールウール」という羊毛フェルトを使った作品が大量に展示されており、また販売や羊毛フェルト体験も行っているようだった。今回は時間とお金がなかったため何も買わず、また体験もせずに見ただけで出てきてしまったが、機会があればまた訪れて今度は体験をしたいと感じた。昼食をとった蕎麦処一休は上山でも人気の店らしく、昼食時には行列ができるほどらしいが、運良く並ばずに入れた。店内では蕎麦粉を挽いている様子が見られるようになっている。店舗はすべて座敷で民家のような雰囲気があって居心地も良く、くつろぐことができる。注文した鴨せいろうについてきた薬味のゆずめんたいこがとても美味しく、蕎麦自体の味もよかったため、上山の味覚の一つを満喫できたように思う。

上山市から提案されたオプション観光では、タケダワイナリーと月岡ホテルのマッサージを選択した。タケダワイナリーには当初歩いて移動する予定だったが、場所を勘違いしていたため、タクシーを使って移動した。ワイナリーでは、最初にワインセラーとワインの製造過程を見学した後、試飲に移るという流れだった試飲をしながら案内してくれた従業員の方と世間話をすることができ、充実した時間を過ごすことができた。しかし、場所がかみのやま温泉駅から少し離れているため、旅館に泊まったついでに行くというのは少し難しいかもしれないと感じた。

月岡ホテルのマッサージはオプションの一覧にあったので、全身もみほぐしコースを選択し、利用してみた。しかし学生にとっては料金が高いため、クーポンが無ければ利用しなかったと思われる。マッサージ自体にはとても満足す

ることができたが、クーポンについての話がホテル側からマッサージ担当の方に伝わっていなかったため、会計で手間取ってしまった。

現地で取りやめた観光は、ほそえ商店での焼き芋と浅上餅屋である。それぞれの店舗付近を散策したのは昼食前後の時間であり、空腹状態ではなかったため取りやめてしまった。

2 日目の観光は中條饅頭、栗川稻荷神社、カミン、モントレーふくや、ジローズピザ、だんご本舗たかはしの 6 つである。中條饅頭は旅館の近くに店があったため、予定に組み込んだ。餡は甘すぎず、さらに店舗正面にある煙突から湯気がでていたため、より温泉饅頭らしさを感じられた。栗川稻荷神社は、とうとうのマップに大きく掲載されていたため、訪れてみた。参道はあまり整備されておらず、壊れかけた鳥居や伸びきった雑草が気になった。しかし、予想していたよりも大きな神社であり、鳥居が並んでいる様子は圧巻だった。モントレーふくやは、ちくわを使ったパンをメインに展開しているパン屋で、その味は個性的でどれを購入するか迷ってしまうほどだった。モントレーふくやの従業員の方々はとても優しく、実習である旨を説明し、店内の撮影をしたいと申し出たところ、快諾してくれた。消していたショーケースやツリーの照明までわざわざ点けてくれるなどとても優しかったため、, 上山市に行く機会があればまた訪れたいと感じた。昼食をとったジローズピザは、一戸建ての住宅を改装して営業しているピザ専門店で、店内はとてもおしゃれで落ち着く空間だった。玄関を開けるとまず目に入るのは薪ストーブ、席につくと今度は石窯が見えるなど、普段目にすることがない光景にととてもわくわくした。窯で焼いたピザは本格的でとても美味しく、昼食を楽しむことができた。ここでも従業員の方に店内の撮影に関して尋ねたところ、快く承諾してくれた。

5 予定していなかった観光

現地に行ってから決めた観光は、湯町の足湯・鶴の休み石、春雨庵、上山八幡神社、月岡神社、丸内牛肉店、大國屋菓子店、二日町ふれあいの湯の 6 つである。これらはほとんど上山温泉街の周辺を散策していたら偶然通りかかった

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

ため立ち寄った場所であるが、月岡神社に関してはマップに載っていたため向かうことにした。湯町の足湯・鶴の休み石は、旅館がある新湯地区の方へ向かっている際に通りがかったため、せっかくだからと寄って行った。風が強く、少し寒かったが、お湯の温度が高かったため温まることができた。しかしやはり冬場はストッキングを着用している女性が多いため、衝立等が必要だと感じた。月岡神社は神社自体が大きめのもので、社務所ではお守りなどを販売していた。私たちが訪れた時は観光客はほとんどいなかったが、上山城のすぐそばという地理的条件からも、多くの人が参拝に訪れるのではないかと感じた。丸内牛肉店は「コロッケ」という単語につい引かれてしまい、立ち寄った。店主らしき男性が「時間があるなら揚げたてのコロッケだせるよ」と声をかけてくれたので、店内の飲食スペースで揚げたてのコロッケを食べることができた。コロッケを食べながら、様々な話をするのができ、現地の人と交流することの楽しさを感じることができた。大國屋菓子店は、駅でもらったパンフレットを見て、おみやげを買うために来店した。店内の電気はついていてのだが入り口にカーテンが引いてあり、入ってよいのか多少戸惑った。入ってみると奥から従業員が出てきて対応してくれた。何故カーテンが引いてあったのかは不明だが、開店中にカーテンを引くべきではないのではないかと疑問に感じた。

6 提案されたオプションについて

タケダワイナリーの見学と月岡ホテルのマッサージを利用した（詳細は6に記載）。

7 上山観光に対する率直な意見

一昨年（2019年）の11月にも地理学基礎の授業で訪れたが、実際に宿泊してみるとその時よりも活気が感じられ、楽しい観光となった。予想していたよりも食べ歩ける場所が多く、どら焼きからコロッケまで楽しむことができた。途中寄った店の従業員も親切な人が多く、こちらの質問にも丁寧な対応で答えてくれた。しかし、やはりシャッターが閉まっている店も多く、そういった店の近くを通

るたびにもの悲しい気分になった。その点においては「活気のある温泉街」とは言い切れないと感じた。店が閉店しているのは仕方ないが、そのままにしているのは私たちが感じたように「活気がない」と感じてしまう観光客が多いと思われる。そこで、シャッターに上山ならではのもの、例えばかかしや加勢鳥などの絵を描くなどすれば今よりは活気が出るのではないかと思った。

また、これはかみのやま温泉ではなく旅館やホテルへの誘致となってしまうが、ホテル内にあるカフェ等で独自性のあるスイーツを展開すれば若い女性を引き付けることができるのではないだろうか。ここで私たちが考える独自性のあるスイーツというのは、極端に言えば巨大パフェなどのデカ盛りスイーツである。普通の飲食店でこのような商品を展開しても、大半は宿泊せずに帰ってしまうように思える。しかし、ホテル内のカフェ等で展開された場合、「ホテル内」という敷居の高さを上手く利用することができる。宿泊しないホテルには入りにくいという気持ちを利用し、宿泊客として取り込むことができるのではないだろうか。また、もしこのような若い女性が飛びつくような目玉商品とも言えるようなものがあれば、旅館・ホテル選びの際の決め手の1つとなるのは間違いないように思える。

8 宿泊した旅館に対するコメント

部屋も温泉も清潔で、従業員の接客も丁寧だったため、非常にリラックスして宿泊することができた。部屋に用意されているアメニティの中には、大浴場などに移動する際に便利なバッグが含まれていた。見た目も可愛らしく、たくさんの方が入るため、とても良いサービスだと感じた(写真1)。温泉は岩盤浴やアメリカンスパなど複数種類があり、さらに30分限定で貸し切りの露天風呂を利用できるなど温泉施設はとても充実している。私たちは利用してはいないが、男湯と女湯が午前12時を境にして入れ替わるため、「浪漫湯」と「金の湯」二種類の風呂を楽しめる仕様になっており、温泉を目的に来た人にとっては非常にありがたいサービスであると思う。しかしこの温泉に関して1つ気になったことがある。それは「浪漫湯」内にある貴宝石風呂に関してである。貴

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

宝石パウダーが入っていることでお湯が濁っているため、湯船の底が見えず、段差がどこで途切れるのかわからないのが怖く感じた。できれば、段差がどこで途切れるのかの目印が欲しい。食事に関しては、夕食・朝食は基本的に部屋に運ばれてくるため、人目を気にせずに食事することができた。しかし、細かいことではあるが、夕食のデザートを受け皿が汚れており、直接食品が乗っているわけではないが、少々不快に感じてしまった。とはいえ、旅館に対して不満を感じたことはその一点のみであり、全体的には非常に満足した。



写真1 アメニティのバック

9 拡散について

Twitter で画像付きでかみのやま温泉に行ったこと、またかみのやま温泉の旅館や途中立ち寄った店のことをつぶやいたところ、何人かがお気に入り登録、またリツイートをしてくれた。しかし反応を示してくれたのは地元山形県に住んでいる人、または山形県出身の人、つまり「上山」という地名を知っている

人に限られた。このことから、かみのやま温泉の存在を知っている人からすれば私のつぶやきを見て「この人はかみのやま温泉に行ったのだな」と理解することができるが、かみのやま温泉を知らない人は、私がどこかに旅行に行った、という事実を認識するだけで、どこに旅行に行ったのかはスルーしてしまうのではないかと考えた。そのため、Twitterをはじめとした SNS の投稿をきっかけにかみのやま温泉を知らない人にも興味を抱いてもらうためには、まずはかみのやま温泉自体の知名度が上がるが必要不可欠なのではないだろうか。

10 出費について

電車代（1 人分の往復）：460 円

ほんてん黒いどら（バナナあん）：170 円

ほんてん黒いどら（抹茶あずき）：180 円

鴨せいろう：1250 円

天せいろう：1600 円

タクシー代：2150 円

蔵王スターアイスワイン（ロゼ・白）：4200 円

全身もみほぐしマッサージ：8400 円（うち 4200 円はゆかった手形で支払い）

ちくわパンめんたいこ味：170 円

饅頭（白餡・黒餡）：168 円

ピザ：1000 円，珈琲：300 円，紅茶：300 円（すべてゆかった手形で支払い）

お守り：1000 円

コロッケ：150 円（うち 100 円はゆかった手形で支払い）

お炭付き饅頭 15 個入り：1805 円（うち 1100 円はゆかった手形で支払い）

だんご 1 本：95 円（ゆかった手形で支払い）

かりんとう・アップルパイ：910 円（うち 900 円はゆかった手形で支払い）

総合計：24408 円

ゆかった手形支払い合計：7995 円

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

若者目線から見るかみのやま温泉の昭和レトロの面白さ

森彩香，仲谷宗一郎

1 宿泊した旅館の名称

はたや旅館 宿泊日 2014 年 1 月 19～20 日

1 日目の行動記録

9 : 45	自宅出発 徒歩移動
10 : 30	山形駅 発 電車移動
10 : 42	かみのやま温泉駅 着 徒歩移動
11 : 00～11 : 40	長屋門ギャラリー 『チーム ラム ホーム』 徒歩移動
12 : 00～12 : 40	そば処 やぶいち 徒歩移動
12 : 55～13 : 10	湯あみ地藏 足湯 徒歩移動
13 : 30～13 : 45	花咲山展望台 徒歩移動
14 : 00～15 : 00	Cafe CRESTON 徒歩移動
15 : 30	チェックイン お茶菓子を食べる・テレビを見る
17 : 30～18 : 00	入浴 テレビを見る
19 : 00～20 : 30	夕食 テレビを見る
22 : 00	就寝

2 日目の行動記録

7 : 25	起床
7 : 30～8 : 30	朝食 準備
9 : 20	チェックアウト 徒歩移動
9 : 30～11 : 30	アトリエ SOU 徒歩移動
12 : 00～12 : 30	ジローズビザ 徒歩移動
12 : 50～13 : 00	武家屋敷 徒歩移動
13 : 15～13 : 35	ふれあい足湯 フットパス
13 : 40～14 : 20	上山城 徒歩移動・商店街めぐり
15 : 00～15 : 30	十五屋 徒歩移動
15 : 45～15 : 50	映画「おくりびと」ロケ地 徒歩移動
15 : 55～16 : 00	丸山牛肉店 徒歩移動
16 : 15～16 : 20	風月堂 徒歩移動
16 : 25～16 : 30	だんご屋本舗たかはし 徒歩移動
16 : 35～16 : 40	洋菓子店 ロアール 徒歩移動
17 : 06	かみのやま温泉駅 発 (山形行き) 電車移動
17 : 18	山形駅 着 徒歩移動
18 : 10	帰宅

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

2 宿泊した旅館に関する事前情報

インターネットで「はたや旅館」で検索したところ、ホームページが見つかったのでそこから情報を得た。部屋の様子のほか、料理やお風呂の写真も見ることができたので良かったと思う。また、ひょうたんの行灯やオブジェなどは他ではなかなか見られないものだと思うので特徴的であるという印象を受けた。ブログには梅干しやリンゴケーキなど旅館で出している食べ物や鈴虫など季節のものも載っており、宿泊するのがより楽しみに感じた。

アメニティ等どのようなものが置いてあるかについての記載が見つけれなかったもので、書いてあったほうが安心して旅行にいけるのではないかと思った。

3 上山の観光について

インターネットで「かみのやま温泉」で検索したところ、観光物産協会のホームページが一番上に出たので、「観光」のページから情報を得た。「遊び・体験」のアトリエS O Uのシルバーリング作り体験は提案されたオプション観光の中にも入っていたのだが、それを知る前にこのページをみて興味を持った。「食べる」のページにはたくさんのお店が載っていたが、写真が少なく分かりづらかった。写真があったほうが興味を持てるしお店を選びやすいと思う。

また、上市市に住む友人に美味しいお店や面白い場所はないかを聞いた。そば処 やぶいちが中華そばが美味しいと勧められ、予定に組み込んだ場所である。知らない場所に行くときに地元の人からの情報はより信頼できるように感じた。

4 予定していた観光

・長屋門ギャラリー 『チーム ラム ホーム』 羊毛フェルト作り体験ワークショップ

訪れる前にイメージしたものよりも少しこじんまりとしていたが、長屋を改装した温泉街に溶け込むようなレトロな外装とは反対に内装は綺麗に改装されたインテリアは今風のカフェのようで、フェルト作り体験中もゆったりと作業

に没頭することができた。ただ、外側から見ると少々中が暗く入り口もわかりにくいのでギャラリーと言ってはいるものの、ふらっと立ち寄れる感じではないと感じた。

・そば処 やぶいち

中華そばもかきあげもりそばもとても美味しかった。中華そばはいかにもそば屋の中華というような感じがして、特にだしがおいしかった。あっさりしてほっとする味だった。かきあげもりそばのそばは茶そばになっており、コシが強く緑色のそばはいろどりもよく見た目もよかった。初め少々つゆが濃いように感じたが、たまねぎの入った甘味のあるかきあげと頂くと非常に丁度よかった。今回は徒歩移動であったが、看板も大きく駐車場も広いため遠方からでも訪れやすいなと感じた。車があったら何度も通ってみたいと思った。

・湯あみ地藏 足湯

温泉が温かく気持ちよかったが雪が降っていて寒かった。民家が近く車が通ったりもし、人の目が気になるので目隠しが欲しいと思った。

・花咲山展望台

雪がさらにひどくなったためとても寒かった。展望台まで行っても雪で何も見えなかったので残念だった。恋人の聖地ということだったが鐘が2つあったので戸惑った。桜の木がたくさん植樹されていたので桜の時期であればもっと楽しめたと思うし、雪のない時期とある時期での雰囲気も変わらなと思った。

・Cafe CRESTON

ハーブティーやケーキ、フレンチトーストがとても美味しかった。フレンチトーストはとうとうるに掲載されていたのをみて食べてみたいと思ったので、食べられてよかった。店内が落ち着いた雰囲気なのでゆっくりすることができた。注文したものを待っている時間も苦にならなかったのも、多めに時間をとってのんびりするのに向いていると思った。

・アトリエ SOU シルバーリング作り

オプション観光として提示されていたものである。3600円と値段が高い上にどのような作業をするのか想像できなかったためかなり身構えて行ったが、ア

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

トリエ SOU の方の教え方も非常に丁寧でわかりやすく、大変満足のいくものをつくることができた。デザインもシンプルで自分の指にぴったりのものが作れるため普段からつけられるというのも良いと感じた。ただ、内側に刻印ができることを知らなかったため事前に考えられればなおよかったと思う。ぜひまた挑戦したいと感じた。

・ジローズピザ

民家を改造してやっているようで場所も少々分かりにくいと思っていたが、店までの道には看板があって行きやすかった上、店の前にはのぼりが出ており入りやすかった。ピザは本格的な窯焼きピザで店内には大きな窯があり、厨房でつくっているのが良く見えるのがよかった。マルゲリータとキノコを注文したが、どちらも薄味ながら手作りのピザ生地も含め素材の旨みを感じられとても美味しかった。マルゲリータはトマトの酸味でさっぱりと食べられたし、キノコは舞茸、椎茸、しめじなどたくさんのきのこが載っておりきのこ好きにはたまらない一品であると感じた。

・上山城

訪れる前は上山城の歴史についての展示は上山城についての展示かと思っていたが、上山の自然、ゆかりのある著名人、歴史について総合的に展示されていた。とてもたくさんの展示があり順路で見て回るとかなり疲れた。晴れていたので展望台からは周辺が一望できたのがよかった。隣接しているお茶屋さんは和風の外装だったので抹茶がのめるのではと期待して入ったのだが、コーヒーしか取り扱っていなかったのが残念だった。

・下大湯

見慣れない顔の人にクレームをつける人がいるらしいという噂を聞き、入るのをためらってしまった。行ったことのない場所でこのような話を聞くと、行くのをやめようかなという気持ちになってしまう。

・商店街めぐり

食べ歩きができると思い計画を立てたが、食べ歩きにむいているようなお店は少なく、多くは上山市民が普段使うようなお店が多かった。見るところがそ

それほど多くないので計画を立ててからいくべきであったと思った。しかし、古い自販機や古いお店などレトロな雰囲気もあり、このような部分をいかせば地元の人も観光客も楽しめるような商店街になるのではないかと思う。

- ・ 風月堂

様々な種類のお土産があった。駅も近いので電車で帰る前に寄りやすいのもいいと思った。

5 予定していなかった観光

- ・ 武家屋敷

シルバーリング作りの際お店の方にお勧めされたのと、当初の旅程にあった上山城のすぐそばだったので行ってみることにした。行った日はちょうど休館日で武家屋敷の中に入ることはできなかったが、雰囲気がとてもよく通り過ぎるだけでもたのしめた。

- ・ 十五屋

商店街めぐりをしている際、雰囲気がよさそうなお店だったので入った。中には喫茶スペースがあり、ショーケースのなかの和菓子やケーキと一緒に抹茶やコーヒーが飲めるようになっていた。上山城をから降りてきてすぐの場所にあるので、一休みするのにちょうどよかった。

- ・ 映画「おくりびと」ロケ地

映画で見た光景が町中に溶け込んでいる光景が面白かった。現在は中に入らず、外側しか見られないのが残念であった。

- ・ 丸山牛肉店

黒毛和牛コロッケとメンチカツを購入するために行った。店内は明るくてとても入りやすい。黒毛和牛コロッケは牛肉の味が濃く、メンチカツはハンバーグに衣をつけて揚げたような感じでどちらも美味しかった。

- ・ だんご屋本舗たかはし

ほんてん黒いどらが上山駅のショーケースで紹介されているの発見し、電車の出発まで少し時間があつたので急遽行くことにした。竹炭とココアをつかつ

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

ている生地はまっくろですごくめずらしい。色んな味が選べるのが楽しい。生チョコ味，ずんだくりーむ味，あずきくりーむ味，抹茶あずき味を購入して食べた。ずんだくりーむ味がとても美味しかった。

・洋菓子店 ロアール

上山駅のショーケースで紹介されているの発見し，電車の出発まで少し時間があつたので急遽行くことにした。おみやげにちょうどいい小分けの焼き菓子をリーズナブルな値段で購入できるのがよかった。

6 提案されたオプションについて

(4に含めるため省略)

7 上山観光に対する率直な意見

上山観光をしてみて最も良いと思ったのは，上山の温泉街にレトロな建物や年季の入った物など普段見ないようなものがたくさん存在しているということだ。今回訪れた長屋門ギャラリーのような長屋，カフェクレストンの窓から見える名月荘の古民家のような形の建物が立ち並ぶ景色，武家屋敷通り，はたや旅館の内装やいろりなどがそうである。前述したような私たちのような年代の人が普段目にするものがないレトロな物に囲まれた空間というのは良い意味で現実離れしていたように感じた。旅行客は普段の生活ではできないような体験をしたり，見られないようなものを見たり，食べられないものを食べたりすることを旅行先で期待するだろう。かみのやま温泉ではこの旅行客の期待に，



写真1 商店街にあった古い自販機

「現実離れた空間」で答えていくべきだと考える。

これらを実現するための手段として考えたものを以下に示す。まず、古い建物の活用である。平成生まれの私たちにとってみれば昭和のバブル期に建てられたような乱雑な看板の付き方をした雑居ビルなども十分にレトロに感じるということだ。かみのやま温泉の観光案内の写真を見てここの考え方に宣伝する側とのミスマッチを感じた。ただそのような場所に若者を引きこむ工夫は必要であると考え。そこで私たちは商店街の観光地としての利用を提案したい。商店街には古い自販機やかわら風の屋根をかぶった消火栓、ごちゃごちゃと看板のついた雑居ビルなどがとても印象に残った。知らないところを歩き回って中で小さな発見があるのも面白さであると思う。しかし、商店街にあったいくつかのお店の店内は外からは暗く見え、私たちには入りづらいように感じた。たとえ観光マップなどに載っていても、お店や施設の中に入ることに少しでも抵抗を感じてしまえば、私達のような若い人は入るのをためらってしまうだろう。店内や入口を明るくして中が見えるようにする、暖簾を出すなど、地元の人だけでなく旅行者も入りやすいような工夫が必要だと思う。

また、観光協会でも提示しているように、自分の体を動かして何かを体験することができるスキーやクアオルト体験、ものづくり体験などは上山の強みである。私たちが体験したシルバーリングづくり体験や羊毛フェルト作り体験などのものづくり体験は、自分で世界に一つだけのものを作ることができる。旅行の後にももの残るため、より印象に残る上に、より多くの満足感が得られるように感じた。

8 宿泊した旅館に対するコメント

はたや旅館に泊まって感じたのは、とてもアットホームな旅館だったということだ。旅館というよりも親戚の家に泊まっているような感覚だった。ホームページのブログに載っていた手作りケーキがとてもおいしかったので食べられてよかった。食事もしょうじ料理や茄子の切干の煮ものなど普段食べつけないものも多かったがどれも美味しかった。また囲炉裏がある部屋で食べることが

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

できたのも普段は体験しないことなのでとても新鮮だった。

ただ、若干洗面台横のガラスの戸棚の中などがちらかっているのが意外と目につくのできれいになっているといいと思う。

9 拡散について

ツイッターを用いて写真とともに風景や食べた食事のことについて旅行中に発信した。食べ物については反応してくれる人がいたが、風景に関してはあまり反応がなかった。このことから、やはり3でも述べたように、かみのやま温泉のホームページには食べ物に関する写真をもっと掲載するだと感じた。

10 出費について(*金額はゆかった手形使用)

場所	森		仲谷	
	内容	金額(¥)	内容	金額(¥)
電車賃(往復)	-	460	-	460
羊毛フェルト作り体験	体験料	500	体験料	500
そば処 やぶいち	中華そば	550	かきあげもりそば	850
Cafe CRESTON	フレンチトースト セット	750	パウンドケーキ ット	700
はたや旅館	ビール	690	ビール	690
シルバーリング作り体験	体験料	3600 (*3600)	体験料	3600 (*3600)
ジローズピザ	マルゲリータ	1000 (*400)	キノコ	1400 (*400)
上山城 入館料	-	350	-	350
十五屋	上生菓子セット	500	モンブランセット いちご大福	500 150
丸内牛肉店	メンチカツ 豚肉味噌漬け		コロッケ 鶏肉香味漬け	
風月堂	中條まんじゅう	530	中條まんじゅう	530
だんご屋本舗たかはし	ほんてん黒いどら	380	ほんてん黒いどら	380
洋菓子店 ロワール	-	-	マフィン パウンドケーキ	294 399
合計 (ゆかった手形以外)		9310 (5310)		10657 (6657)
2人の合計				19967 (11967)

かかし，カセ鳥，上山城

目玉は何なのか

福岡麻美，Y. A.

1 宿泊した旅館の名称

天神の御湯 あづま屋 宿泊日 2014 年 1 月 18～19 日

1 日目の行動記録

9 : 00 自宅出発

10 : 40 蔵王温泉スキー場にてスキー

12 : 30 昼食（コンビニで購入）

16 : 30 スキー場出発

17 : 30 天神の御湯 あづま屋 到着，チェックイン

18 : 00 入浴

19 : 00 夕食 → テレビ観賞

21 : 00 就寝

2 日目の行動記録

8 : 00 朝食（弁当）

10 : 00 チェックアウト

10 : 30 檜下宿 丹野こんにゃく

11 : 30 硯橋

12 : 00 上山城

12 : 45 ジローズビザにて昼食

14 : 00 材木栄屋 貸切温泉

15 : 00 だんご本舗たかはし

16 : 00 帰宅

2 宿泊した旅館に関する事前情報

①公式ホームページ (<http://www.azuma-ya.co.jp/>)

チェックインからチェックアウトまでの旅館での過ごし方、お風呂の紹介、料理の紹介、お部屋の紹介、館内の案内、周辺観光、アクセスが掲載されている。特に料理は、地元食材を多く使用している料理が好印象だった。また、周辺観光では上山城、武家屋敷、春雨庵、栗山稻荷などが地図とともに掲載されており、参考になった。

②じゃらん (<http://www.jalan.net/yad313186/>)

口コミをチェックした。従業員の方が丁寧、温泉が良いなどの高評価が多いが、中には清掃が行きとどいていないなど低い評価もあった。コメントに対する返信もされており、丁寧な印象をもった。

3 上山の観光について

①冊子「とうるとうる」vol.006

スイーツめぐりの特集では、情報が秋のもので少々古かったものの、和菓子や高齢者向けというイメージからは想像できないおしゃれなスイーツが掲載されており、意外に思った。また、まち歩きマップでは、ゆかった手形が使えるお店や、足湯などの観光スポットが地図に示されている。広範囲のため歩いて行ける場所は限られると思うが、時間が空いたときなどに使えそうだった。

②とうる WEB (<http://truweb.jp/>)

かみのやまマルシュアのページでは、協賛している旅館の中で、日帰り入浴が出来る旅館や、エステ・マッサージのある旅館、思い出づくりの体験ができる旅館などが紹介されている。旅館ごとに特色があることがよくわかったが、体験がもっとあればうれしいと思った。

③上山温泉観光協会ホームページ (<http://kaminoyama-spa.com/kurort/>)

クアオルトの情報や、観光施設など幅広い情報が詳しく載っている。住所や電話番号をはじめ、入場料金や開館時間など1つ1つの情報が詳しく載っている

ため、あらためて調べる必要がなく、非常に便利だと思った。

インターネットでの情報収集が中心となったが、各ページにリンクが貼られていたため情報が入手しやすかった。また、ジローズビザの店内でるぶ山形を読んだが、上山温泉については1～2ページで終わっており、そのほとんどが旅館の紹介だったためにあまり役に立たなかった。しかし、インターネット・冊子「とうるとうる」での情報が豊富だったため、情報が足りないということを感じなかった。

4 予定していた観光

蔵王温泉スキー場、檜下宿丹野こんにゃく、上山城、材木栄屋貸切温泉は予定していた。

蔵王温泉スキー場は、その日ちょうどスキージャンプの国際大会が行われており、非常に活気があった。その反面、ゲレンデに人はあまり多くなく、リフトの待ち時間が少なく快適に遊ぶことができた。しかし山頂付近は吹雪で、樹氷を楽しむことはできなかった。

本来は旅館で夕食をとった後、もう一度入浴したり旅館内の売店を見たりと旅館を楽しむ予定だったが、スキーで疲れていたため夕食をとった後は部屋でゆっくりしていた。

檜下宿丹野こんにゃくでは、カフェに行き、こんにゃくの創作料理を食べた。こんにゃくを使った料理が手軽に食べられ、ゆっくりできる雰囲気がとてもよかった。また、玉こんにゃくをサービスで1串無料でいただいたのがうれしかった。

上山城は、上山のシンボルだけあってとてもきれいな外観であった。また、中の資料館はパネルだけでなく特別展や音声での解説もあり、思っていたより見ごたえがあった。

材木栄屋貸切温泉は、3日前に電話で予約を入れた。木の浴槽は温かみがあり、ゆっくりとくつろぐことが出来た。40分では短いかと思ったが、熱めのお湯だったので十分だった。

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

5 予定していなかった観光

檜下宿の覗き橋，ジローズピザ，だんご本舗たかはしは訪れる予定がなかった観光地だった。

覗き橋は，旅館に置かれていた冊子「とうるとうる」vol.7にて檜下宿が特集されているのを見て，丹野こんにやくに行くついでに訪れた。看板もなく，道も細く整備はされていなかったが，きれいなアーチの橋で見ごたえがあった。

ジローズピザは，上山城の近くに看板があったため，昼食に寄った。石窯で焼いており，本格的な味だった。温泉街に近かったがイタリアンのおしゃれな雰囲気で，かみのやまのイメージとは違っていた。しかし，薪ストーブの上に干し柿があったのが上山らしさを感じさせた。

だんご本舗たかはしでは，夕方に立ち寄ったせいかだんごが残り1本だけで残念だった。しかし，となりのショーケースにあった「黒いどら焼き」は中のあんが10種類ほどから選べ，キャラメルマキアート味やバナナあんなどユニークなあんもあり，とてもよかった。味もおいしかった。

6 提案されたオプションについて

ウォーキング，街歩きが多数提案されていたが，スキーに行った翌日には参加する気にはなれなかった。また，雪が降っており長時間外で歩くのは嫌だと思った。春や秋であつたら参加していたかもしれない。ウォーキングのプランが複数あつたのはとても良いと思う。しかしどちらかというと若者向けのプランではなく中高年の方向けだと感じた。

提案されたプランの中では楽焼き体験などの何か物を作る体験が楽しそうだったと思った。少し値段が高いのが残念だと思う。リーズナブルな体験プランを増やしていけば若者にも興味を持ってもらえると思う。

7 上山観光に対する率直な意見

上山に訪れるまで，上山のイメージは「年齢層が高く，旅館でゆっくりするための観光地」「温泉以外何もない」というものだった。しかし実際に散策して

みると、今まで気がつかなかったこだわりのお店が沢山あることに気づかされた。ひとつひとつのスポットは大きな魅力があるわけではないが、ドライブや街歩きで立ち寄ることができ、退屈しない。ジャンルも和菓子屋からイタリアン、ギャラリーなど多岐にわたっており、性別・年齢を選ばない。「温泉以外なにもない」イメージは間違っていた。

街なかを歩いていると、カセ鳥のポスターや人形のようなものをよく見かけた。「カセ鳥」という祭りがあることを知らなかったのも、興味がわいた。逆に事前に知っていた「かかし祭」についてのものは見かけなかった。時期的なものがあると思うが、こうした変わったお祭りがあることはアピールできる点である。祭りから興味を持ってもらい、上山を知ってもらうこともできるのではないだろうか。

おみやげについては、上山では何も困ることがなかった。干し柿、ワイン、こんにゃく、和菓子など名産が多くあり、どれにしようか迷ったほどだった。大きな土産店こそないが、小さな店舗を訪れ、おみやげを買い集める感覚が楽しいかもしれない。

上山の観光地の1つ1つは楽しむことができたが、上山とはどういう観光地かと言われると、はっきりとした答えが見つからない。観光地としての魅力を高めるには、「かみのやまらしさ」が必要である。上山とはどんなところであるか、訪れなくてもイメージでき、訪れればすぐ実感できるようテーマがあれば、観光地として成功するのではないかと思う。

若者が上山を訪れないのは、「なにもない」「旅館を楽しむところ」という先入観があるからだと考える。旅館だけでなく見どころがたくさんあるということを知ってもらえば若者にも足を運んでもらえるのではないだろうか。

8 宿泊した旅館に対するコメント

丁寧な接客をしていただき、とても気分がよかった。時間帯のせい（18時ころ）、お風呂が空いていてゆっくりとくつろぐことができた。お料理もワインのしゃぶしゃぶやアロニアのパパロアなど、上山の食材も楽しむことができ

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

れしかった。欲張れば、追加料金でもいいので部屋で食事ができたり、貸切風呂があったりするとなおうれしかった。朝食は事情があり弁当となってしまったので残念であったが、全体としてはとても満足できた。

9 拡散について

事情があり実際に発信はしなかったので拡散の効果を高める提案をする。

インターネットでの個人での拡散は、数が多ければ多くの人に認識してもらえる。多くの人にインターネットで拡散してもらうためには、お願いをするほか、何か特典をつけるなどすれば多くの人に拡散してもらえると思う。また、それらが集まれば「知る人ぞ知る」という観光地として、より開かれたメディアに紹介してもらえる可能性も出てくる。そのためには、9で述べた観光地としてのテーマが確立している必要がある。

10 出費について

・ゆかった手形 4000 円分の内訳

旅館にて 選べるゆかた ￥500

上山城にて 入館料 学生 2 名 ￥700

ジローズピザにて ￥300

材木栄屋 貸切温泉 40 分 ￥2500

・個人の出費

福岡

蔵王温泉スキー場 1 日券 ￥4800

昼食代（コンビニ） ￥500

旅館での飲み物 ￥650（無料にしていたいた）

丹野こんにやく 番かふえ ￥1480

丹野こんにやく おみやげ ￥1050

ジローズピザ ベーコンピザ ￥900

だんご本舗たかはし ￥380

計 ￥9110

Y.A.

蔵王ライザスキー場 1 日券 ￥4800

昼食代（コンビニ） ￥500

旅館での飲み物 ￥650（無料にしていたいた）

丹野こんにやく おみやげ ￥1500

だんご本舗たかはし ￥90

計 ￥6890



写真 1 スキー場にて



写真2 選べる浴衣



写真3 旅館での夕食



写真4 番カフェ



写真5 番カフェ



写真6 視橋



写真7 ジローズピザ



写真8 材木栄屋貸切風呂

上山観光への批判と感想

村井和樹，松田健吾

1 宿泊した旅館の名称

本陣『しまづ旅館』 宿泊日 2014 年 1 月 19～20 日

1 日目の行動記録

(集合まで)

・松田

寒河江市の実家からスタート

8:00 実家出発

8:25 左沢線山形行き，寒河江駅発車

8:52 山形駅到着

・村井

山形市内のアパートからスタート

8:00 起床

8:30 アパート出発

9:20 山形駅集合

9:35 奥羽本線米沢行き，山形駅発車

9:48 かみのやま温泉駅到着

9:54 かみのやま市内の散策スタート，駅前から北東へ行き，須川を渡る。まっすぐ北上。

10:05 カミンの中を見て回る

10:32 栗川稻荷神社参拝。その後東に行き，武家屋敷方面へ。

11:00 武家屋敷到着

11:38 武家屋敷見学終了。湯町方面へ歩く。

11:44 伊勢屋で温泉卵を食べながら休憩

- 11:59 湯の上観音で参拝
- 12:09 上山城到着，観光
- 12:26 上山城の中を観光
- 13:05 上山城から三島坂を下る。しまづ旅館を発見。
- 13:10 しまづ旅館の湧きの通りにあるリリー鯀で昼食
- 13:56 昼食終了，リリー鯀退店。通りを西側へ進む。
- 14:05 大國屋菓子店でお菓子を買う
- 14:10 川を渡り，『おくりびと』のロケ地である「コロポックルの森」の前を通る。
- 14:15 上山八幡神社で参拝
- 14:25 再びカミンへ。チェックインの時間近くまで休憩する。
- 14:47 十五屋本店でいちご大福を買う
- 14:50 チェックイン完了。夕食の時間まで仮眠とる。
- 17:45 夕食
- 18:48 夕食を終え，部屋に戻る。テレビを見て休む。
- 21:20 入浴
- 21:56 温泉から上がり，部屋に戻る。
- 0:00 就寝

2 日目の行動記録

- 7:30 起床
- 7:55 朝食
- 8:50 朝風呂
- 9:39 チェックアウト
- 9:46 タケダワイナリーへタクシーで向かう
- 9:57 タケダワイナリー到着。見学まで時間あったので周辺を散策。
- 10:17 タケダワイナリー見学
- 11:00 見学終了。西側から遠回りに散策しつつ茂吉記念館へ。

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

- 12:05 斎藤茂吉記念館到着
- 13:35 おいわけラーメンで昼食
- 14:33 斎藤茂吉記念館前発の電車に乗り、かみのやま温泉へ
- 14:36 かみのやま温泉役到着。歩いて葉山方面へ向かう。
- 15:10 葉山地区到着
- 15:30 古窯到着。
- 15:57 楽焼体験
- 16:56 体験終了。その後古窯内を見学。
- 17:35 タクシーでかみのやま温泉駅到着
- 18:05 かみのやま温泉駅発車
- 18:19 山形駅到着，駅で解散。

(解散から帰宅まで)

・松田

18:35 山形発，寒河江行きの電車に乗る

19:02 寒河江駅到着

19:32 帰宅

・村井

19:05 徒歩で帰宅

2 宿泊した旅館に関する事前情報

宿泊先の本陣しまづ旅館は，上山市十日町にある旅館である。上山市観光物産協会のホームページによると，家庭的な雰囲気のホテルであるとのことであったが，住所や電話番号，地図等といった非常に基本的な情報が記載されていなかった。上山温泉の旅館組合公式ホームページを参照してみたが，こちらはコメントすら記載されておらず，情報の少なさに正直愕然とした。宿泊プランや料金等は民間の旅行会社のホームページで確認することができたが，旅館は女将が一人で切り盛りしているらしく，旅館自体のホームページ等は存在して

いないらしいので、組合や観光物産協会が協力してもう少し旅館に関しての情報を発信したほうが良いというのが正直な感想である。情報を調べたツールとしてはインターネットを使用したけど、思っていたよりも情報が少なく、不便であった。

3 上山の観光について

上山市は、山形県の県庁所在地である山形市の南に位置する温泉地であり、お城や武家屋敷が存在する、歴史ある観光地である。かみのやま温泉は、別名「鶴脛の湯」と呼ばれ、長禄 2 年（1458）、肥前の国（現在の佐賀県）の月秀という旅の僧が、沼地に湧く湯に一羽の鶴が脛を浸し、傷が癒えて飛び去る姿を見かけたのがはじまりといわれている。市内には地区ごとに、湯町、十日町、新湯、高松、葉山、河崎、など数多くの温泉があり、これらを総称して「かみのやま温泉」と呼んでいる。新湯、湯町の界限は城下町として栄え、いたるところに往時の面影を残す蔵や屋敷が佇んでいる。

上山の観光についても、観光物産協会のホームページを参照した。各観光施設の情報などは丁寧に記載されていて分かりやすかった。しかし、上述したように旅館に関する情報がその旅館ごとに大きく異なっているのが残念であり、情報が少ない旅館に関しては写真を多く掲載するなどの工夫があってもいいかもしれない。

また、せっかく日本で初めてクアオルトに取り組んでいるのだから、その点をもっと大きくアピールしてもいいはずだ。「クアオルト」という名前を耳にただけではそのウォーキングが一体どういうものかイメージを持ちづらい。しかしそれを逆手に取り、まずクアオルトとは何なのか、参考元のドイツでは一体どういうプログラムが行われているのか、その結果どのような効果があり、その事業を上山で行うことにはドイツで行うことと比べてどのような利点や意味があり、参加者はどのような効果を得ることができるのか、何を楽しみ、学ぶことができるのか等、もっと参加者目線から具体的にクアオルトウォーキングをアピールしてもいい。エコタウンプロジェクトを行っていることは環境面

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

から考えると良いことであるはずだし、大いに結構だが、もっと観光客に対してのアピールがあったほうがいい。「こういうことをやっている」というお知らせだけでなく、その結果観光客にはどのようなメリットがあるのか、もっと追究して自信をもってアピールしていただきたい。

4 予定していた観光

事前に話し合った段階で予定に組み込んだのは、タケダワイナリー見学（2日目 10:30～予約）と古窯での楽焼体験（2日目 16:00～予約）のみである。それ以外の観光は、現地に行き、街を歩きながら「面白いものを探す」ことにした。ワイナリーの見学も楽焼体験も、上山市から提案されたオプションから見つけ、興味を持って予約したものである。

タケダワイナリーの見学は、事前情報でワイナリーの説明自体は 30 分ほどで終わるとのことだった。現地に行ってみると葡萄畑の広さはあったが、工場自体は小規模だったので、30 分という時間は妥当だったように思う。

説明は工場で使われる機械や部屋の説明に終始し、ワイン自体に関する知識の向上はあまり無かった。また、説明の際には資料やパネルは無く、パートらしき女性の口頭説明のみであった。活字で得られる情報があれば理解が深まり、また、ハンドアウトの資料は見学に行った思い出がモノとして残るので、あっても良かったと感じた。

ワイナリー見学のメインである試飲会は、現在販売されているほぼ全ての商品が味わえた点良かった。スパークリングワインも 3 種類あったが、開けてから日が経っていたためか、炭酸の抜け味が落ちていたように思う。試飲にお金をかけられないのは仕方ないところだが、試飲可能だからこそ美味しい状態のワインを味わいたいものである。栓を開けてからの日付管理はされていた。最古のもので見学日から 3 日前であった。

タケダワイナリーについては説明、見学をイベントとして行っているものの、特に力を入れているようには感じられなかったのが残念だった。商品も駅からのアクセスも良いので、もっと見学業務に力を込めても良いと思う。

古窯の見学も上山市から提案されたオプションから選択したものである。体験自体はとても簡素なものであったが、古窯内に展示されている著名人の作品を見るだけでも価値あるものだと感じた。

体験の内容は、「皿を成型し、絵付けを行い、焼く」ものではなく、既製品の焼く前の皿や貯金箱を購入し、それに絵付けのみを行うものである。絵付けを行った皿は次の日の朝までには焼きあがり、帰る前に受け取ることができる。今回は当日中に帰る予定だったので、山形市内の村井のアパートまで発送してもらうことにした。

実際の体験料は無料だが、絵付けを行う皿や貯金箱は個人で購入する必要がある。実質的な体験料は、購入した皿や貯金箱の価格によることになる。今回は8寸皿（1600円）のものに絵付けを行った。

上で「体験自体はとても簡素」と表現したのは、この体験は早い人では1分もかからず終わってしまうからである。逆に長い人では1時間以上かかる。私たちの場合は村井は10分ほどで終わったが、松田は1時間以上かかってしまった。もっと絵を描く以外の体験や見学もしてみたかった。例えば皿を成型するまでの過程や、窯の状況を説明したパネルがあっても良かったと思う。自分の作った皿がどのように出来たのか、どのように仕上がるのか興味があった。

5 予定していなかった観光

今回の私たちの観光のメインは「街歩き」だった。私たちは二人とも見知らぬ土地を散策するのが好きなので、事前情報なしに街を一周するように歩いてみた。

結果として予想以上に楽しむことができたという印象であった。しかし、私たちの感じた楽しみはすべての観光客に通じるものではないかもしれない。私たちは上山市内の「廃墟感」を楽しんでいたのである。さびれた建物や、つぶれた店舗、さびた看板や細い脇道など、上山市内にはノスタルジーな風景がたくさんあった。おそらく普通の観光客は目を向けないようなところではあろうが、私たちにはそれが楽しかったのである。

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

観光と言えば綺麗な建物や街並みを強調し、あまり寂れた風景は見せないようにするだろう。しかし、寂れた街並みもまたノスタルジックな観光資源になりうるのだと感じた。この点については、感じ方には観光客ごとに個人差が大きく出るところである。観光の可能性を広げる意味では大いに考察の余地があるだろう。

6 提案されたオプションについて

提案されたオプションをもとに、観光のスケジュールを立てようとしたが正直あまり魅かれるオプションは多くはなかった。ウォーキングは「ウォーキングが楽しい」とだけ説明があり、実際何をするのかイメージがつかみづらかった。ウォーキングの楽しみとは何なのか、景色を楽しむのか、気候性地形療法とは何なのか、もっと具体的な説明がほしかった。手作り体験は楽焼きを実際に体験してみたが、絵や文字をお皿に描くだけであつたので、手軽さはあるが楽焼きの体験という実感はあまりなかった。体験場所も駅近くを中心街からは離れており、移動が大変であつたことも強調しておきたい。

そのほかには、斉藤茂吉記念館やタケダワイナリーを見学した。両方とも案内してくださった従業員の方々が非常に親切であつた。どちらの見学も学ぶことも多くあり、有意義なものであつた。それぞれの観光の感想は6にまとめている。

7 上山市観光に対する率直な意見

上山市を実際に観光してみて、歴史ある温泉街というイメージをもった。城下町の名残も所々にみられるし、美味しい飲食店も多くある。しかし自家用車がないと移動が大変なところが惜しい。市内を走るバスは1時間に1本あるかないかというものであつたし、毎回タクシーを利用しては我々学生のような観光客にとっては金銭的に厳しい。上山城の近辺を中心に観光したが、すべて徒歩で移動するとやはり疲労が溜まり、ゆっくり観光したという気分ではなかった。また、街中にお土産等の買い物のできるお店が少ないことも気になった。

お土産屋があまり見られないことで、個人的には観光地を訪れた際に感じる高揚感のようなものは少なかったように思う。お土産屋では地域の人も、ほかの観光客とも談笑できる機会があるが、そういった機会が少ないのは寂しい。今回宿泊した旅館がアットホームな雰囲気であり、女将もたびたび話しかけてくれたことから談笑することができたが、もっと大きな宿に宿泊していたらどうなっていたのだろう。個人的に、旅の楽しみの一つに地元の人とのコミュニケーションというものもあると思う。旅先の地元の人の話は非常に刺激になるし、我々若い世代にとっても学ぶことが多いはずだ。今回の観光では、地域の人とどこで交流していいのかわからず、本当に我々学生2人組だけがぼつんと上山に放り出されたような、そんな寂しさがあった。

それでは若い世代を呼び込むためにはどうしたらいいのだろうか。若い人が訪れる観光地とそうでない観光地の違いは何なのか。まず、上山の確固たるイメージがぱっと浮かばないことがある。確かに温泉街であるし、上山城や武家屋敷もあることから歴史的な土地であるということもわかる。だが、そこで止まってしまう。たとえば、特産の食べ物は何なのか。地域として何を観光客にアピールしたいのか。もっとはっきりしたイメージがほしい。

それと、若者は活気があるところに集まりやすい。お祭りやその類のイベントといったような、何か明るい雰囲気が街に欲しい。上山を象徴する、何か独特のものがほしい。現在の世間の流れだと、急に観光地にはゆるキャラと呼ばれる着ぐるみがあふれ出した。ゆるキャラは、その土地の特産品や名前から連想される姿形や名前をしており、その土地のイメージが一発でつかみやすい。イメージができるから、観光客の関心をつかみやすい。これからゆるキャラを採用するのもひとつの手ではあるかもしれないが、少し二番煎じのような気もするので、何か上山をイメージすることができる、独特の象徴がほしい。

8 宿泊した旅館に対するコメント

宿泊したしまづ旅館は、女将に聞いたところ江戸時代から存在する建物らしかった。街中だけではなく、宿に行ってから歴史を感じることができたこと

は素直に感動したし、魅力であると思った。しかし、その歴史性故か、暖房設備が弱く、部屋は寒かった。布団には電気毛布が敷かれていて、その気遣いには感動したが、チェックアウト時に暖房費を宿泊費等に加えて請求されたことには驚きを感じたし、旅館の経営が気になる瞬間であった。風呂場の洗い場にシャワーが一つしかないのも若い人にとっては辛いかもしれない。事前に調べた情報ではタオルと浴衣以外のアメニティグッズは置いていないとのことだったので、駅のコンビニエンスストアで大慌てでシャンプー等を買ったが、実際には以前に宿泊した客が置いて行くとみられるシャンプー等がたくさん置いてあって、嬉しかったと同時に少しがっかりした。

女将が食材にこだわっているという食事はとても美味しく、十分に満足するものであった。旅館の一階では酒屋も経営されていることから、お酒のラインナップは素晴らしいものであると思うし、女将と話しながら食事をとることができて非常に楽しかった。

大きな旅館にみられるような大きな風呂場はないし、設備も最先端とは言い難いが、古くからあるレトロな雰囲気を楽しみたい観光客や、少人数でゆっくり宿泊したい観光客などには人気が出るかもしれない。そんな旅館を「アットホーム」の一言で片づけてしまうのは非常にもったいないというものである。

9 拡散について

二人の **Twitter** で観光の動向を写真付きでツイートし、みんなの反応を見た。しかし、反応したのは同じく実習中のフォロワーがほとんどで、実習中は拡散に関してはあまり効果があったとは思えなかった。しかし、実習終了後、学校で会った友人たちに上山温泉の話題を聞かれることもあったので、記事を見てはいてくれたのだと分かった。

特に反応があったのはやはり旅館関係のツイートであった。私たちの泊まった旅館は他の旅館と比べると規模も違い、内装も違うのでその比較での反応が多かった。ここからも皆の関心が観光よりも、宿泊（休養）に向いていることが感じられる。

リアルタイムでの反応は薄かったが、その後の反応を見ると、一定の拡散効果はあったようである。画像付きのツイートが効果が大きかったのかもしれない。

10 出費について

《1日目》

- ・ 電車賃（山形→かみのやま温泉） $230 \text{ 円} \times 2 = 460 \text{ 円}$
- ・ 武家屋敷入場料 $150 \text{ 円} \times 2 = 300 \text{ 円}$ （ゆかった手形）
- ・ 伊勢屋 温泉卵 $140 \text{ 円} \times 2 = 280 \text{ 円}$
- ・ 上山城入館料 $350 \text{ 円} \times 2 = 700 \text{ 円}$ （ゆかった手形）
- ・ リリー鮎（昼食代）
（ランチ海鮮丼 800 円＋上生寿司 1700 円） $\times 2 = 5000 \text{ 円}$ （ゆかった手形）
- ・ 大國屋お菓子代 $210 \text{ 円} + 116 \text{ 円} = 326 \text{ 円}$
- ・ 十五屋お菓子代 $150 \text{ 円} \times 6 = 900 \text{ 円}$ （ゆかった手形）

◎1 日日出費計 7966 円（自費 1066 円＋ゆかった手形 6900 円）

《2日目》

- ・ タクシー（かみのやま温泉駅→タケダワイナリー） 1210 円
- ・ タケダワイナリー（ロゼワイン） 1260 円
- ・ メンチカツ（おやつ） 100 円
- ・ 茂吉記念館入館料 $250 \text{ 円} \times 2 = 500 \text{ 円}$
- ・ おいわけラーメン（昼食代） $650 \text{ 円} \times 2 = 1300 \text{ 円}$ （自費 200 円＋ゆかった手形 1100 円）
- ・ 電車賃 $140 \text{ 円} \times 2 = 280 \text{ 円}$
- ・ だんご本舗たかはし（どら焼き） $160 \text{ 円} + 180 \text{ 円} = 340 \text{ 円}$
- ・ 古窯
（楽焼体験料 0 円＋楽焼用皿 1800 円＋皿立て足 450 円） $\times 2 + \text{配送料 } 950 \text{ 円} = 5450 \text{ 円}$

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

- ・ タクシー（観光タクシー→かみのやま温泉駅） 670 円
- ・ 電車賃（かみのやま温泉駅→山形駅） $230 \text{ 円} \times 2 = 460 \text{ 円}$
- ◎2 日目出費合計 11570 円（自費 10470 円＋ゆかった手形 1100 円）
- ◎総計 19536 円（自費 11536 円＋8000 円）

3 葉山地区

⑩『三木屋』 宿泊日 2014 年 1 月 19～20 日

報告者：3 年 木村瑠奈，桑原優

⑪はたごの心『橋本屋』 宿泊日 2014 年 1 月 17～18 日

報告者：2 年 青野息吹，吉田有沙

⑫『葉山館』 宿泊日 2014 年 1 月 18～19 日

報告者：4 年 三浦未央，加藤舞

⑬旅館『三恵』 宿泊日 2014 年 1 月 17～18 日

報告者：4 年 R.N.，Y.K.

⑭日本の宿『古窯』 宿泊日 2014 年 1 月 18～19 日

報告者：2 年 川尻陽太，渡邊謙吾

⑮彩花亭『時代屋』 宿泊日 2014 年 1 月 19～20 日

報告者：4 年 河合朋実，齋藤薫

⑯旅館『静山荘』 宿泊日 2014 年 1 月 17～18 日

報告者：4 年 後藤瑞希，富田彩友美

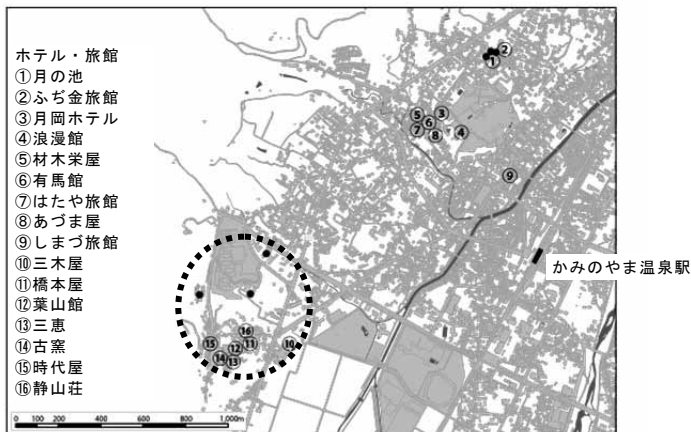


図 4-3 葉山地区の協力旅館

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

上山温泉旅行 1泊2日の旅

木村瑠奈, 桑原優

1 宿泊した旅館の名称

三木屋 宿泊日 2014 年 1 月 19～20 日

1 日の行動記録

時間	行動	備考
10:30	山形駅発	
10:42	かみのやま温泉駅着	パンフなどを観光課からもらう
11:00～11:30	蟹仙洞	見学, 記帳, 記録
11:50～12:30	レストランイビサ	イタリアンのレストラン 昼食
12:40～13:30	上山城	内部の博物館, 天守閣などの見学
13:30～13:35	お土産 かかし屋	城のキーホルダー, 山形土産など
13:45～14:10	喫茶 折鶴	雪が強かったので休憩に, 軽食
14:30～15:00	武家屋敷 (4 軒)	森本家, 三輪家 (説明有), 山田家, 旧曽我部家
15:10～15:20	湯の上観音	見学, 参拝, 七不思議「洗心の湯」
15:55	たい夢	たいやきを買って食べ歩き
16:00～	三木屋到着	
16:20～16:40	わくわくコマレオ	近所のスーパー お菓子などを買いに
17:00～18:00	お風呂	大浴場と露天風呂
19:30～20:30	食事	お膳とステーキ
24:00	就寝	

2 日目の行動記録

時間	行動	備考
6:30	起床	
6:40	お風呂	他の来客者も利用していた
7:30～8:30	朝食	
9:50	出発	前日にタクシーの相談をしたら宿の方が送迎してくれた
10:20～11:00	タケダワイナリー	職員による説明, 試飲 次への移動はタクシー
11:15～11:30	月岡公園	昼食予定の店が開店前だったため
11:40～12:20	ジローズピザ	手作り窯焼きピザ 食材にイタリア産を使用することも
12:50	愛宕神社	鶴の休み石に向かう途中に見つけた
13:10	鶴の休み石	かなり迷ったが到着できた 隣接する神社にも参拝
13:30～13:40	栗川稲荷	移動の途中で旧曾我部家のトイレを利用 稲荷には他の参拝客も何組か見受けられた
14:00～14:50	十五屋本店	和菓子作り体験 奥の食事できるスペースで 地元のお客さんとの交流も図れた
15:10	団子本舗たかはし	お土産に「ほんてん黒いどら」を8つ購入
15:25	かみのやま温泉駅発	
15:37	山形駅着	

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

2 宿泊した旅館に関する事前情報

【使用したツール】：インターネット

【事前情報】：創業 300 年を超える歴史ある上山の旅館である。江戸初期創業の純和風の造りとなっている。大正 2 年には文豪志賀直哉が投宿され、「城の崎にて」が生み出された。特徴としては長い歴史、源泉かけ流し 100%の露天風呂、旅館の敷地内にある純和風庭園が挙げられる。

【感想】：「上山 旅館 ランキング」と検索した。じゃらんの人気ランキングから 10 位までをそれぞれの旅館の HP を見て、希望旅館を決定した。三木屋は 8 位であり、上述の内容と夕食が美味しいこと、温泉のシャワーの設備が古く、使いにくいことがわかった。シャワーの設備は気になったが、庭園もあり、夕食もおいしいと評判であったので希望旅館とした。

3 上山の観光について

【使用ツール】インターネット

樹氷、温泉などが検索された。夏にはさくらんぼ狩りやリナワールドも楽しめるが冬期中はどちらも利用できなく残念だった。また、武家屋敷や上山城などの歴史関係の施設が目立ったが、正直最初は観光場所が少なく若者向けではないかと思った。しかし、ワイナリーや和菓子作り体験など見学や体験もできる場所もあることには魅力を感じた。

4 予定していた観光

1 日目

蟹仙洞博物館

駅から行く道のりからは入口がわかりづらいように感じた。中の展示品は漆工芸品や日本の美術刀剣類以外にもヨーロッパの人形なども少し展示されていた。展示品の名称が一つ一つきちんと登録してあった。説明も割と多く、英語が併記されているものもあった。各部屋の雰囲気がだいぶ異なっているので、部屋に上がって展示品を鑑賞するという手法は効果的だと思う。当日はかなり

寒かったが、休憩するための部屋があり、その部屋は暖房器具やお菓子などが置いてあり、素晴らしい工夫だと感じた。記帳されたものには海外の方も多く、また、何度も来館している方もいたので博物館としては成功していると考えられる。堆朱の展示品に関する説明が少なく感じたので、できれば改善してほしい。

レストランイビザ

住宅街の中にあり少しわかりづらい場所にあった。入店したときは少し早い時間だったため、あまり混んでいなかったが少し経つと込み始めてきた。観光客も訪れることは多いそうだが、地元の人たちにも人気があるという。食事は値段の割に量も豊富で満足した。調理をされている方が店の奥から挨拶をしてくださり気持ちのいいお店だった。

上山城

エレベーターが完備されていることや段差がなくバリアフリー化していた。またただ展示物が置かれているだけだと思っていたが、資料館の展示法が工夫を凝らしたもので驚いた。自動で資料が入れ替わったり、映像や効果音がさまざまな箇所で使用されたりしていて興味をひかれる。自然や歴史観光について一度に見学できた。美術作品もその他の展示品と並んで設置されていたのは初めて見たので驚いたが、雰囲気は良かったように思う。展示品に賽銭のように小銭が置かれているものがあったが、回収や掃除はどうしているのか気になる。城までの道筋は建物や舗装が他の地域と異なり、景観を作る努力もうかがえた。

武家屋敷

三輪家では生涯学習課の方が簡単な概要と見学の際に注目するところなどを説明して下さった。質問などにも答えてくれ、三輪家だけでなく武家屋敷全体や上山城についてのお話もうかがえた。案内から説明に至るまで丁寧な対応で好感を持てた。英語や中国語の手描きの説明文もあり、海外からの観光客への

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

対応への努力を感じられた。10年ほど前まで居住していたこともあり、武士が住んでいたままではないが、隠し部屋などがあり武家屋敷ならではの設備がありよかった。古い家財道具に実際に触れたり、間近で観察したりでき観光客を楽しませることが出来ていると思う。旧曾我家家のトイレはコンビニなどがないこの地域に必要な設備だと思う。

観音寺

想像よりかなり立派なお寺だった。本堂正面の彫り物がとても立派だったので、簡単な意味の説明などがあるとよいと思う。敷地内に「山姥」の様な石像があったが、木札の説明がほとんど消えていたので、書き直すべきだろう。すぐ下にあった「上山七不思議」の一つ「洗心の湯」は実際にお湯に触れて体験もできるのでもっとアピールしてもいいと思う。実際に見るまで知らなかった。

2日目

タケダワイナリー

宿泊地から離れた場所にあったが車での移動だとそこまで不便さは感じなかった。冬期中だったため、畑を見学できないのが残念だった。しかし、出荷前のラベル張りなどで忙しい中、様々な施設の詳しい説明やワインの試飲などの体験があり充実した内容だった。説明してくれた方だけでなく、働いている社員さんが挨拶をしてくれ、また荷物を預かるなど観光客の受け入れに対する対応がよくできていると感じた。試飲の際も多くの商品を試飲させてくれた。新しく開けてくれた商品もあり嬉しかった。

十五屋本店

和菓子体験づくりの予約時に手違いがあり、一週間前の予約となっていたが、快く対応してくれた。もともと東京から訪れる人のために開いたそう。教えてくれた方が10年近く体験の指導をしているということで、わかりやすく、楽しく体験することが出来た。また、今までどんなところで開催したか、どん

な人が来店するか、観光課との関わりなど様々なことをお話ししてくれ、最後まで退屈しなかった。季節ごとに和菓子の内容を変えたりと様々な工夫を行っていた。その時来店してお茶を飲んでいた地元のお客さんたちも上山で観光業をされている方たちで、地元のお話をしてくれた。人が集まり、情報が収集されるため、今回の調査を知っていたことは驚いた。買ったお菓子をその場で食べたり、地元の方と交流できる良い施設だと感じた。体験だけではなく、店の方との会話もとても楽しかったのでまた訪れたいと思った。

5 予定してなかった観光

1 日目

折鶴

雪がひどくなっていたため、偶然見つけた喫茶店でお茶をした。のぼりの「おしるこ」に惹かれて、店内に入ったがメニューが豊富なためお汁粉ではなくワッフルとクリームあんみつを注文した。お茶は琵琶茶など珍しいものもあった。カウンターで店内の装飾品を制作したり、店員同士の口論がなければもう少しよかったと思う。



写真1 クリームあんみつと琵琶茶

2 日目

月岡公園

ガイドマップから情報を入手した。お昼まで時間があったため上山城近くだったので、公園に向かった。園内はかなり広いが、庭園のように整備されており散歩にはちょうど良いと思う。看板がところどころ壊れていること、階段がすべりやすいところは直してほしい。

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

ジローズピザ

インターネットから情報を入手した。口コミの評価が高いところに魅力を感じた。評判通り味が美味しく、待ち時間もあまり長くなかった。タケダワイナリーのワインを使用しており、またタケダワイナリーのパンフレットがメニューに同封してあり、地域へも貢献していると感じた。

愛宕神社

鶴の休み石に行く途中にたまたま見つけた。本堂への石段がなぜか湾曲していて危険だった。敷地までの階段の手すりも少し低くて危ない。改修工事が必要だと感じる。

鶴の休石

ガイドマップから情報を入手。上山城で鶴の休石の語りがされていたため、時間もあり向かうことにした。ガイドマップの地図ではわかりにくく、道路に立っている看板もあつたりなかったりで混乱したため道に迷ってしまった。上山温泉発祥の地とされているが、規模は思ったほど大きくなかった。

稲荷神社

ガイドマップから情報を入手。こちらは看板がわかりやすかった。雪が積もっていたこともあり、少し足場が不安だった、ロープなどで順路を示してもいいと思う。

だんご本舗たかはし

お土産を買うために訪れた。名物の黒いどら焼きを8個購入した。黒いどら焼きは全部で12種類あり、箱の種類も豊富でまた駅からも近くお土産に最適だと感じた。また、ネット販売もしており積極的にお客を増やそうとする姿勢が見られた。上山の名物としてもっと前に出ても良いと感じた。

6 提案されたオプションについて

提案されたオプションは蟹仙洞博物館，上山城郷土資料館，武家屋敷，タケダワイナリー，栗川稻荷神社，十五屋本店の和菓子作り体験に参加し，それぞれの感想は上述通りである。夏であったらフルーツ狩りやリナワルド，冬では樹氷もあるため，季節によって対応できる場所だと感じた。

7 上山観光に対する率直な意見

歴史施設は想像以上に楽しめた。ただ展示するだけではなく，施設によって観光客に対しての気遣いや楽しませる工夫がいくつもあった。また昔からの大衆浴場や旅館，お寺などがあちこちに残っており，景観を見ながら歩き回るだけでも様々な発見があって楽しかった。特に鶴の休み石がある湯町周辺や観音寺の周辺の景観は，初めて見るような建物ばかりで興味をひかれた。観光名所への道筋が立札でも示されていて，歩きやすかった。しかし，この立札が分かれ道ごとにあたりなかつたので結局地図やスマートフォンを使っていたので，実際に歩いてみて設置場所を考えた方がいいと思う。上山城周辺の郵便局やかみのやま温泉などは新しいものでも瓦風の屋根を使うなど，景観への配慮が伺えた。一般のレストランなどの接客はそれほど質がいいとは思えなかった。私たちの訪れた店舗がたまたまそうただだけかもしれないが，宿泊した旅館との落差が大きく感じられた。また，お寺や神社は当日雪が積もっていたこともあり，足場があまり整備されきっておらず冬場に訪れるには適さないと思った。

8 宿泊した旅館に対するコメント

とても良い旅館だった。夕飯と朝食の量も多く美味しく，部屋食だった点もうれしく，二人で気兼ねなく話しながら食べられた。また仲居さんも料理に対して丁寧な説明をしてくれた。売店の商品は少なかったがすぐ近くにドラッグストアがあるため問題はなかった。心配していたシャワーの設備も問題なく使え，

温泉の温度もちょうどよく、露天風呂があることはやはり嬉しいと感じた。また仲居さんをはじめとした旅館の方も親切でタケダワイナリーまでタクシーの相談をしたところ旅館の方が送迎してくれた。気になったところは、部屋はきれいだったが時計がないこと、夕食の焼魚が



写真2 三木屋での夕食

冷めていたこと、特徴の一つである庭園が冬だったため見られなかったことである。また送迎して下さった方が少し迷っていたのでカーナビや地図を車内に配置するとよいと思うが、送迎自体はとても助かり感謝している。チェックインの時は温かく迎えてくれ、チェックアウトの時は見送りまでしてくれた。夏の庭園を見にまた来たいと思う良い旅館だった。

9 拡散について

Twitter を用いて情報を 39 人のフォロワーに情報を発信した。リツイートやお気に入りをして下さったのは別の班の方だけだった。私もその方のつぶやいた内容を拡散したが、同様の結果だった。Twitter はつぶやいている人の交友関係にかなり左右されるので、情報の拡散を来客者に頼ることは危険だと考える。上山町の観光に関するアカウントをいろいろ検索したが、更新頻度がかなり低くあまり有用な情報もないように感じられた。大手企業や自衛隊関係の公認アカウントで話題になり、フォロワー数が多いところは提供される情報量が多く更新頻度も高いので、参考にしてみてもいいと思う。

10 出費について

ゆかた手形 8000 円分 (2 人分)

蟹仙洞入館料	150×2	300 円
レストランイビザ昼食代	800×2	1600 円
上山城入館料	350×2	700 円
折鶴食事代	600+500	1100 円
武家屋敷入館料	150×2	300 円
ジローズピザ昼食代	1500+1400	2900 円
十五屋本店和菓子作り体験代	800×2	1600 円(そのうち 1100 円ゆかた手形, 500 円現金で支払い)

現金使用について

たい夢 たい焼き代	120×2	240 円
タケダワイナリーでワイン購入		2100 円
タケダワイナリーから上山城までのタクシー代		1030 円
十五屋本店和菓子作り体験代		500 円
だんご本舗たかはし お土産代		1500 円

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

上山おんな二人旅 ～食べて浸かって体験して！～

青野息吹，吉田有沙

1 宿泊した旅館の名称

はたごの心 橋本屋 宿泊日 2014 年 1 月 17～18 日

1 日目の行動記録

13：30 自宅発

14：00 山形駅到着

14：40 かみのやま温泉駅到着

14：45 “だんご本舗たかはし” おやつ

15：25 おくりびとロケ地

15：40 栗川稻荷神社

16：10 春雨庵

16：20 コンビニ

16：30 “さんぽみち” お土産

16：45 橋本屋チェックイン

17：00 お部屋へ GO！

17：30 散策（旅館内）

18：00 タイムテーブル作り

18：30 夕食

20：00 部屋に戻って着替え

21：00 エステ

21：40 入浴

22：50 映画（天使にラブ・ソングを2）を見ながらレポート作成

0：30 就寝

2 日目の行動記録

- 7 : 00 起床
- 7 : 15 入浴
- 7 : 50 身辺整理
- 8 : 00 朝食
- 9 : 00 身支度
- 9 : 45 旅館出発
- 10 : 05 「恋人の聖地」花咲山展望台
- 10 : 30 湯あみ地藏 足湯
- 11 : 00 チェックアウト
- 11 : 15 かみのやま温泉駅出発
- 11 : 40 長屋門アトリエ SOU にて羊毛フェルト体験
- 12 : 45 上山城見学
- 13 : 20 かかし茶屋で玉こんにゃくを食べる
- 14 : 10 果樹工房 YOSHIDA でケーキ購入
- 14 : 20 湯の上観音
- 14 : 30 月岡公園 足湯
- 14 : 50 ニュー村尾 足湯
- 15 : 20 まち café どんどん焼き
- 16 : 10 大國屋 お土産
- 16 : 20 だんご本舗たかはし お土産
- 16 : 30 かみのやま温泉駅着
- 17 : 06 かみのやま温泉駅発
- 17 : 20 山形駅着
- 18 : 00 帰宅

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

2 宿泊した旅館に関する事前情報

・橋本屋のホームページ

客室の写真、アメニティやその他備品、家具について、客室以外の館内施設についての写真、温泉の効能、エステのコース、おみやげ、食事の写真と料理名、宿泊プランと空室状況について、住所・電話番号・FAX

ホームページ全体がおしゃれで、館全体の雰囲気がよくわかった。しかし雰囲気を重視するあまり、内容を読み取りづらく、知りたい情報を見つけにくくしているように感じた。また、横長の作りになっているためにスマートフォンだと見づらかった。住所は書いてあったが、アクセス方法が書かれていなかったため、地図やアクセス方法があるとよい。

・じゃらん

写真、料金、クチコミ、住所、交通アクセス（JR・車）、送迎について、パーキングの有無、客室について、部屋設備、温泉について、アメニティ、施設内容、サービス&レジャー、宿泊プラン

情報が一覧になっていて見やすい。クチコミが豊富にあるため、旅館を選ぶ際に非常に参考になった。メールやLINEで友達と情報を共有できる機能があり、友達と訪れる若者にとっては手間が省けて便利だと思う。しかし、写真が少なめであるため、もう少し写真があれば雰囲気がわかってよりいいと思う。

3 上山の観光について

・かみのやま温泉—山形県上市市観光物産協会—

イベント・ニュースに関する情報、クアオルト健康ウォーキングに関する案内、カテゴリ別の観光スポット、温泉に関して、地区別の宿泊リスト、上市市へのアクセス

ページ全体が見やすいうえに情報も豊富に盛り込まれていた。パンフレットやイベントカレンダーなどの資料がPDFでダウンロード可能で便利。カテゴリ別に観光スポットのページでは住所だけでなく地図も表示しておくとうまく手が省けて便利かもしれない。

- ・ 上山市ホームページ 観光案内

観光案内リンク集, 蔵王についての情報, 上山の農産物, 観光施設のリンク, アスリートヴィレッジに関するリンク

写真が全くなく, 文字のみであるため読むのに時間がかかった。また, ページ内の情報はほとんどリンク集になっていたため少し物足りない。

- ・ Yahoo!トラベル

かみのやま温泉についての説明, 簡単なアクセスについての紹介, 近隣の温泉施設

写真も情報も少なめであまり参考にはならなかった。

- ・ Mapple

観光スポット, グルメスポット, 土産, 宿泊先, モデルコース, クチコミランキング, ホテル検索, 交通網予約

写真が豊富だった。ページ内で上山について調べるだけでなく宿泊先や移動手段の予約までできて便利。

4 予定していた観光

<一日目>

- ・ だんご本舗たかはし

お団子と抹茶のセットとおしるこドリンクセットをそれぞれ注文した。値段の割には量が多く, 満足感があったため予想していたよりも良かった。甘すぎなくて男性も楽しめると思う。店内の喫茶コーナーには, 上山オリジナルの加勢鳥Tシャツや手ぬぐいなどが並んでおり, 観光客には喜ばれるのではないだろうか。

- ・ 丸内牛肉店で牛肉コロッケ

だんご本舗たかはしでの甘味の量が思ったより多く, おなかが膨れてしまったのでコロッケは二日目にすることにした。

- ・ 湯あみ地藏の足湯

時間がなかったため二日目にした。

<二日目>

・花咲山展望台「恋人の聖地」

クアオルトコースになっていることもあり、花咲山展望台は思った以上に坂道と雪道で大変だった。登っているときにウォーキングしている地元の方とすれ違い、地元の方にもクアオルトが親しまれているようだった。恋人の聖地からの景色がとてもきれいだった。「恋人の聖地」と言うだけあって、以前来た恋人たちの残した錠がたくさんあったことに思っていたよりも訪れる人が多い有名な観光スポットであると実感した。

・湯あみ地蔵の足湯

少し見つけにくい場所にあった。湯あみ地蔵は地元の人に服を着せてもらっており、花も供えられていたため、地元の方々に厚く信仰されていると感じた。上山市内の他の足湯よりも整備されていた。荷物を置くスペースや道路から見えないように木柵が設置されており、落ち着いて足湯に浸かれるように工夫されていた。

・上山城

展示が時代ごとに階が分けられており、まとまった印象を受けた。最上階の展望台では、そこから見える風景についての解説付のパネルや写真があれば次に向かう場所を決める参考にもなると思う。土曜日に訪れたので、観光客であふれているかと予想していたが、ほとんど人がいないことに驚いた。上山城内の売店には直接上山に関するものはあまりなかったが、歴史が好きな人には喜ばれるようなグッズが充実していた。お城近くにあった茶屋にも行ったが、その場で食べられるものは玉こんにゃくなく、飲み物も売っていてほしかった。

・果樹工房YOSHIDA

果樹工房という名前から洋菓子店のような外観を想像していたが、思ったよりも和風だったため見つけにくかった。地元の果物を使ったジュースやケーキがあると思っていたが、和菓子が多かった。しかし、店員さんは気さくでおまけまで付けてくれて印象は良かった。

・長屋門ギャラリーS O U

地元のアーティストの作品が展示されており、見ているだけで楽しかった。500円で展示されていた作品を購入できるだけでなく、羊毛フェルトを体験できるということだったので体験してみた。丁寧な指導の下、自由なデザインやサイズで作ることができた。一緒に製作していた常連の方とのコミュニケーションも楽しめた。

・丸内牛肉店

出来立てのコロッケを想像していたので、コロッケが冷えていて少し残念だった。室内で食べられるスペースがあったので、レンジが置いてあると良かったかもしれない。

・だんご店舗たかはし

お土産に黒いどらやきと山形ドーナツを購入した。

5 予定していなかった観光

現在地から近場のところを『とうるとうる』のまち歩きマップを見ながら決めた。

<1日目>

・映画『おくりびと』のロケ地

意外と小さく、こぢんまりとしており、中に入れなかったのは残念だった。看板が小さく、ボロボロで気付きにくかったため、通り過ぎそうになった。MAPに観光地としてアピールするほどの内容は感じられなかった。

・栗川稻荷神社

思っていたより鳥居がたくさんあってインパクトがあった。鳥居がありすぎてどこから入っていいのか分かりにくかった。また、石段が凍っており、危なかったのでもう少し除雪に気を配ってほしい。

・春雨庵

趣があつてよかった。平日だからか人が少なく、茶屋がやっていなかったのが残念だった。看板が小さく、奥まった場所にあったため見つけにくかった。

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

・さんぽみち

前を通ったときに可愛らしい雰囲気魅かれた。地元産業の工芸品が売られており、友人へのお土産としてさくらんぼと紅花で染められたしおりを購入。

<2日目>

・足湯（月岡公園）

足湯に浸かりながら城下の町並みと上山城を眺めることができた。しかし、見ていた地図（とうるとうる）では見つけにくかった。

・月岡神社

灯籠に月モチーフが用いられており、可愛らしい印象を受けた。神社の敷地が広い割には神社も参道もこじんまりとしており空いたスペースがもったいないと感じた。参道が手入れされていなく、ボロボロだった。水が溜まっていたため余計に歩きにくかった。

・足湯（ニュー村尾近く）

足湯用にタオルが用意されていた。上山城方面から向かうには死角になっており、看板がないため見つけにくかった。宿泊客向けの足湯なのかもしれないが、ガイドブックに載せるなら看板を設置するなどの工夫が欲しい。

・まち café

景観を壊さずにおしゃれな雰囲気を醸し出していた。室内には女性が好みそうな小物が販売されていた。NPO団体が経営しているだけあって、地元に根付いていた。お客さんのほとんどが地元の方で観光客にはまだ知られていないようだった。営業しているのが土日のみで時間も曖昧な点が理由かと思われる。店員さんは地元に詳しく、気さくで話しやすかった。

・大國屋

外観が周囲とは違っており、目を引いた。イチオシの商品の名前を外から見える位置に貼っていたため、思わず入ってしまった。ここでも店員さんがおまけでお菓子をつけてくれた。上山に来て二回目だったので、上山の人はとても暖かい人ばかりだと思った。

6 提案されたオプションについて

橋本屋内にあるエステで 20 分程度 1 人 2800 円のコースを受けた。部屋は間接照明や音楽がリラックスできる空間を演出しており、とても落ち着いて受けることができた。しかし、20 分で 2800 円という料金は学生にとっては少し高く感じた。選べるコースが多く、部分的なマッサージを好む人にはいいかもしれない。

7 上山観光に対する率直な意見

特に中心街に言えることだが、“温泉地”というイメージが薄い。温泉地と聞いて私達がイメージするような温泉卵や、古風な家や石畳が並ぶような浴衣で歩ける場所があれば“温泉地”に来了感覚を味わえるのではないだろうか。食べ歩けるスポットは多かったが、ほとんどが甘いものを提供しているように感じた。上山と聞いて最初に上山城をイメージする人も多いと思うのだが、土曜日に行ったにも関わらず思っていたよりも人が少なかった。団体客も見かけたがほとんどが年配の方で、大学生くらいの世代は城内でほとんど見かけなかった。事前に上山をインターネットで調べた段階では、どのサイトも上山城や温泉についての情報ばかりだったように思う。実際に上山を訪れて地図を見ながらぶらぶらする分には新たな発見も多かった。また、ガイドブック内でアピールされている観光スポットが、実際に行ってみると看板や標識が古びていたり小さかったりと分かりにくかった。ガイドブックに観光スポットとしてアピールしている以上、施設周辺の設備にまで気を配り、観光客に分かりやすくする必要がある。メインストリートであるはずの十日町にシャッターが降ろされた店が多く寂れた印象を受けた（図 27 参照）。町全体を歩いていて感じたのは、“温泉”を推したいのか、“上山城”を推したいのかをはっきりした方がよいのではないだろうかということだった。城下の温泉町というのがアピールポイントなのかもしれないが、二つ同時にアピールしようとするせいでどちらも中途半端になってしまっている気がした。

8 宿泊した旅館に対するコメント

好きな浴衣を選べるなど、女性目線に立った細かいオプションが多かった。また、館内施設のあちらこちらには兎をあしらったモチーフがありこちらも女性に好まれるだろうと感じた。可愛らしいデザインだけでなく、音楽や映画を鑑賞できる「おと蔵」は70～80年代のレコード店にいるような空間になっていた。映画が借りられるようになっており、ラインナップも洋画中心で女性だけでなく、男性も楽しめるように工夫されていたように思う。料理に関しては、少ない量で様々な料理が提供されており、食事中に何度も楽しむことができた。夕食のおにぎりが用意されていたのはどのホテルでも見たことがなかったので驚いた。また、個室で毎食決まった部屋だったため、落ち着いて食事をとることができた。次に風呂については、部屋ごとに露天風呂がついている点に感動したとともに、シャンプーを選べる点に気遣いを感じ、露天風呂の形状が二段になって他とは異なっていた。チェックインからチェックアウトまで何度も細かい気配りを感じ、何不自由なく落ち着いて過ごすことができた。

問題点として挙げられるのはホームページについてである。おしゃれに構成しすぎるあまりに全体的に知りたい情報を見つけにくくなっているように感じた。また、スマートフォンに対応していない点が、若者にとっては不便だと感じた。

9 拡散について

Facebook で上山に行ったことを写真つきで発信してみたが、“いいね”を押すだけでたいしてコメントは得られなかった。しかし後日 Facebook を見た友達から上山に行ったことを指摘された。

Twitter では上山で食べたものや部屋の様子を写真付きでツイートした。上山に行ったことがない友人からどこのホテルかと尋ねるようなコメントをもらった。部屋の様子だけでなく兎モチーフについても興味を持ったようだった。

10 出費について

電車代（山形→かみのやま温泉） ￥230×2

“だんご本舗たかはし” お団子と抹茶のセット ￥500

おしるこドリンクセット ￥800

飲み物・お菓子（コンビニ） ￥360

“さんぼみち” 友達へのお土産でしおり ￥110×3

エステ ￥6,800（ゆかった手形使用）

家族へのお土産（饅頭と蕎麦味噌） ￥2,000

夕食飲み物代 ￥735

羊毛フェルト体験 ￥1,000

上山城 入館料 ￥700（ゆかった手形使用）

上山城で地図購入 ￥500

“かかし茶屋 “(玉こん) ￥100×2

(雪まろ) ￥120×2

“果樹工房 YOSHIDA “でケーキ ￥260（ゆかった手形使用）

“まち café” どんどん焼き・ジュース ￥900

“大國屋” あげまんじゅう ￥210

飴 ￥200

“丸内牛肉店” 牛肉コロッケ ￥300 （うちゆかった手形二枚使用）

“だんご本舗たかはし” お土産 ￥520

電車代（かみのやま温泉→山形） ￥460

第4章 学生による上山温泉宿泊調査



写真1 だんご本舗たかはしの甘味



写真2 だんご本舗たかはしの店内



写真3 栗川稲荷神社



写真4 春雨庵



写真5 おくりびとロケ地



写真6 橋本屋前にて



写真7 橋本屋入りロビー



写真8 橋本屋ウェルカムサービス



写真9 橋本屋客室



写真10 兎があしらわれた行燈



写真10. 客室ドア



写真11 廊下の一隅

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

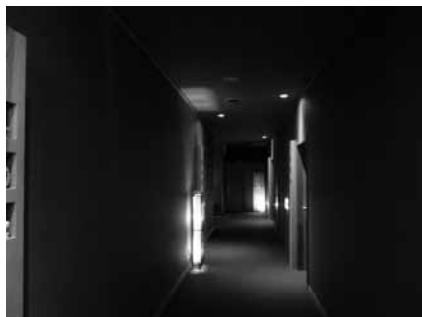


写真 13 廊下



写真 14 おと蔵



写真 15 夜食のおにぎり



写真 16 おと蔵の壁



写真 17 客室の露天風呂



写真 18 浴場の露天風呂



写真 19 恋人の聖地



写真 20 恋人の聖地に残された錠



写真 21 葉山の足湯



写真 22 長屋門ギャラリー外観



写真 23 羊毛フェルト体験で作った作品

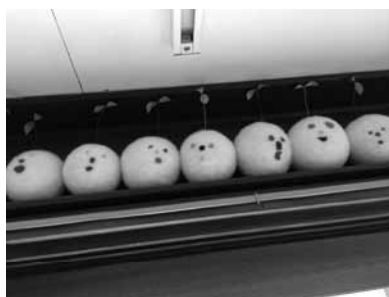


写真 24 長屋門ギャラリー内装飾 1

第4章 学生による上山温泉宿泊調査



写真 25 長屋門ギャラリー内装飾 2



写真 26 十日町のシャッター街



写真 27 上山城



写真 28 果樹工房 YOSHIDA 外観



写真 29 果樹工房 YOSHIDA のケーキ



写真 30 果樹工房 YOSHIDA の桜餅



写真 31 ニュー村尾近くの足湯



写真 32 まち café 外観



写真 33 まち café で販売されていた雑貨



写真 34 まち café にてどんどん焼き



写真 35 大國屋



写真 36 丸内牛肉店での牛肉コロッケ

第4章 学生による上山温泉宿泊調査



図1. 一日目ルート



図2. 二日目ルート

かみのやま温泉ぐるっと街歩きレポート

三浦未央，加藤舞

1 宿泊した旅館の名称

葉山館 宿泊日 2014 年 1 月 18～19 日

1 日目の行動記録

9 : 30 自宅

|

11 : 00 かみのやま温泉駅

|

11 : 30 上山城・足湯

|

12 : 30 味津肥廬にて昼食

|

13 : 00 足湯（新湯）

|

14 : 00 栗川稲荷神社

|

14 : 30 足湯（葉山）

|

15 : 00 カフェクレストンにて休憩

|

16 : 00 チェックイン

|

17 : 00 樹氷見学「あたたまる号」出発

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

18 : 00 地藏山頂駅

20 : 00 旅館にて夕食・風呂

24 : 00 就寝

2日目の行動記録

8 : 00 起床

8 : 30 朝食・風呂

11 : 00 チェックアウト

11 : 05 かみのやま温泉駅着

11 : 30 湯の上観音

12 : 00 武家屋敷通り

12 : 30 十五屋本店にて休憩

13 : 45 かみのやま温泉駅

15 : 15 仙台駅

16 : 00 自宅



写真1 湯の上観音



写真2 鶴の休石

2 宿泊した旅館に関する事前情報

かみのやま温泉駅よりタクシーで5分。閑静な温泉街の一角にある。全32室すべてに源泉100%の温泉の出る内風呂が付いている。泉質は、ナトリウム・カルシウム一塩化物・硫酸塩温泉で、疲労回復、冷え性、五十肩、きりきず、やけど等に効果がある。2012年6月にエコとピュアをコンセプトとした大浴場がリニューアルした。全館、上質な時間と空間を満喫できる仕上がりとなっている。

葉山館のホームページ等からも、館内のモダンで落ち着いた雰囲気、大変魅力的であると感じた。また、全32室すべてに源泉100%の温泉の出る内風呂が付いているということで、宿泊がとても楽しみである。



写真3 部屋の内風呂



写真4 かみのやま温泉駅

葉山館 <http://hayamakan.com/>

やまがたの暮らしまるごと応援サイト「い～山形どっとこむ」

<http://www.e-yamagata.com/>

3 上山の観光について

城下町、温泉町、宿場町の3つのまちの顔を持つ観光地である。サクランボやブドウ、ラフランスなど高品質の果実を育んでいる。果樹園も多く、季節に

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

よっては果物のもぎ取りも体験できる。また、街の中心には上山城が再建されている。武家屋敷や映画おくりびとのロケ地といった観光施設も多数存在する。さらに2013年に開湯555周年を迎えた「かみのやま温泉」あり、100円で利用できる共同浴場や多数の足湯が点在する。温泉宿の中には手作り体験やエステ体験などができる施設もある。上山市としては、自然の中を歩くウォーキングや温泉を中心とした様々な地域資源と連携してドイツの健康保養地を手本に新しい温泉クアオルト「滞在型温泉健康保養地」のまちづくりも進めている。ホームページで調べた結果、かみのやま温泉駅周辺には予想していたより、多くの観光施設やみどころがあることがわかった。写真が多数掲載されているページもあり、観光のイメージができ、一層宿泊実習が楽しみになった。

上山市ホームページ <http://www.city.kaminoyama.yamagata.jp/>

上山観光物産協会ホームページ <http://kaminoyama-spa.com/>

めでためでた♪花の山形広域観光圏 <http://www.medeta.info/>

4 予定していた観光

○上山城（提案されたオプション）

上山城から上山市を眺めるのはもちろん良かったが、中の郷土資料館では上山の歴史や上山が生んだ偉大な歌人である斎藤茂吉について様々なことを知ることができる有意義なものだった。上山城のすぐ傍にある足湯に入りながら眺める上山城もとても風情があり綺麗だった。

○栗川稲荷神社（提案されたオプション）

多少道に迷いそうになったが、道端に標識がいくつもあったため栗川稲荷神社にたどり着くことができた。多数の鳥居は圧巻だったが、雪が積もっていたためもあるだ



写真5 上山城前のやぐら



写真6 上山城からの景色

ろうが、足元が不安定だったため参拝することが困難な人もいるだろうと感じた。

○武家屋敷（提案されたオプション）

並んでいる武家屋敷の中でも三輪家は有料だが建物内を見学することができた。説明書がいくつもあったため見学に不便は感じなかったが、実際にどのような生活を送っていたのかなどを直接ガイドの方などから聞くことができればなお良いのではないかと感じた。入口にゆかった手形取扱店の目印があるため、安心して入ることができ、よかった。

○十五屋本店

多くの和菓子、洋菓子がありどれも魅力的であった。テイクアウトの他に、店内で頂くこともできる点もよかった。店内には地元のお客様と思われる方も数名いらっしゃり、観光客だけでなく地元の方々からも愛されているお店なのだというを感じた。



写真7 栗川神社



写真8 三輪家入口



写真9 十五屋本店ケーキセット

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

○かみのやま温泉足湯めぐり（提案されたオプション）

街の中のいたるところに足湯があり、良い休憩場所にもなった。2月ということで気温が低かったため、暖まることもでき、よかった。

○樹氷見学「あたたまる号」（提案されたオプション）

宿からの送迎付きだったため、気軽に参加することができた。ガイドの方がゴンドラの中で樹氷や霧氷の説明などを行ってくれたため、より一層楽しむことができた。山頂は -10°C の世界だったが、初めて見る樹氷は感動的であった。今回は夜のライトアップを見るツアーだったが、次は昼間の樹氷も見てみたいと思った。



写真 10 足湯(湯町)



写真 11 樹氷見学(あたたまる号)

5 予定していなかった観光

○湯の上観音

武家屋敷通りに向かう途中で見つけたため立ち寄って参拝した。

○鶴の休石

湯町の足湯の近くにあったため立ち寄った。かみのやま温泉の発祥の地ということだったが、詳しい説明がもう少しあってもよいのではないと思った。

○クレストンカフェ

予定していた観光地を早く回り終えたため、かみのやま温泉街歩きMAP『とうるとうる』に掲載されていたこのカフェに立ち寄ってみることにした。店内はとても可愛らしく落ち着いた雰囲気でゆっくりくつろぐことができた。ハーブティーの種類も豊富で、ケーキも美味しく、また足を運びたいと思った。

○名月荘お蔵のギャラリー（提案されたオプション）

クレストンカフェの店員の方に提案されたため立ち寄った。白壁の蔵は、秋田県鷹巣町・相馬邸の文庫蔵として使われてきたものである。重厚な空間は、山形のアーティストやデザイナーのデザイン作品や工芸品を常設展示するギャラリーである。山形にちなんだ作品等もあり、興味深かった。「山形デザインハウス」とのコラボレーションにより実現したもので、購入も可能なようである。

6 提案されたオプションについて

多数のオプションを提案していただき、観光する場所を決める際にとっても参考になった。参加したオプションの感想等は6、7に含めた。



写真 12 チョコレートケーキ



写真 13 フレンチトースト

7 上山観光に対する率直な意見

想像していたよりも要所要所までの距離が短く、気軽に街歩きができて良かった。温泉街は一通り見て回ったが、上山城からの美しい眺め、栗川稻荷神社の鳥居群には圧倒された。また、「そろそろ足が疲れたな…」という頃に熱々の足湯が点在しているのも魅力の一つだと感じた。

しかしながら、土日にも関わらず上山市内を観光している人を見かけることはほとんどなく、観光業の難しさや厳しさを感じた。見学施設・飲食店等も入り難い雰囲気のところが多く、観光客に対してもっとオープンな雰囲気を出していくべきではないかと感じた。

私達のような年代の層を上山に引き込むためには、“食（スイーツ）”により一層力を入れる必要があると考える。かみのやま温泉街歩き MAP『とうとうる』によれば、2013年11月末まで「スイーツめぐり秋の誘惑」という企画が行われていた。これは、上山市で収穫される果物や野菜を使ってオリジナルのスイーツを作り、かみのやまをもっと元気に、もっと輝かせたいとの願いから誕生した企画である。この企画に参加していたカフェクレストンのフレンチトーストを食べたが、大変美味であった。かみのやま温泉の各旅館も入浴等とセットにして参加していたが、事前に予約が必要であったり、1日の個数が限られていたり、気軽にスイーツが楽しめるとは言い難い。手軽にかみのやまのスイーツが楽しめて、街歩きの途中で一息つけるような場所が増え、また、SNS等で積極的に情報を発信していけば、私達のような年代の層を上山に引き込めるかもしれないと考える。



写真 14 夕食(前菜)

8 宿泊した旅館に対するコメント

チェックイン後、若女将の作った梅シロップのお湯割りをご馳走になったり、樹氷見学「あたたまる号」に参加するというので、旅館の方からホッカイロを頂くなど、宿泊客一人ひとりに対するきめ細やかなサービスが感じられる旅館であった。

旅館が葉山にあるということから、部屋からはかみのやま市内を見

渡すことができた。源泉 100% の出る檜風呂が付いており、部屋でもゆつくりと温泉が楽しめるという点で魅力的だと感じた。また、夕食・朝食ともに個室に案内された。周囲を気にすることなく、落ち着いた雰囲気の中、料理を堪能することができた。料理も一品一品丁寧に作られており、味・量ともに大変満足であった。温泉は、24 時間利用可能で大浴場・露天風呂からなっており、アニメティも充実していた。あまり混雑しておらず、気持ちよく入ることができた。

落ち着いたモダンな雰囲気の館内、清潔感溢れる浴場など、安らげる空間作りに力を入れている様子が伝わってきた。



写真 15 夕食(鮭の照焼き)



写真 16 葉山館わらび餅



写真 17 朝食(和食を選択)

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

しかしながら、館内の複雑な構造と露天風呂のお湯がいささか温すぎたという点においては、改善すべきと考える。

9 拡散について

Twitter・Facebook・Instagram（写真投稿アプリ）等で、旅の様子を拡散した。これらを見た友人、知人から「かみのやま温泉どうだった？」と聞かれることが多かった。SNS等で拡散することが、かみのやま温泉に興味を持つきっかけになり、「かみのやま温泉に行ってみよう！」という行動につながるのではないだろうか。

私達が宿泊した葉山館も、Twitter・Facebook等で積極的に旅館の最新情報を発信している。SNS等も使い方によっては観光客を増加させ、温泉事業を栄えさせるツールのひとつになると考える。

10 出費について

- ・上山城入館料（ゆかった手形8枚）¥400×2
- ・昼食（味津肥廬）¥650（ざるそば） ¥900（鴨南蛮そば）
- ・休憩（カフェクレストン）（ゆかった手形5枚・現金）
¥750（フレンチトーストセット） ¥740（チョコレートケーキセット）
- ・樹氷見学「あたたまる号」¥3,700×2
- ・武家屋敷三輪家入館料（ゆかった手形3枚）¥150×2
- ・十五屋本店（ゆかった手形10枚）¥1,000（うぐいす餅・ケーキセット）
- ・お土産（ゆかった手形14枚・現金）¥1,500（つや姫せんべい×2）
- ・交通費（上山→仙台高速バス）¥1,900（2回券）
- ・蔵王スター（葉山館夕食）¥630×2

歩きまわって足湯で癒す！かみのやま温泉の旅

R. K., Y. K.

1 宿泊した旅館の名称

旅館三恵（りょかんみつえ） 宿泊日 2014 年 1 月 17～18 日

1 日目の行動記録

10 : 30	山形駅発
10 : 47	かみのやま温泉駅着
10 : 51～11 : 00	だんご本舗たかはしにて、団子 2 本と黒いどらやき購入
11 : 09～11 : 20	前川足湯に入りつつ、購入した団子とどらやきを食べる
11 : 35～11 : 40	新湯足湯に入る
11 : 50～12 : 05	春雨庵を見学する
12 : 27～13 : 03	武家屋敷通りにて武家屋敷を見学
13 : 06 ごろ	藩校の明新館を外から眺める
13 : 10～13 : 20	湯町足湯に入る
13 : 27～13 : 30	湯の上観音に参拝する
13 : 43～14 : 35	昼食（ジローズピザ，マルゲリータ，生ハムサラダ）
14 : 40～14 : 50	石崎バス停から高松葉山温泉のバス停までバスに乗る
14 : 50～15 : 00	バス停近くのディスカウントショップで地酒を購入
15 : 13～15 : 20	葉山足湯に入る
15 : 30～16 : 20	橋本屋で日帰り風呂に入る
16 : 30	旅館三恵にチェックイン
16 : 50～17 : 12	花咲山展望台，葉山神社まで行く
17 : 40～18 : 20	橋本屋にて足裏マッサージを受ける
18 : 30	旅館三恵に戻る
19 : 00～20 : 30	夕食をとる

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

21:00～22:00	温泉に入る
24:00	就寝

2日目の行動記録

6:30	起床
7:00～7:50	朝風呂に入る
8:00～9:00	朝食をとる
10:00～10:30	旅館三恵から上山城周辺に移動
10:30～10:50	月岡公園を散策
11:00～12:00	上山城をボランティアの方と一緒に見学
12:05～12:15	月岡公園にある足湯に入る
12:30～13:20	まち café にて軽食をとる
13:40～14:00	栗川稲荷神社に移動
14:00～14:20	栗川稲荷神社にお参り，おみくじをひく
14:40～15:00	だんご本舗たかはしでお土産を購入
15:10	駅観光案内所でスタンプラリーの景品をもらう
15:25	かみのやま温泉駅発
15:38	山形駅着，解散

2 宿泊した旅館に関する事前情報

宿泊先について，インターネットで事前調査を行った。サイトは旅館の HP，宿情報サイト（じゃらん net，楽天トラベル，トクー！）を利用した。旅館の HP から，温泉の種類と入浴可能時間帯，食事の内容，部屋のアメニティの情報を調べた。宿情報サイトでは，クチコミに投稿されている情報をチェックした。クチコミ情報では，「旅館の従業員の接客が丁寧」「地物の野菜を使った料理が美味しい」など接客に関するよい評価と，「掃除をもっと行き届かせてほしい」という評価があった。

調べてみた感想として，旅館 HP で，料理の詳しい品目があげられていたがイ

メージがつかめなかったので、料理の写真が欲しいと思った。旅館の家庭菜園の写真などからアットホームな雰囲気を感じた。しかし、クチコミの評価に上がっていた清掃について、お風呂が汚れていたらどうしよう、と不安に感じた。

3 上山の観光について

上山の観光全般についてインターネットとパンフレットで事前調査を行った。インターネットで利用したサイトは上山市役所、上山市観光物産協会 HP、かみのやま温泉旅館組合公式 HP である。パンフレットは「とうるとうる第 6 号」、「かみのやま温泉観光ガイドブック」を参考にした。上山市には、地区ごとに湯町、十日町、新湯、高松、葉山、河崎など数多くの温泉がある。新湯、湯町の方面は上山城の城下町であり、武家屋敷や藩校跡地などが当時の面影を示すものとして残っている。ゆかりのある著名人の史跡として、斎藤茂吉記念館、春雨庵がある。城下町、宿場町、温泉地の 3 つがそろって古風な情緒があふれる街であることから「浴衣の似合う町」を掲げ、イベントなどを行っている。また、上山市では、自然の中を歩く健康ウォーキングや温泉を中心に、食、自然、文化などの様々な地域資源と連携して、ドイツの健康保養地をお手本とした新しい日本型温泉クアオルト「滞在型温泉健康保養地」のまちづくりを進めており、ウォーキングメニューなどが複数提示されている。

感想として、歴史的な建物を見るのが好きなので、歩いて回れる範囲に武家屋敷やお城があるのは楽しみだと感じた。しかし、「浴衣の似合う町」やウォーキングなど、適した季節が限定されてしまうものが多いと感じた。

4 予定していた観光

予定していた観光は、①新湯、湯町、前川、葉山、月岡公園の 5 つの足湯めぐり、②橋本屋での足裏マッサージ（エステ）、③まち café に行く、④武家屋敷に行く、⑤上山城をボランティアガイドの方と一緒に回るの 5 つである。変更点として、1 日目に予定していた③まち café を営業日の関係で 2 日目に変更した。

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

＜実際に行ってみて＞ ○：よかったこと ×：悪かったこと

① 5つの足湯めぐり

○さまざまな足湯をめぐり、足湯ごとにかみのやま温泉の歴史などが書かれており、湯に入りながらもかみのやまの歴史に触れることが出来た。また、冬ということもあったため、足湯に入ることによって身体を温めながら、かみのやまを観光することができた。全部めぐると景品がもらえるのも、達成感があって楽しかった（写真1）。

×スタンプラリーの一つになっている葉山の足湯は、中心街から離れており、葉山・高松地区の旅館に宿泊する客以外は行きづらいように感じ、スタンプラリーを達成しにくいように感じた。また、冬ということもあり、足湯に入るときは風が冷たかったため（写真2）、景観を損なわない程度に風除けがあると女性としては嬉しい。それに加えて、足湯が脛くらいまでつかれる深さになっており、温まりやすい一方でレギンスやスキニージーンズを履いていると、いちいちまくったりおろしたりするのが大変だった。くるぶしくらいまでで足湯にはいれるように、足湯の内部にも石や段差が欲しいと感じた。

② 橋本屋での足裏マッサージ（エステ）

○1日中歩き回っていたので、足の疲れをとれたのと同時にリラックスすることができた。また、珍しいオイルを使ってくれて、その日の足が乾燥しにくかったように感じた。

×事前の予約ではお互い話しながら待てるということであったのに、外で一人ずつ待たされたこと。近くに雑誌がおいてあったのは良かったが、40代、50代向けの雑誌などで若い人向けの雑誌は特になく、退屈であった。

③ まち café に行く

○内装や置かれていた雑貨が可愛らしかった。飲み物も紅花を使ったジンジャーティーなどが置いてあり、地域色が出ているものも置いてあり、特色があった。

×観光客向けの café だと思って行ったら、地域住民の集いの場のような位置づけであったため、自分たちが部外者のような感じを受け少し居心地の悪さを感じた。

じた。地域住民の集いの場であったためか、店員なのか常連客なのかが区別できずに、誰に注文をすればいいのかも分かりづらかった。

④武家屋敷に行く

○かみのやまの歴史を感じることが出来た。当時の武家についての様子や、屋敷の特徴などを詳しく説明して頂けて、より武家屋敷を興味を持って見て回ることが出来た。また、写真撮影も許可されていたため、自由に写真を撮影することが出来て、文化財では珍しいなと思った。

×平日の金曜日でお客さんがあまりいなかったためか、暖房が効いておらず、つけてはくれたもののとても寒かった。また、展示品に関して展示されている名前のみしか掲載されておらず、その展示品の歴史や由来など詳細な説明が欲しいと感じた。

⑤上山城をボランティアガイドと回る

○ボランティアガイドと回ったため、見学する順番が分かりやすかった。また、かみのやまに関してさまざまな説明をして頂けて、ただ単に上山城を見学するだけでは飽きてしまいそうだったが、楽しく見学をすることができた。上山城の中は歴史だけしかないのかと思っていたが、実際はかみのやまの風土なども説明されていて良かった。屋上を見て、「あれが山城のあった場所だよ」「あそこが〇〇だよ」といった説明をしてくれたことが、面白かった。そして、ボランティアガイドとしてついてくれた高橋さんがとても面白く、旅は一期一会だな、と感じた。

5 予定していなかった観光

時間の余裕を見ながら、観光を追加した。追加したのは①栗山稲荷神社への参拝、②春雨庵の見学、③ジローズピザでの昼食、④湯の上観音への参拝、⑤橋本屋での日帰り温泉入浴、⑥花咲山展望台へ行くの6点である。

<実際に行ってみて> ○よかったこと ×悪かったこと

①栗山稲荷神社への参拝

足湯めぐりをしていたとき、栗山稲荷神社への看板がいくつも載っていたため、

興味を持った。そこで、持ってきていたとうるとうるを見ながら、栗山稻荷神社に参拝することにした。

○意外と大きく、神社の中にも奉納物がたくさんあり、ご利益がありそうだった。おみくじも何種類か置いてあり、自由に選ぶことができて楽しかった。

×雪や地面が凍っているなどの足場が悪く、滑りやすかった。

②春雨庵の見学

足湯めぐりをしていたとき、看板があり興味を持った。そこでとうるとうるで場所を確認して、見学をしに行った。

○たくあんが無料で置いてあると思わなかったため、驚いたがとても美味しかった。また、沢庵禅師が住んでいた春雨庵は、とても趣があり、穏やかな気持ちになれた。茶室とかが自由に見ることが出来てよかった。

×沢庵禅師については説明が多々あったが、春雨庵の内部について説明があまりなく、もう少し沢庵禅師の生活が感じられる工夫が欲しかった。沢庵は美味しかったが、とてもしょっぱく、注意書きも無かったため高血圧の人とか大丈夫だろうか、と感じた。また、併設していたお抹茶が予約制だと知らず閉まっていたため、少しショックだった。

茶室のふすまを開けた時、立て付けが悪く閉まりにくかった。

③ジローズピザでの昼食

洋食が食べたく、とうるとうるで確認したところジローズピザが載っており、足湯にも近かったので行くことにした。

○外装や内装がとても凝っており、かわいらしかった。また、生ハムサラダとマルゲリータのハーフ&ハーフがあり、女性としてはサラダもピザも食べられてとてもお得に感じた。また、ピザ1枚がとても大きく、ボリュームもあってよかった。

×お店への行く道が分かりづらかった。今回はゆかった手形をクーポンとして使えたため、あまりコストは気にしなかったが、学生にとっては少し高いように感じた。

④湯の上観音への参拝

足湯巡りの途中で見かけて、興味をそそられたため行ってみた。

○市内を見渡すことができてよかった。

⑤橋本屋の日帰り温泉に入浴

とうとうの高松・葉山地区に載っていた日帰り温泉一覧から選択した。時代屋に行ってみようか、と最初話していたのだが時代屋の日帰り温泉の入浴時間が終了していたため、橋本屋に行った。

○露天風呂の眺めが素晴らしかった。また、一人か二人しか入れないくらいの大ささの意思でできた露天風呂が、自分専用な感じがして良かった。また、アメニティも充実していて、化粧水や乳液、ピーリングなどが用意されていたし、シャンプーもいくつかのブランドから選べるようになっていたため、何も用意していなくとも簡単に日帰り温泉に入れるな、と感じた。加えて、温泉後に飲めるハーブティーなども置かれており、充実していた。

×日帰り温泉としては少し高いように感じた。特に学生にとって日帰り温泉で1000円も取られるのでは、なかなか気軽に入りにくいと思う。

⑤花咲山展望台へ行く

旅館三恵に荷物を下ろし、とうとうを眺めていたところ、近場に展望台があることを知り、時間に余裕もあったため散策しに行った。

○かみのやまを一望出来て、眺めが良かった。日が少し暮れているときに行ったので、夜景がとてきれいだった（写真3）。

×冬で人があまり行かないせいか、足場があまり整備されておらず、雪で歩きにくかった。地図が登り始めのところしかなかったため、休憩所などにも地図が設置されていると良かった。また、夜景として非常に魅力があるのにも関わらず、街灯なども設置されていなかったもので、宿泊客が泊りに来たときは行きづらいように感じた。

6 提案されたオプションについて

提案された観光オプションの中から、「体験：エステ（橋本屋）」、「温泉：かみのやま温泉日帰り入浴（橋本屋）」、「温泉：かみのやま温泉足湯めぐり」、「ま

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

ち歩き：上山市観光ボランティアガイドと行く城下町まち歩き」,「観光施設：武家屋敷」に参加した。参加した感想は6, 7章で前述のとおりである。

7 上山観光に対する率直な意見

観光施設については、観光する場所が少ない、あっても長時間滞在できない場所が多いと感じた。すべて徒歩移動で回ったが、観光施設も外（寺、神社）や屋内でも寒い場所（武家屋敷）があった。観光施設のそばに喫茶店のような休憩どころがあると良いと思った。上山城資料館の周辺には、足湯、お土産どころ、休憩所がそろっており、良いと感じた。

飲食店については、店の中が全く見えず、観光客が入りにくい店が多いと感じた。少し店の中が見えるようにするか、店内の様子ものっているパンフレットが欲しい。若者世代を呼び込むには、料金の安さを売りにした、500円ランチメニューなどが必要ではないかと考える。

お団子を食べながら足湯に入るのは楽しかった。手にもって食べられる、手軽なお菓子や軽食がもっとあれば良かった。また、人通りがある場所でならば、実演販売のように外でおまんじゅうを蒸すなど、歩いていて目を引くものが何か欲しいと考える。

8 宿泊した旅館に対するコメント

旅館の方が親しみやすく、気さくに話しかけてくださったのが良かった。また、料理もとてもおいしくボリューム感もあったので満足できた（写真4）。夜中に女湯と男湯の暖簾交換をしてくれる、家族風呂も大浴場も24時間自由に入れるなどいろんなお風呂を使えるように工夫してくれていたのが良かった。事前調査で清潔感に不安を抱いていたが、お部屋もお風呂もとても綺麗で、安心してゆっくりすることができた（写真5）。

改善すべき点として、部屋の電話に部屋の番号や使い方が書いていない、段差が多くスリッパで移動がしづらい、廊下（特に大浴場から出たあたり）が寒いという点が挙げられる。客室前すべてを十分に暖房するのは難しいとしても、

大浴場の周辺は暖房をしてほしいと感じた。

9 拡散について

今回は、参加者両者ともあまり SNS に慣れていないため、Twitter でのつぶやきをいくつか行っただけであり、特に反応というものはなかった。SNS での拡散では、なるべく写真を多く乗せるなどして、見た人がイメージしやすいと感じる。宿泊施設や観光施設の Facebook ページがあると、「楽しかった！」という感想をお店の人と友達の双方に伝えられるのではないかな。

10 出費について

○ゆかった手形 △実費

山形駅〜かみのやま温泉駅(電車往復) $\triangle ¥460 \times 2 = 920$

だんご本舗たかはし(団子2本, 黒いどらやき1つ) $\bigcirc ¥300 + \triangle ¥60 = 360$

栗川稲荷神社(おみくじ) $\triangle ¥100$

武家屋敷(三輪家見学) $\bigcirc ¥150 \times 2 = 300$

ジローズピザで昼食(マルゲリータ, サラダ, コーヒー, 紅茶) $\bigcirc ¥, 2300$

石崎バス停〜高松葉山温泉までのバス運賃 $\triangle ¥180 \times 2 = 360$

ディスカウントショップ(日本酒, ビール, チュウハイ) $\triangle ¥980$

橋本屋の日帰り温泉 $\triangle ¥1, 000 \times 2 = 2000$

橋本屋での足裏マッサージ $\bigcirc ¥1, 800 \times 2 = 3600$

上山城の見学 $\bigcirc ¥350 \times 2 = 700$

まち café (コーヒー, 紅花ジンジャーティー, バナナケーキ)
 $\bigcirc ¥800 + \triangle ¥400 = 1, 200$

春雨庵の見学 $\triangle ¥100 \times 2 = 200$

だんご本舗たかはしでお土産を購入(黒いどらやき) $\triangle ¥1, 000 \times 2 = 2, 000$

計 $\bigcirc ¥8, 000 + \triangle ¥7, 020 = 15, 020$

第4章 学生による上山温泉宿泊調査



写真1 足湯スタンプと景品の足袋



写真2 葉山の足湯



写真3 夕食（旅館三恵）



写真5 宿泊した部屋（旅館三恵）

これからの上山の在り方について我々視点から考える

川尻陽太，渡邊謙吾

1 宿泊した旅館の名称

日本の宿 『古窯』 宿泊日 2014 年 1 月 18～19 日。



写真1 日本の宿古窯 外観



写真2 古窯のロビー

1 日目の行動記録

9:35 山形駅発 → 奥羽本線 → 9:48 かみのやま温泉駅着 → 徒歩 →
10:00～10:30 足湯（前川） → 徒歩 → 10:50～11:50 「川芳」にて昼食
天ざるそばを頂く → 徒歩 → 12:00～12:20 足湯（新湯地区） → 徒歩 → 12:
30～13:15 ロアール喫茶店で休憩（レアチーズケーキを頂く） → 徒歩 →
13:45～14:30 カサブランカというお店で休憩（コーヒー1杯） → 徒歩 → 14:
45 古窯到着（チェックイン） → 16:00～17:00 楽焼絵付け体験 → 18:
00～20:00 夕食 → 20:30～21:00 津軽三味線の観賞（古窯の一階ロ
ビーにて） → 21:00～21:30 入浴 → 23:00 就寝

2 日目の行動記録

7:30 起床 → 8:00～9:00 朝食（バイキング） → 9:30～10:
30 入浴 → 11:00 チェックアウト → 11:00～11:50 古窯の中の土産物
屋で買い物 → 古窯の車で移動 → 12:00～13:30 「味津肥廬」にて昼食（鴨

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

せいろを頂く) ー徒歩→

14:00～14:20 上山市立図書館(カミン内) ー徒歩→ 14:30 かみのやま温泉駅着 ータクシー→ 15:00～17:00 茂吉記念館 → 17:09 茂吉記念館前駅発 ー奥羽本線→ 17:45 山形駅着

2 宿泊した旅館に関する事前情報

「日本の宿 古窯」に宿泊する前に得た情報は8つある。これらの情報は、日本の宿古窯の公式ホームページから得た。

- ①みるみる美人になれるようなお化粧温泉がある。
- ②地元が産地の食材をふんだんに使った料理。山形牛、米沢牛また契約農家から直送される朝採り野菜といった地元の食材にこだわっている。
- ③時間で楽しめるスタイル自由なお風呂がある。
- ④源泉かけ流し露天風呂客室がある。
- ⑤四季によって変化するお花観賞することができる。全てが生花である。
- ⑥種類豊富な部屋が存在する。和室、和洋室、和風モダン、洋風モダン。
- ⑦樂焼の絵付け体験ができる。
- ⑧ISO9001を取得している。

事前に8つもの魅力を知り、ほかの旅館とは格段に大きく差別化を図っていると感じた。

3 上山の観光について

(川尻) 上山城が第一に挙げられる。そして、武家屋敷、茂吉記念館である。そして、上山の観光についてはほとんど調べていない。それは以前地理学の授業で一度上山を訪れ、その際に巡った名所が上山城と武家屋敷だからである。そして、茂吉記念館は以前から知っていた。

(渡邊) 上山はかみのやま温泉で有名とあってやはり、温泉観光という印象を与えているが、温泉以外の観光資源も豊富に存在するということが分かった。まず、上山市に入ってしばらく進むと見えてくる上山城、徳川幕府施政下の江

戸時代において上山は上山藩として上杉家の米沢藩や最上家の山形藩の間に中間地点としての宿場町としても栄えていた。このような温泉街、宿場町、城下町が三つ同時に存在する都市は全国的にも珍しいということが調べていてわかったので若者がこのような上山の魅力に興味を持つことが出来れば知名度は上がるのではないかと思った。

4 予定していた観光

足湯と喫茶店を巡ろうと計画していた。実際、まち歩きマップを見てみると足湯は湯町、新湯地区を中心に散在しているので、色々巡ることができて、楽しめると思う。しかし、喫茶店に関しては多くは旅館に付随したものであり、予約が必要なのでふと立ち寄れるような喫茶店はそれほど多くなかった。あと、茂吉記念館は一度訪れてみたいと思っていたので行こうと考えていた。実際、行ってみると徒歩3分ぐらいで茂吉記念館前駅があるので、交通アクセスの面では問題ないと思う。



写真3 新湯地区にある足湯



写真4 初めに訪れた喫茶店 ロアール喫茶店

5 予定していなかった観光

当初一日目は足湯めぐりと町散策によって時間を消費しようとしていたが、前述の足湯にて同席した地元のおばちゃんから映画「おくりびと」のロケ地に使われたというカフェがあるという話を聞き、そこに行ってみた。確かにおくりびとのロケ地に使われた物体自体は存在していたのだが、おばちゃんの話はいくらか現実とは違っていた。まずそ

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

こにあったのはカフェではなく、スナックであり、僕たちの行った時間は営業していなかった。まあ、なにはともあれ映画のロケ地を観光できたのはよかった。



写真5 おくりびとのロケで使われたスナック

6 提案されたオプションについて

私たちの組は、古窯で楽焼の絵付け体験をした。まだ焼く前の段階の素焼きの上に筆で絵付けするわけだが、二人とも絵ではなく文字を書き、筆使いがお互い不慣れで苦戦したが、やっていて非常に楽しめたので、いい体験になったと思った。



写真6 絵付けの完成図「和敬静寂」

7 上山観光に対する率直な意見

(川尻の意見) ミクロの視点から上山の観光についてなにか言えることがあるなら、それは街中を歩いていて、すぐに飲食店を探すことができないという点だ。探せばいくらあはるはずなのだが、探すのに時間がかかるということだ。それを解消するにあたって、お食事処マップを温泉街の何箇所かに設置するのはどうだろうか。街中を巡っていて、お食事をしたいとなった時に探し回る苦労が軽減すると考えられる。あと観光客がふと立ち寄れるような店も実際少ない気がする。ふと立ち寄れるような店は例えば、喫茶店や土産物屋やアクセサリーショップや雑貨屋などが挙げられる。そして、これらの店は私たちの年代層のニーズに適っていると思うのでぜひ出店してほしい。さらにカミンというショッピングセンターがあるが、そこは地元の人向けの商業施設になっているように思えた。せっかく立派な施設があるのなら、そこを多目的施設に変容させ、先ほど取りあげたふと立ち寄れる店と内容は重なるが、土産物のブー

スや若者向けの商品を取り扱ったテナントを設けるのはどうだろうか。また、数々のイベントもカミンを拠点にして開催すれば、自然とカミンに多くの客が足を運ぶことになり、上山の交流人口も増加するのではないかと考える。

また、上山はそれぞれの旅館で個々の魅力があるように思える。湯町、新湯、葉山と大きく分類すると三つの温泉地から成っている。歴史からはじまり、設定価格、ホテル・旅館の規模にも大きな差異がある。三ヶ所それぞれの色があって、宿泊客のニーズにうまく対応できていると思う。しかし、観光名所となると、上山市内には上山城、武家屋敷、タケダワイナリー、茂吉記念館、春雨庵などそれぞれ魅力的な場所ばかりであるが、私たちのような20代の層は、例えば歴史探訪好きが上山城や武家屋敷を訪れるといったことを除いて、これらの名所を目的として訪れることはあまりないように思える。むしろ我々の層は隣の蔵王ヘスキーしに行ったり、樹氷を見に行ったり、御釜を見に行ったりするほうが多いのではないかと考える。実際、上山から蔵王エコーラインもつながっていて、御釜までは上山から無料バスも運行している。上山を拠点として、宿泊場所は上山で、観光は蔵王になっているか、または蔵王へ行くなら宿泊も蔵王であるかもしれない。

この現状を踏まえると今度はマクロの視点から言うことになるが、20代同士で上山観光を目的として訪れることはないのではなかろうか。もしくはそれがダメなのなら、家族客をターゲットにするのはどうだろうか。家族の年齢構成はばらばらである。しかしその中に我々の層も含まれている。父、母の世代となると上山の観光には大いに興味を示すだろうし、家族同士なら、上山の観光名所にも足を運ぶことだろう。だから、上山の魅力を存分楽しめるような内容で上山市限定の家族向けのツアーパックを設けるのはどうだろうか。

(渡邊の意見) 確かに上山には温泉や斉藤茂吉記念館などの魅力的な要素を含んだ場所がたくさんあり、今回の研修旅行でそのような場所をたくさんまわり有意義で楽しい時間を過ごすことが出来た。しかし、さて、今回の研究旅行でのテーマである「20代の観光客を増やすためにはどのようなことをすればよいのか」という視点から考察してみるとやはり、課題が山積みであること

が判明した。それ熟考した結果若者に対して直接的なアプローチをとるのではなく、間接的にアプローチを行い、それによって付随的・段階的に若者の観光客を増やそうとする戦略だ。次の段落では若者観光客が来ないという現状を考察していく。そしてその次に私の考える間接アプローチ及びそれに至った理由について説明したい。

若者が上山を訪れない原因として考えられるのは、まず上山に若者の目に魅力に映る対象がすくないというのが今回の旅行で得た私の率直な感想だ。一見上山城やそれに付随する歴史要素は昨今の歴史ブームなどの影響で人気が出るものと映るかもしれないが、そもそも上山の歴史要素がかなりマイナーであることと共にこれまでそれを広報することを怠ってきたことがそれを助長していると私は分析している。またこれから広報に力を入れるにしてもすでに歴史要素である一定のシェアを獲得している山形市や米沢市と競合し得るほどの話題力を獲得するのは難しいことだろう。唯一、上山において山形県の他の市と競合し得ない独占的なシェアを獲得できる歴史的要素があるとすればそれは斉藤茂吉記念館であるが私たちの感覚として斉藤茂吉は中学校や高校の歴史の教科書にチラッとでてくるに過ぎなく、あまり印象に残らないというのが正直な印象だ。よって上山の歴史要素を全面的に押し出すことにより若者の観光客を増やすというのは難しいものだというほかない。もう一つの上山の魅力である温泉街に関してもそれは難しいものがある。その理由としては上山の温泉街の旅館は（私たちが宿泊した古窯を代表として）全体的に20代にとってかなりの出費になり、その知名度も一部を除いて20代に知名度が少ないということだ。家族旅行や恋人同士の記念日などならまだしも、通常の観光と考えた場合旅館に宿泊するとは考えにくい。以上が直接的なアプローチを考慮の上で現実的ではない



写真7 部屋の中の一隅にあった「三味」

とした理由である。

私の言う間接アプローチとは、直接対象目標を対象とするのではなく、間接的な手段をもって目標を達成しようとするものである。こと今回の研究テーマにそって当てはめていけば、上山に若者の観光客を増やすために間接的な手段を用いようということだ。上山に若者が来ない理由を因果関係的に考えると、まず前段で考察したように上山のことをあまり知らないこと、その理由としてそれを知りえる機会が少ないということがあげられる。今回の研究旅行のオリエンテーションで上山観光協会の方がおっしゃっていたように家族旅行の減少が若者の上山の知名度に影響を与えているのであれば、それを逆説的にとらえ、家族旅行の増加によって若者に上山のことを知ってもらおうというのが狙いだ。上山の周辺にはお釜や樹氷などの人気の高い観光資源が豊富にある。そのようなところに行く観光客の拠点としての上山としての地位を確立することこそが家族旅行を上山に誘致することにつながると私は思う。そのためには現状ある蔵王エコーラインや樹氷観光などの上山から観光資源までの交通の便を強化することが必要だ。上山の旅館は日本の宿古窯をはじめとして質的に山形の他のそれに対して比較的優位な立場にある。よって上山から山形の名だたる観光地に行けるのであれば必然的に上山への家族旅行を中心とした観光客を誘致できる。そこで将来若者となる子供たちに上山を拠点とした山形の楽しい思い出を残してあげれば、大きくなった時に友達と一緒に上山に来ることや、自分が家族を持った時にまた上山に行きたいと思うのではないかな。



写真8 部屋の様子



写真9 夕食 米沢牛のすき焼き

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

8 宿泊した旅館に対するコメント

今回宿泊した「日本の宿 古窯」はプロが選ぶ旅館百選で第2位に選ばれ、部屋のグレード、料理、温泉、接客何から何まで非の打ち所のない旅館だった。そして、とくに感激したことがある。それは二日目にあったことだ。チェックアウトした後、土産物選びに没頭して12時くらいに古窯から出た。そして、古窯が出しているマイクロバスに乗ろうと思ったのだが、30分前に出発してしまって、次のバスまで一時間近く待たなければならなかった。当然、歩く手段を選ばざるを得なかった。しかし、古窯の方が急遽車を出してくれて、昼食しようと思っていた場所まで乗せてもらえた。このような臨機応変の対応には申し訳ない気持ちと同時にまた古窯に泊まりたいという気持ちが膨れ上がった。あと、足湯で出会ったある50代の夫婦に話を尋ねたところ、その方々も宿泊先が古窯で、しかも埼玉県から来ていることが分かったので、いかに名の知れた旅館であるかを知れた。このような現状を知り、全国規模でかみのやま温泉から連想されるのは古窯なのではないかと改めて感じた。

9 拡散について

FacebookとTwitterで上山観光や宿泊先の古窯の様子をアップロードして、さらに上山観光に対する意見を求めた。Facebookでは「いいね」は付けられたが、記事に対してのコメントは残念ながら得られなかった。

10 出費について

ゆかった手形の 4,000 円分は全て、楽焼絵付け体験の費用で使用した。さらにその内訳でいうと 6 寸皿二枚で 3,600 円、さらに楽焼を載せる台 450 円×2、超過した分 500 円は現金で払った。

実費

1 日目

山形〜かみのやま温泉駅（奥羽本線）230 円×2

昼食（川芳）

川尻→天ざるそば 1,200 円

渡邊→鴨せいろ 800 円

ロアール喫茶店にて

レアチーズケーキ（2 人分）290 円×2→580 円

カサブランカにて

コーヒーを 2 人分 300 円×2

2 日目

お土産

新じんだん大福 1,050 円

パンダチョコボール 380 円

昼食（味津肥廬）

川尻→鴨せいろ 800 円

渡邊→天ざるそば 900 円

かみのやま温泉駅から茂吉記念館まで

タクシー 1,300 円

茂吉記念館

入館料 300 円×2

茂吉記念館前〜山形（奥羽本線）190 円×2

極寒樹氷原突入

—気ままゆくまま流されるままのたび—

河合朋実，齋藤薫

1 宿泊した旅館の名称

彩花亭 時代屋 宿泊日 2014 年 1 月 19 日～20 日

1 日目の行動記録

あたたまる号を除き，駅からの移動手段は徒歩。天候は曇りのち晴れのち雪。

08：30 自宅発
09：35－09：48 山形駅－かみのやま温泉駅
09：00 自宅発
09：27－09：45 赤湯駅－かみのやま温泉駅
09：50－09：55 駅内で観光案内を受ける
10：00 おくりびとロケ地
10：20－11：00 上山城内見学
11：10－30 お土産屋で玉こんとお土産購入
11：30－11：50 月岡公園足湯
12：00－13：00 湯蕎麦 味津肥蘆で昼食
13：10 栗川稻荷神社 くじ引き
13：30 春雨庵
14：00 チェックイン
14：30－14：50 施設内探索
14：50－16：50 くつろぐ
17：00－17：30 あたたまる号
17：30 蔵王スキー場着
17：30－18：30 ロープウェイで山頂へ
18：30－19：10 ロープウェイで下山

19 : 10－19－40 あたたまる号
 19 : 40 旅館着
 20 : 00－20 : 55 食事
 21 : 00－21 : 20 浴衣試着
 21 : 30－22 : 20 入浴
 22 : 30－23 : 30 くつろぐ
 23 : 30 就寝

2 日目の行動記録

送迎を除き，帰宅までの移動手段は徒歩。天候は晴れ。

07 : 30 起床
 08 : 30 朝食
 10 : 00 チェックアウト
 10 : 00－10 : 15 送迎と観光案内
 10 : 15 かみのやま温泉駅着
 10 : 30－11 : 15 十五屋本店でお茶
 11 : 30－11 : 40 湯町，月の池隣タバコ屋で壺焼き芋購入
 11 : 45－11 : 55 湯町足湯
 12 : 00－12 : 15 武家屋敷通り散策
 12 : 20 浅上餅屋で団子購入
 12 : 30－13 : 20 新華楼で昼食
 13 : 20－13 : 40 カミンでお土産購入
 13 : 50－14 : 00 前川足湯
 14 : 22 山形行乗車帰宅
 14 : 37 米沢行乗車帰宅

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

2 宿泊した旅館に関する事前情報

【ツール】 口コミ・HP・google マップ

【情報】 家族やアルバイト先の人から落ち着けて体を休めるにはちょうど良い宿という話を聞いた。HPでは旅館の雰囲気、設備・アメニティ、場所がわかった。ホームページはきれいで、カップル、家族、女性、シニア向けのサービスや食事のプランが充実している印象。客室の種類がわかり、お客様の声が掲示されているのも印象がよい。

【感想】

・河合…口コミで教えてくれたのは中年の女性が多かったことから、それくらいの年齢の人に好まれる旅館なのだろうと思った。旅館のブログで早朝に葉山ウォーキングが来ると記載され、その様子が上げられていたので興味を持った。古窯に近いことは知っていたが、HPで立地を見て山の上に旅館があったので送迎は必須だと思った。

・齋藤…学生には少し敷居が高いかもと感じたが、実際に行ったときの雰囲気がわかったので非常に印象が良かった。ただし、何を持って行ったらいいかという点で、アメニティを知りたかったが、具体的なものが載っていなかったため、歯ブラシやブラシがあることが分からなかった。

3 上山の観光について

【ツール】 かみのやま温泉のガイドマップ、google のフリーワード検索

【情報】 観光スポット、場所、飲食店

【感想】

河合…観光協会から提示されたプランを主に参考にした。観光協会のパンフレットは、色がきれいでとても見やすいと感じた。ポイントごとの距離が書いてあって目安になった。プラスアルファでまち歩きする観光客むけにマップに地図に縮尺もつけて欲しいと思った。

齋藤…インターネットを一番頼りとしていたが、口コミサイトなどの情報しか見つからず、残念だった。もう少しまとまった形で発信してほしい。

4 予定していた観光

【予定していた観光】あたたまる号の樹氷観光と足湯めぐり，長屋門アトリエ SOU。天候などに不安があったので，樹氷観光以外は現地に行ってから変更可能なプランを立てた。



写真 1 足湯



写真 2 足湯外観

・ 樹氷観光… 8 に記載

・ 足湯…足湯スタンプラリーを計画していたが，すべて周ることができないためスタンプラリーは取りやめた。悪天候もあり浸かったのは3箇所。初めて足湯に入ったがとても気持ちよかった。気軽に入ることができたので，また行きたいと思う。ただし，車や人通りの多い足湯（前川か？）は人目が多いので入りづらかった。また，事前にスタンプを押す用紙を用意していなかったのも，スタンプも押していない。用紙に関してはそれぞれの足湯に用紙があったらどのチェックポイントからもラリーがはじめられていいのではと思った。湯町足湯では他の観光客と遭遇し，公衆浴場の場所を聞かれるなどふれあいがあった。

【取りやめた観光】長屋門アトリエ SOU

2 日目に長屋門アトリエ SOU を利用することにしていた。取りやめの理由は，まち歩きの途中に店の前を通ったが，人のいる気配がなく活気がなかったのと，お土産代，食事代に手形をたくさん使ったので出費を抑えるため。事前予約はしておらず実際に店の様子を見てから取りやめの判断した。

5 予定していなかった観光

【情報の入手方法】

駅の観光案内、上山城の売店で紹介された。また、偶然見かけた店に立ち寄ることもあった。

【観光】

・おくりびとロケ地…通りかかった。外観のみ。

・上山城…ゆかった手形を利用。駅の観光案内で勧められた。上山城を見学し、隣接する売店・足湯もあり思ったよりも楽しめた。展示物は地理関係、歴史関係、ゆかりの芸術家の作品のほかにワークシートなどがあった。正直展示はあまり興味がわかなかった。天守閣からの眺めが思いのほかよく感動した。上山城内で土産の購入はしなかった。

・栗川稻荷神社…神社内でおみくじを引いた。鳥居が並んでいるのは面白い風景だと思った。

・春雨庵…外から眺めたのみ。上山がタクワンゆかりの地だと知らなかった。場所が細い道路沿いなので、車ではほとんど行かないスポットだと思う。

・武家屋敷…訪問が月曜日だったので実際に武家屋敷の中を見学することができず残念だった。また、庭を見学したが冬だったため花も咲いておらず殺風景で残念だった。また暖かくなってから行ってみたいと思う。水琴



写真3 上山城



写真4 栗川稻荷神社



写真5 春雨案

窟がうまく聞こえなかったのも残念だった。平日だったが一般の観光客がいた。

【食事】

・十五屋本店…ゆかった手形を利用。2日目の行動の予定を立てた。500 円のお菓子セットを注文し、抹茶と和菓子を楽しんだ。和菓子屋さんだが奥にカフェがあり、街歩きの中中に休むことができてよかった。五百円で飲み物＋お菓子という価格は素晴らしいと思った。また、さまざまな種類の和菓子・洋菓子から選ぶことができるのはうれしかった。地元のお母さん方がお茶を飲みに集まっていてにぎやかだった。ゆっくりと落ち着くことが出来た。

・新華楼…ゆかった手形を利用。2日目の昼食。ラーメン店なのだが普通のラーメン店では出てこないような中華風のラーメンを食べることができた。味は普通であった。窓が大きく眺めがよかった。手形が使えるという理由で立ち寄った。

・味津肥廬…ゆかった手形を利用。観光案内で勧められた。1日目の昼食に立ち寄った。そばもモツ煮込みもとってもおいしかった。今回は手形を利用したため使えなかったが、駅の観光案内で50円割引券をもらえたのはうれしかった。また行きたいと思う。

・その他…周辺にピザやスペイン料理のお店がありそちらも気になった。



写真6 十五夜本店



写真7 味津肥廬

【お土産】

・上山城売店…ゆかった手形を利用。売店では上山や山形のご当地グッズが魅力的だった。特に「かせどり」をモチーフにしたグッズには心惹かれた。また、

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

檜下宿のこんにやく店があったのがうれしかった。玉こんにやくが美味しかった。道を尋ねるととても親切に教えてもらったので非常に印象がよかった。手形の使用期限の注意もしてもらった。

・浅上餅屋…ゆかった手形を利用。お土産として団子を購入した。一本からでも包んでもらえたのは手軽でよいと思った。おはぎや納豆もちが売っていた。手形が利用可能だが、ご主人は手形の扱いをあまり良く知らないようで支払いのとき戸惑っていた。

・カミン…ゆかった手形を利用。お土産を選ぶために立ち寄る。お菓子を購入。上山城敷地内のみやげ物屋の方が、小物やストラップがあり上山らしいラインナップだったと思う。

・湯町方面…月の池の隣のタバコ屋で購入したツボ焼き芋がとても美味しかった。ご主人に呼び止められ、試食させてもらった。値段は300～500円。足湯に使っているときに共同浴場を探している観光客の方とであった。鶴の休み石で湯が流れていなかったので残念そうにしていた。



写真8 上山城売店



写真9 湯浅餅屋

6 提案されたオプションについて

【提案されたオプション】

あらかじめ遊ぶところがないと聞いていたので、体験やエステを中心に検討した。エステは検討したものの、値段が高く、また樹氷見学と時間が重なってしまったため、断念した。樹氷見学は「ここでしか体験できない」ということ

が選択の決め手だった。檜下宿に行くことも考えたが宿泊施設からは離れており、タクシーを使うのはお金がかかり、抵抗感があった。

【実際参加した観光：「あたたまる号」（樹氷見学）】

・河合…全体的に満足だった。ガイドの説明がわかりやすく面白かった。天候だけが恵まれなかった。旅館での長靴の貸し出しが便利だった。ガイドに手袋の有無を確認されたり足元を心配されたので、事前に厳寒地に赴く服装の支持が欲しい。樹氷観光の時間に旅館のエステの時間と貸切露天風呂の時間と重なってしまい、キャンセルすることになったのが残念だった。旅館で押しているサービスを受けられないのもとてももったいなかったが、お母さんがエステをしている間にお父さんと子供が参加するなどにはいいと思う。



写真 10 樹氷その 1



写真 11 頂上気温

・齋藤…まず出発時に旅館で長靴を借りることができたのがありがたかった。ロープウェイで上っている最中は樹氷についての解説があったので楽しむことができた。私は初めて蔵王の樹氷を見たが、これまでに体験したことがないほど寒く、また写真やテレビでしか見たことがなかった樹氷を見ることができて感動した。新鮮で楽しめる体験だったと思う。この体験はほかの人にも勧めたいと感じた。また、3700 円という価格は学生としては少し高く感じるが、樹氷



写真 12 樹氷その 2

を見るという素晴らしい体験ができたので今は安いと感じている。

7 上山観光に対する率直な意見

【河合】

個人的に私の地元の温泉街よりもまち歩きがしやすいと感じた。思ったより散策に時間がかかり、見るべきところが多いことに驚かされた。あちこちに細い道が多く入り組んでいて趣があった面白かったが、積雪がある場合は歩きづらいかもしれないとも感じた。案内の看板が見やすく親切だった。足元のブロックに競馬の馬と案山子が所々にちりばめられているのを発見し、ご当地らしさが表現されていて興味をもった。武家屋敷周辺でベンチを発見した、足腰の弱い人向けの気配りが見えた。

施設に関しては、あちこちに足湯があるのが温泉街らしく、それらが散策の目的地になって楽しかった。半分ほどしか回れなかったのだが、それぞれに特徴があって面白いと感じた。月岡公園の足湯では近くの売店でタオルを売っていたが、他の足湯ではそのようなサービスは行われているのだろうか。足湯は特徴で印象に残ったが、その反面、食べ歩きのできるお店が少ないのは残念である。温泉街にありがちな温泉饅頭や温泉玉子を食べられる場所を探したが見かけなかった。県内のほかの温泉街ではよく玉こんにやくを売っているのを見かけるので上山温泉でも道端で購入できると思う。やはり手頃な値段と持ち運びのしやすさは魅力的だと思うし、あれば取り合えず何本か買いたくなるし、あのおいしさは食欲をくすぐる。



写真 13 樹氷その 3



写真 14 樹氷ポスター

買い物に関しては、私はいつも、お土産に一番お金と時間を使うのだが、今回は選択肢が少なく購買欲が満たされなかった。個人的には観光地のまち歩き目的では買い物がかなり大きい割合を占めると考えるので、何でもいいで立ち寄って店内を物色できるお店がもっとあればいいと思う。まとめて買い物できるか、お店が適度に散らばっているといい。今回は購入しなかったが、かせ鳥グッズとじゅっきー君グッズが目にとまり一際個性的だった。葉山エリアには大きなホテルばかりということもあり、特に気軽に立ち寄れる場所が少なかったと感じる。時代屋のほかのホテルにも立ち寄ってみればよかった。

移動に関しては、私達はタクシーをつかって檜下宿や蔵王にいくという発想がなかった。ゆかった手形が使用できないとなると行動範囲はかなり限られる。学生が目的地までタクシーを使うことはまれだと思うので、かみのやま温泉に宿泊する場合は旅館周辺の徒歩でいける範囲に施設がかたまっているのが理想的だと思う。総括して、今回はとくに具体的なプランがなくても観光案内などを利用し現地で何とかしたのでなかなか楽しかった。行く先々でとても親切にしてもらったこともあり、また訪れたいと思った。

【齋藤】

まず、駅の観光案内でお勧めの蕎麦屋を尋ねたときに、観光ルートについて教えてもらったのがありがたかった。ほとんど無計画でも楽しく観光することができた。二日間おおむね天気がよかったので街中を歩きまわるだけでも十分に楽しむことができた。また、観光案内以外でも親切にもらったので気持ちよく観光することができた。ただ、雪が降って足元が悪かったら、今回のルートでは楽しめなかったのが、例えば屋内でできる手作り体験などがもう少し参加しやすければ、一日遊ぶことができると思う。もし、上山の名産の食べ物があったら食べたいと思ったが、インターネットでは発見できず、もらったフリーマガジン「とうるとうる」に掲載されていたスイーツも要予約の店ばかりで断念した。

紹介してもらった味津肥廬は街中にあり、価格もそれなりで非常によかった。檜下宿のこんにゃくも食べてみたかったが、場所が遠いと感じた。上山城売店

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

にこんなにやく店が入っていたが、あそこでこんなにやく料理が食べられるとうれしい。個人的には食べ歩きを期待していったが、ガイドブックやインターネットではいい情報が得られず、現地でもあまり見つけることができなかったので残念だった。二日目にお土産店を探したが、ゆかった手形が使えるお店が見つからなかったため、カミンの一回に入ったが、山形駅でも買えそうなものばかりだった。上山はお土産物の店は少ないと感じる。旅館やホテルがある町の中の雰囲気は温泉街らしく非常に面白いが、カミンがあるところよりも手前はさびれていて少しさみしいと感じた。

8 宿泊した旅館に対するコメント

宿泊先：彩花亭時代屋



写真 15 時代屋外観



写真 16 時代屋フロント

【河合】

・良いところ…他の宿泊施設で経験したことのないサービスとしてゆかたの貸し出しがあったのが嬉しかった。複数ある中から組み合わせを自由に選べるのが新鮮だった。食事は見た目がかわいらしく、味付けは繊細で女性には特に喜ばれると思う。朝食にいたっては食べるのが惜しいと思った。エステ



写真 17 選べる浴衣

が充実しておりやはりゆっくり休みたい女性が疲れを癒すのにぴったりだと思

う。チェックアウト後駅まで送迎してもらい、道すがら軽い観光案内をしてもらいなかなかお得だと思った。旅館内の小物がいちいちかわいらしく、柔らかな空間を演出していた。客室ひとつひとつの色の名前が綺麗でチェックして回った。エレベーター内にイスが設置されており、高齢者に配慮されていた。学生や男性向けでなく、女性の友達同士や家族連れ、年齢の高めの人がかつろげる旅館だと思う。

・改善すべきところ…サービスのゆかたの着こなしが難しかった。手本どおりにしてもなかなかうまくいかなかった。エステと貸切露天風呂と樹氷ツアーの時間が重なってしまいどちらも利用できなかったのも残念だった。お土産の品揃えが少ないと感じる。周辺にお土産を購入できる施設がないのももっと品揃えを充実させて欲しい。

【齋藤】

・良いところ…純和風な雰囲気が非常に魅力的に感じた。接客はみなさん笑顔で非常に感じがよく、気持ちよく過ごすことができた。最後の見送りもして

もらい、最後の駅までのバス送迎でも上山の歴史についての話を聞くことができて、退屈しなかった。温泉は浴室もきれいで、ちょうどよい湯加減で非常に気持ち良かった。ただ、向かって左から二番目のシャワーの出が悪かった。浴衣を選べるのは楽しいと思ったが、着付けをするのが大変だった。特に帯をしめるのは難易度が高く、結局客室の男性用の浴衣を着てしまった。食事は充実していた。ボリュームたっぷりであまり満腹になった。もし、食べ歩きを観光の重点とするのであれば、もう少し少なくてもいいと思った。

・改善すべき点…私は友人同士で温泉に行くのが初めてだったため、段取りが



写真 18 浴衣

分からず困った。特に食事の時間については戸惑うことが多かった。一日目の夕食のときには「あたたまる号」で帰ってきたあと、玄関で「夕食が準備できていますので、すぐに食べられますよ」と言われた。そのため早速、会食の個室に向かうと、まだ準備ができておらず、お詫びとして飲み物をサービスしてもらった。この気遣いは素晴らしかったが、私たちが早く来てしまっただけなので、申し訳なく感じた。翌朝の朝食も八時半に予約していたが、どこにいったらわからずこちらから電話をしてしまった。若者は温泉に不慣れな人が多いと思うので、例えば、一日目の客室についての説明の際に一言、「(朝食の際には) 電話をしますので,」「(夕食は) 八時ごろになったら来てください」など言ってもらえるとより親切だと思う。

9 拡散について

- ・河合…ツイッターで蔵王の様子をアップした。あまり反応はなかった。とにかく寒そう！という反応が返ってきた。雪の降らない地域の人が興味を持っていた。

- ・齋藤…Facebook ページを更新したが、個人では拡散されている実感はない蔵王でマイナス 12 度の寒さを経験したという投稿には反応があった。ほかの場所では経験できないようなことには反応があると考えられる。

【かみのやま温泉と Facebook】

かみのやま温泉の各旅館のページを見たが、「古窯」以外は更新が少ない。せめて月に一度は更新できないか。

【時代屋の Facebook ページについて】

植物の写真や食べ物の写真がきれいで印象がいい。特に食べ物の写真はとてもおいしそうで魅力的である。また、植物についての投稿は他の旅館とは違って面白。また、季節により姿を変える上山の自然を紹介するのは素晴らしい。ただ、更新が非常に少ないと感じる。月に一回でも更新した方が良いのではないか。例えば、季節のお食事、植物の写真、季節のご挨拶、天気、周辺の観光などを写真付きでアップする。写真つきであれば多少文章が短くても印

象がいい。旅館自体は非常に魅力的であるため、また行きたいと思わせるような投稿ができるとより効果的だと思う。時代屋のホームページにFacebook ページへのリンクがないのは問題である。ホームページからでも「いいね！」を押すことができるようにするべきではないか。Facebook で何かを検索する人は少ないため、Facebook を活用する場合にはホームページにFacebook のリンク、「いいね！」ボタンが必要である。また、「いいね！」を押すと、押した人はわざわざ検索しなくても投稿を見ることができるようになるため、おいしそうな食べ物や面白そうな観光についての投稿があればまた行きたいと思うこともあるだろう。また基本データの部分にホームページのリンクがないのは問題だと思う。時代屋のホームページは非常にきれいで魅力的なので、fb ページから飛びやすいようにリンクをつけるべきである。2011 年に「いいね！を押して時代屋の温泉を体験しようキャンペーン」を行ったという記事があったが、SNS と関連させるキャンペーンは素晴らしいと思う。ただ、このキャンペーンの詳細がなく、何が得なのか分からないため、参加しようと思えない。関連させるのであれば、投稿自体でどのようなキャンペーンなのか説明するか、説明しているページへのリンクが必要だと思う。さらに、投稿についてだが「秋のお料理一例です」に季節の野菜、おすすめの料理などさらに一言付け加えてほしい。アルバムの写真はいちいち確認しないので、一番おすすめの料理の写真一枚に詳細な説明を付けてあげるともっと魅力的に見えると感じる。

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

10 出費について

【1日目】

上山城…入城料：手形8枚（400円×2）

上山城お土産屋…手形21枚（お土産…かせどりバック，ジュッキーくんマスコットストラップ：800+600=1,400円，軽食…玉こんにゃく，こんにゃくゼリー：100×2+500=700円）

湯蕎麦味津肥蘆（ゆそばみつひろ）…手形21枚（昼食…かもせいろ，肉そば，もつ煮込み：950+850+400=2,100円）

くじ引き…現金200円（100円×2）

樹氷見学…現金7,600円（参加費：3,700円×2，軽食…肉まん：200円）

時代屋…現金300円（ジュース：150円×2）

【2日】

十五屋本店…手形10枚（和菓子とドリンクセット…樹氷+抹茶，寒椿+抹茶：500円×2）

浅上餅店…手形2枚（団子…みたらし，じんだん：100×200円）

新華楼…手形12枚+現金450円（昼食…薬膳ラーメン，マーボーラーメン：850+800=1650円）

カミン…手形6枚+現金30円（お土産…蔵王チーズケーキ：630円）

月の池の隣のタバコ屋…現金500円（焼き芋：500円）

【合計】ゆかった手形：80枚 現金：9,080円

まちなかも，郊外も！ かみのやま温泉満喫紀行

後藤瑞希，富田彩友美

1 宿泊した旅館の名称

静山荘 宿泊日 2014 年 1 月 17～18 日

1 日目の行動記録

10：30 山形発

↓

11：00 上山城着

↓

上山城内の見学，その周辺の散策

12：10

↓

そば処さかえやへ移動

12：20

↓

昼食

13：00

↓

十日町商店街を通過して，カミンへ向かう

13：15

↓

カミン内を散策

13：45

↓

新湯商店街を散策

↓

中條饅頭店で温泉饅頭を購入

14：00

↓

新湯地区の足湯を経由して，武家屋敷へ

↓

三輪家では入館して，説明を聞いた

14：50

↓

湯町地区の散策と足湯で一休み

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

15 : 15

↓ 長屋門ギャラリーへ移動

15 : 30

↓ 長屋門ギャラリーでフェルトアートの体験

16 : 30

↓ 移動

16 : 40 チェックイン

↓

18 : 00

↓ 夕食

19 : 10

↓ 部屋に戻る

19 : 40

↓ 移動

20 : 00

↓ エステ体験と日帰り入浴

22 : 00

↓ 移動

22 : 30

↓

1 : 00 就寝

・ 二日目の行動記録

7 : 30 起床

↓

8 : 00

↓ 朝食

8 : 40

↓ 温泉に入る
9 : 10
↓ 身支度を調える
9 : 50
↓ チェックアウト
10 : 00
↓ 花咲山展望台へ向けて散策
11 : 00
↓ 移動して、春雨庵を見学
11 : 30
↓ 移動して、栗川稻荷神社に参拝
12 : 10
↓ 昼食 (Café koikoi にて)
13 : 15
↓ 移動
13 : 45 檜下宿に到着
↓ 滝沢屋の資料館見学, 地区内散策
14 : 40
↓ こんにゃく番所でお土産探すと, ひとやすみ
15 : 30
↓ 移動
16 : 00
↓ かみのやま温泉駅近くの足湯に浸かる
16 : 30 帰宅へ

2 宿泊した旅館に関する事前情報

1) 集めた情報

料理は郷土食材を使っており, 山形牛のしゃぶしゃぶとステーキが人気であ

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

る。最近、貸切露天風呂が最近オープンしている。

また、口コミサイトでは、料理がおいしいこと、女将さんはじめ仲居さんが親切でサービスがいいことを評価していた。全体については、「民宿」といった感じでアットホームな雰囲気であるということだった。

2) 感想

HP で館内の写真などを見た限りでは、特に特徴のない旅館、という印象を持った。ただ、旅館を選ぶときに、こういった普通の旅館はあまり目に留まらないので、泊まってみたいと思った。しかし、口コミによると、料理がおいしい、サービスが細やかでいい、というものが多くあったので、旅館への期待度が高まった。小さくアットホームな旅館で、行き届いたサービスを受けられたらいいなと思う。

3) 利用ツール

- ・ 静山荘 HP : <http://homepage2.nifty.com/seizansou/>
- ・ 楽天トラベル : <http://travel.rakuten.co.jp/HOTEL/53438/review.html>
- ・ じゃらん : <http://www.jalan.net/yad306255/>

3 上山の観光について

1) 集めた情報

- ・ 葉山周辺ではクアオルト事業を行っていて、コースが整備されている。
- ・ 足湯が温泉地に5箇所ある（湯町，上山城，湯町，前川橋，葉山）。地元の人でも利用するため、地元の人とのコミュニケーションも楽しめる。また、足湯の側にカフェやこんにやく屋さんがあるところもある
- ・ ラ・フランスやぶどうなどの果樹栽培がさかんで果樹園が多くある。初夏から秋にかけては果物狩りが楽しめる。また、それを利用したワイナリーもあり、工場見学や試飲体験ができる。
- ・ 上山城周辺には、武家屋敷、春雨庵など歴史的建築物や栗川稻荷神社や観音寺などの寺社、十日町商店街が分布している。また、新湯と湯町の温泉街も同じ界限にある。そのため、まちあるきを楽しめる。

- ・市街地から離れたところには、檜下宿や旧尾形家住宅がある。檜下宿は江戸時代、庄内藩や秋田藩が利用した宿場町だった所である。当時の家屋を復元した資料館がある。

- ・蔵王坊平にも近く、アクセス用のバスがあり便利

2) 感想

温泉街と歴史的建築物などが集まる、中心地の街歩きが観光の目玉だと感じた。上山城を起点にぐりと見どころが点在しており、半日ぐらい楽しめそうな内容である。武家屋敷のひとつ、三輪家屋敷には入館できるので、中ものぞいてみたい。坂が多いため歩くとなると足が疲れてくると思うが、足湯があるので途中止まって温まりつつ楽しみたい。

しかし、観光スポットの分布状況を概観してみて、観光スポットは新湯地区と湯町地区の周辺に固まっており、葉山地区周辺には何もなかったように感じた。また、観光スポットと言っても、主に集客できる目玉施設がないため、まちあるきという形での観光になるが、わざわざ行ってみたいなと必ずしも旅行客が思うとは限らない内容でもある。そのため、葉山地区に宿泊する旅行客はあまり、外に出て観光をしないのではないかと考えた。

3) 利用ツール

かみのやま温泉観光ガイドブック

かみのやま温泉フリーマガジン「とうるとうる」

かみのやま温泉 HP : <http://kaminoyama-spa.com/>

タケダワイナリーHP : <http://www.takeda-wine.co.jp/>

4 予定していた観光

1) 上山城

お城は、思ったよりも小さかった。城内の資料館には、上山の歴史に関する資料が多く展示されていたが、1 階は、上山温泉の起源や蔵王の文化、樹氷、かるたなどが雑多に配置されていて、展示の目的を把握しづらかった。しかし、展望台からの眺めはとても良く、上山市内を一望できた。

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

2) そば処 さかえや

店内には他にお客さんが2組いた。中華そばを2人とも注文したが、味はいまいちだった。

3) 上山城周辺のまちあるき

きれいに保存・保全されている昔ながらの街並みというよりは、単に古くなって廃れているという印象だった。靴屋や日用品店、時計屋など昔ながらの古い店が営業を続けていた点、宿場町の雰囲気が残されている点、市神が保存されている点は興味深かった。しかし、店舗は暗く入りにくい印象があり、また閉業している所が多くあった。そのためか、商店街は閑散としていて、歩いている人もほとんどいなかった。

4) 足湯

事前の調べの通り、足湯を利用していた地元のひとと会話をする事ができた。足湯に浸かるととても温かく、気持ちよかった。その後はしばらく足が温かったので、まち歩き中にはもってこいだと思った。また、湯本地区の足湯の近くに焼き芋を売る店があったが、営業していなかったのが残念であった。やはり、足湯に浸かりながら、食べたり飲んだりしたいなと思った。

5) 武家屋敷

三輪家で屋敷内の様子を見学でき、管理人の方より説明もしてもらえたことが、特に印象深い。屋敷はL字になっていて二軒で一組であること、池の鯉は食用だったことなど説明を聞かないと分からなかったことを知れてよかった。やはり、ただ外観を見るだけでは、「昔からある家なんだな」という薄い印象しかないが、一軒だけでも内覧ができて説明を簡単に受けられるだけで理解度や面白味が増すように感じた。

6) 長屋門ギャラリーでフェルトアートの体験

作家さんにやり方を教えてもらって楽しく作った。作家さんたちや先に来ていた地元のおばさん達とも話をした。安い体験費で十分に楽しむことができた。街中にギャラリーがあり、気軽にできるワークショップなどがあるのはいいなと思った。

7) エステ体験（時代屋にて）

期待通りにすごくリラックスできた。時間は20分だったが、あっという間だった。ただ、1人ずつの体験だったので、そこが2人同時にできるとよりいい。しかし、エステは割高で、学生ではなかなか手の出せないところなので、この機会に経験できてよかった。また、他の宿に泊まっていても利用できるのはいいシステムだと思った。それにより他の旅館の宿泊客でもエステを体験してみたい人もいると思うので、そのニーズに対応できる。

8) 檜下宿

全体的に地区内は閑散としていた。特に、滝沢屋は私達が今年で5組目の訪問客だった。はじめはあまり期待していなかったが、受付のおばさんが案内をしてくれたのが面白かった。銀の簪や当時の通行手形、独特な家の構造などを丁寧に説明してくれた。また、気軽に質問をできたのも良かった。



写真1 檜下宿

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

無料開放されている他の屋敷では、スピーカーで音声説明が流れる仕組みになっているようだったが、どの所でも聞こえず説明がなかったのが残念だった。そのため、屋敷内に入っても特に何もすることがなく、途中からは簡単に見るだけになっていた。座敷上に上がって、奥まで見学できれば良かった。また、案内板が特になかったため、道が分かりづらかった。

9) こんにやく番所

見た事のない数々のアイディア商品に驚かされた。それだけでなく、おもてなしや店の雰囲気も良かった。商品を眺めていただけて、お茶と試食を一品出してくれた他、ほとんどの商品が試食可能だった。そのため、試食をしながらお土産を選ぶことができた。その後、味噌田楽を頼んで、お茶を一服いただきながらくつろいだ。ここのお店には、次々にお客さんが来ていたが、その賑わいと、檜下宿の様子に差があることを感じた。

5 予定していなかった観光

1) カミン

中に入ってみようということので訪れた。中には、食料品店や物産店、複数の衣料品店などが出店していた。高齢者の交流施設がある他、衣料品店で売っている服はその年代の人達向けであった。そのためか、カミンに来ている人達は高齢の方がほとんどであった。



写真2 カミン館内の様子

2) 時代屋の温泉入浴

「とうる Web」でゆかった手形を使えば、安く他の旅館の温泉にも入れるという情報を入手したので、エステのついでに入浴してきた。露天風呂もあってとても気持ちよかった。他の宿の温泉も楽しめるのは、かみのやま温泉を一つ

の宿の中で終わらせてしまわないためにも、いいことだと思った。他の宿に行くとなると、外を歩くので、温泉街の雰囲気も味わってもらえる。

3) 春雨庵

パンフレットなどを見て決めた。小さい敷地の割に、作り込まれた庭園がとてもきれいだった。パンフレットなどの写真を見た限りでは、小さな建物があるという情報しか持っていなかったが、実際に言ってみると、建物より庭の方が、魅力的だった。写真の取り方を変えるだけで、この場所の良さがより伝わるのではないかと思った。また、訪問したのは土曜日であったが、抹茶がやってなかったのが残念であった。

4) 栗川稲荷神社

同じく、パンフレットなどを見て決めた。朱塗りの鳥居はとても趣があった。写真では、鳥居が一行のみ写っていたが、実際は二列あり、想像していたものよりも大きい神社だった。

9) Cafekoikoi

富田さんが、知り合いがおいしいと言っていた、ということで行ってみた。おしゃれな外観で、若い人達が次々入店してきた。上山で若い人を初めて見た気がした。おすすめされていたパンケーキを注文したところ、サラダとスープのバイキングが付いてきて、合わせて楽しめた。お店は住宅街にあったので、こういったスポットが駅前にあると、若者が集まってくるのではないかと思った。

6 提案されたオプションについて（4に記載）

7 上山観光に対する意見

上山温泉に宿泊して、2日間観光をしてみて、思ったことは、集客の目玉となるようなものがないため、どれもいまひとつ面白味に欠けるということである。

上山城周辺には、足湯や温泉街、武家屋敷などがあり、ぐらりと歩いて見て

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

回れるようになってはいるが、歩いて楽しい食べ歩きができるお店や、気軽に立ち寄れるお店は少なかった。そのため、それぞれのポイントを見終わった後に、時間をもて余す感じになった。まち歩きと行っても、観光に来て目的もなく歩くということはあまりないので、目的になるようなスポットを設ける必要があると思う。また、スタンプラリーを設定して、目的を作り出すのも1つの方法としてあると思った。

檜下宿も上山からは近いが、集客の目玉にはなりきれないという印象を持った。車がないと行けない所なので、遠方からの宿泊客には行きづらい所だと思う。

また、お土産も、温泉饅頭かこんにやくぐらいしか目に留まらなかった。上山城の売店には、山形や蔵王のお土産が置いてあり、上山独自のものは見あたらなかった。しかし、観光客を惹きつけ、お金を落としていてもらうためにはお土産は大事である。他の地域などを見ると、地域にあるものを活かしてお土産を開発している。そういった例を参考にしつつ、上山オリジナルの新たなお土産を開発するのがいいのではないだろうか。

しかし、今回の実習を通して、そういった目玉のない所でも、人に説明してもらったり、教えてもらいながら体験したりすることは面白いと感じた。観光協会から提案されたプランを見ると、温泉街まち歩きのガイドや檜下宿の「じいちゃんずくらぶ」、和菓子作りの体験などが提示されていた。そういった企画があることをもっと宣伝してもいいと思う。また他の体験として、例えばこんにやく作りや沢庵漬けの体験なども考えられると思った。

8 宿泊した旅館への感想

1) 良かった点

特に良かったのは、お部屋にこたつがあったことである。こたつは部屋に行った時にはすでに温まっていて、ちょうど寒い日だったのでとても嬉しかった。このように、サービスは良かった。他に、夕食時に飲み物を付けてくれたり、帰りの時に見送りをしてくれたりした。さらに、仲居さんはきさくに話しかけてくれたので楽しかった。

また、夕食はステーキだったが、ロコミにもあったように、おいしかった。地元の食材を使っていると HP にあったように、菊やさしみこんにゃくなどが出てきた。

2) 改善すべき点

ドライヤーは部屋にはなく、廊下に洗面台があり、そこに設置されている形だった。しかし、そのうちの 1 つは壊れているのか温風が出なかった。宿泊する人皆が利用する物であれば、きちんと備品は整えておくべきだと思った。

また、夕食は、チェックイン後に決めた時間に行ったが、天ぷらなどの温かい料理が冷めてしまっていた。時間を先に伝えてあって、変更もしていないので、その時間に合わせて温かいものを出して欲しいと思った。少しもったいないと思った。

さらに、欲をいえば、露天風呂を付けて欲しいと思った。旅館において温泉は大きな楽しみであるので、その魅力付けを行えばよりいい旅館になるのではないかと思った。



写真3 静山荘の部屋の様子



写真4 静山荘館内の様子



写真5 夕食

第4章 学生による上山温泉宿泊調査

9 拡散について

宿泊施設とエステ、檜下宿とこんにゃく番所についてそれぞれフェイスブックでつぶやきを行った。一つ目については、エステの方に「うらやましい」というコメントをもらったが、静山荘については、特に反応はなかった。また、二つ目についても、こんにゃく番所について、「行きたいと思ってた」というコメントがあったが、檜下宿については反応がなかった。このことから、私たちの年代は、食や癒しに目が留まる傾向にあることがわかる。

10 出費について

使用場所	目的	内訳	合計
・ゆかった手形			
時代屋	エステ	3150×2	6,300
時代屋	お風呂	700×2	1,400
三輪家	入館料	150×2	300
・自費			
上山城	入館料	350×2	700
さかえや	中華そば	600×2	1,200
中條まんじゅう店	温泉饅頭1個	84×2	168
カミン内ロワール	チェリーボンボン	147×2	294
長屋門ギャラリー	体験費	500×2	1,000
	購入費	500	500
春雨庵	維持費	100×2	200
栗川稻荷神社	おみくじ代	100×2	200
Cafekoikoi	ランチ	1050×2	2,100
滝沢屋	入館料	150×2	300
こんにゃく番所	味噌田楽	105×2	210
	お土産	399+525	924
合計			15,796

第5章 総括

1 旅行者の段階的意思決定

居住地移動に関する2段階意思決定仮説に代表されるように、行動はいくつかの意思決定によって生じる (Brown and Moore, 1970)。旅行者の意思決定に関しても、大方 (2006) がまとめているように、先行研究によって多くのモデルが提示されている。ここでは前田 (1995) が示した行動成立の条を参考にして、4段階の意思決定が存在すると仮定し、旅行者の行動を整理する。前田は旅行の決定を含め7つの行動選択を挙げているが、場所に関する決定は目的地と宿泊地の2つである。本研究は地域的特性に着眼するものであるため、残り4つの行動選択 (旅行の目的、同行者、旅行形態、旅行先での行為) は、目的地及び宿泊地決定に含まれるものと考え、それに宿泊先 (ホテル・旅館) の決定を加えた (図5-1)。

旅行の決定：旅行そのものをするかしないかの決定であり、これによって自宅にいる潜在的旅行者は旅行予定者となる。

目的地の決定：旅行予定者は、候補となる目的地に関する情報収集を行い、目的地を決定する。ただし、目的地を絞り込む際に始めから大量の情報を詳細に検討することはない。必要とする情報量は目的地が限定されるのに従い多くなるが、その絞り込みに大きく作用するのは、候補となる各目的地に対する旅行予定者のイメージである。各地のイメージは日常的に見聞きするテレビの旅番組や雑誌の広告、口コミ等の情報から形成されるため、観光地の差別化は潜在的旅行者を含めたイメージ形成を目的になされるべきである。その意味で山形新幹線の駅名を「かみのやま温泉駅」とした上山市の判断は評価される。

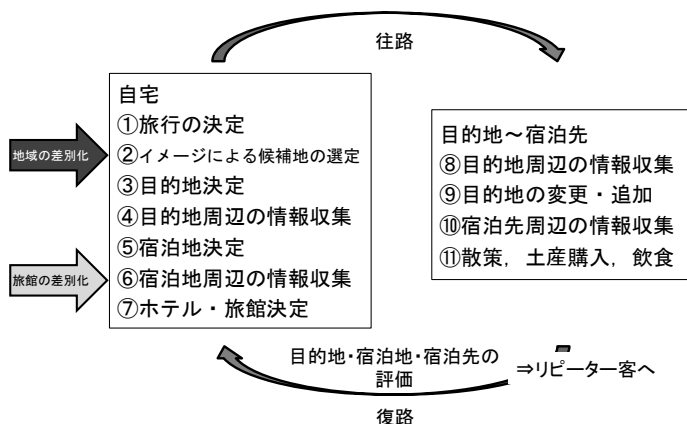


図5-1 旅行者の段階的意思決定過程

宿泊地の決定：旅行予定者にとって目的地が宿泊地となる必要はなく、副次的な目的・楽しみや交通利便性によって宿泊地が選択される。基本的に日帰り圏内に目的地があれば宿泊の必要はないが、あえて宿泊するという選択もありうる。この点は旅行の目的に大きく左右される。例えば、休養を目的とする旅行であれば、移動時間が短い近隣の観光地に宿泊することが選択肢の1つとなろう。宿泊地の選択は、目的地選択時よりも具体的かつ現実的な情報収集が必要であり、旅行予定者は旅行会社、テレビ、雑誌、インターネットを通じて情報を収集する。この際、インターネットによる情報収集量がきわめて大きいことは明らかであり、コンピュータや各種情報端末を使った情報の発受信が宿泊地決定に大きく作用する。

宿泊先（ホテル・旅館）の決定：旅行予定者にとって、宿泊先は旅行中に多くの時間を過ごす定点となるため、相応の楽しみを見つけないと思うはずだが、同時に、宿泊費は旅行費用に占める比率も高く、旅行行為全体に関わる大きな制約要因となる。旅行予定者は宿泊費に見合うだけのサービスを期待し、旅館側にはその内容をいかに過不足なく旅行予定者に提案できるかが求められる。これが旅館の差別化に繋がり、旅館ごとの宿泊客獲得に結びつく。予算が一定

であれば、旅行予定者は交通費（距離）、行楽費、宿泊費のいずれかに重点を置いた旅行計画を立てる。情報源は宿泊地決定と同様に旅行会社、テレビ、雑誌、インターネットになるため、同時に決定される場合が多い。ただし、予算的な視点から見れば、前者は交通費と行楽費の決定、後者は宿泊費の決定のための行為となる。近年、個人旅行の場合はとくに、キャンセル・ポリシーが緩やかになる傾向にあるが、宿泊予約を入れた時点で旅行予定者は旅行者となる。

往路を経て目的地へ：旅行者は目的地に着くと旅行計画に従って行動しようとするが、現地での情報集によって状況に応じた行動をとることもある。インターネットで多くの情報が事前に得られるとはいえ、現地での情報に勝ることはないためである。旅行の楽しみは予期しない発見や驚き（surprise）によって増幅するため、現地での情報提供や旅程の提案は旅行者の満足度に大きく影響する重要な施策となる。潜在的旅行者から旅行者までの誘導が発地型観光によるものであるとすれば、現地での旅行者の誘導は着地型観光の役割であり、ここでの提案が旅行者と地域双方の利益（benefit）を生じさせ、観光の産業化や地域活性化をもたらす。

復路を経て自宅へ：旅行者は旅行計画を終了し帰宅するが、体験しきれなかった楽しみや次期への期待が残れば、リピーター客として再度の来訪が期待できる。厳密に言えば、これは満足度とは異なる。もちろん、予定していた楽しみが期待外れであった場合にはリピーター客にならないであろうが、予定どおりやそれ以上の満足を達成した場合であっても、その旅行者がリピーター客になるとは限らない。旅行者がリピーター客になるのは、一定の満足度に加えて、やり残したことや見落としがあったことがある場合であり、それは現地での情報収集量に比例する。地域は地域資源の発掘や新規イベントの立案と同時に、それらを旅行者に確実に伝えていく方法を考えなければならない。同じ満足ではなく新しい満足を提供するために、旅館がリニューアルを繰り返しているのも同じ理由である。

2 旅行形態別の行動の差異

一般に、旅行形態とは、旅行者個人が旅行計画を練り自分で宿泊予約を行う自由旅行に、旅行業法によって定められる募集型企画旅行(パッケージツアー)、受注型企画旅行(団体旅行)、手配旅行を加えた4形態を指すが、近年盛んになってきたインターネットによる宿泊予約は手配旅行と自由旅行の中間に位置し判別が難しくなっている。そのため、本研究では自由旅行に手配旅行を含め、それを観光目的、休養目的、業務目的に分けてそれぞれの旅行者の行動パターンをまとめた。法事、同窓会、各種スポーツといった個別目的での旅行はアンケート結果を見る限り、多種多様で行動パターンを特定できないため、ここでは扱わない。

自由旅行の観光旅行者の場合(図5-2):観光地を巡り歩く「観光」と宿泊先でゆっくりする「休養」は旅行者の主観に委ねられるものであるが、上山市のような温泉街での宿泊には、選考理由や訪問した観光地の数等において明確な差異が現れている。

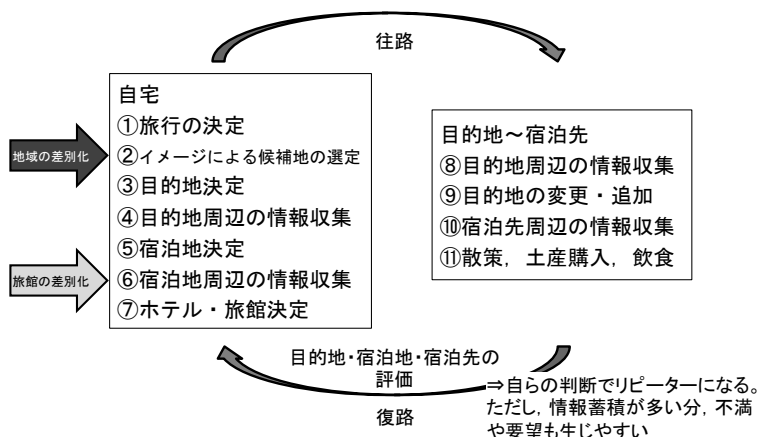


図5-2 自由旅行の観光旅行者の意思決定過程

自由旅行の観光旅行者は、上述した4段階の意思決定を自らが行い、訪問地の多さから目的地での行動も多様で同地での滞在時間も長いと推測される。また、初めて上山を訪れる旅行者の割合も高く、情報の吸収率は高いと考えられる。そのため、旅行によって上山に関する新たな情報が大量に蓄積される形態と言え、「行きそびれた観光地」や「やり残した体験」によるリピーター客開拓の主要ターゲットとなる。反面、それだけに不満や批判も生まれやすく、宿泊地や宿泊先での対応によっては負の情報の発信源にもなりやすい。上山市の場合、観光目的の宿泊客の多くが一見客であり、リピーター客の確保が今後の大きな課題と言える。

自由旅行の休養旅行者の場合（図5-3）：休養旅行者は旅行の決定後、目的地及び宿泊地の決定をとばして直接宿泊先を決定する場合が多く、目的地での情報収集量も少ないため、旅行全体に対する評価も限定的となる。新規顧客の開拓は各旅館に任され、宿泊した旅館のサービスに満足した客だけがリピーター客になる。逆に、旅行者を旅館単位でコントロールできるため、旅館にとっては経営戦略を立てやすい顧客層と言うこともできる。

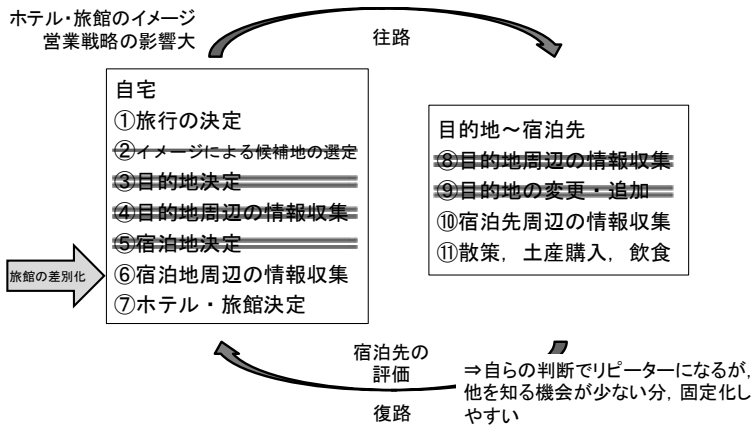


図5-3 自由旅行の休養旅行者の意思決定過程

上山市の旅館の場合、一定数のリピーター客は確保しているようだが、高齢者が多いこともあり、この形態に頼りすぎるのは長期的に見て危険である。また、旅行者の大半が館内での滞在で旅行の目的（休養）を達成しようとしており、基本的に商店街とのリンクや着地型観光による誘導には適さない。旅行者の健康指向（自然散策）や食欲（飲食）に訴えることができれば、旅行者を館外に誘導することは可能であろうが、それは各旅館が開発してきた館内施設誘導型の宿泊商品と相反する提案になる危険性もあり、慎重な対応が必要である。

自由旅行の業務旅行者の場合（図5-4）：アンケート結果によれば、業務旅行者の割合は4.1%であり、上山市に宿泊する旅行者の動向を左右するほどの旅行形態とは言えない。また、彼らは観光客ではないため、楽しむために旅行するわけではない。意思決定に関しても、旅行及び目的地決定は旅行者の意思に関係なく決定される。しかしながら、休養旅行者よりも訪れる観光地が多いことや一般に平日の宿泊となりやすいことを考えると、観光の産業化を図る上では重要な顧客であると言える。

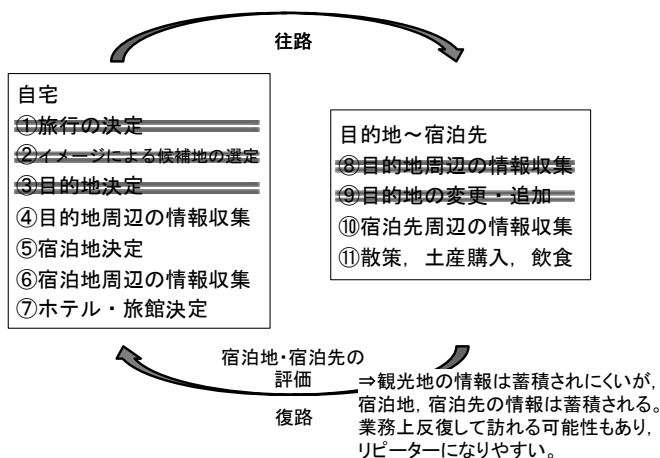


図5-4 自由旅行の業務旅行者の意思決定過程

また、「出張」という旅行が有する独特の性格から、土産話のために有名な観光地を1カ所だけ訪れ、職場の同僚のために土産品を1点購入するという行動パターンや目的地と宿泊地が一致しない行動パターンを連想しやすく、他の旅行者とは異なる形での広告塔となりうる。

募集型企画旅行（パッケージツアー）の旅行者の場合（図5-5）：旅行者は旅行の決定と目的地の決定はするものの、それ以降は旅行会社の企画する発地型観光の旅程に従うことになる。そのため、旅行者は意志決定が進むにつれて狭域化、詳細化していく情報収集を行わないまま現地に到着することになる。彼らを誘引するのは地域の差別化であり、観光地としてのイメージ戦略が効果的に作用すると考えられる。その意味で、旅行者がリピーター客になるのは、地域に対してではなく、旅行会社の企画に対してであるとも言える。

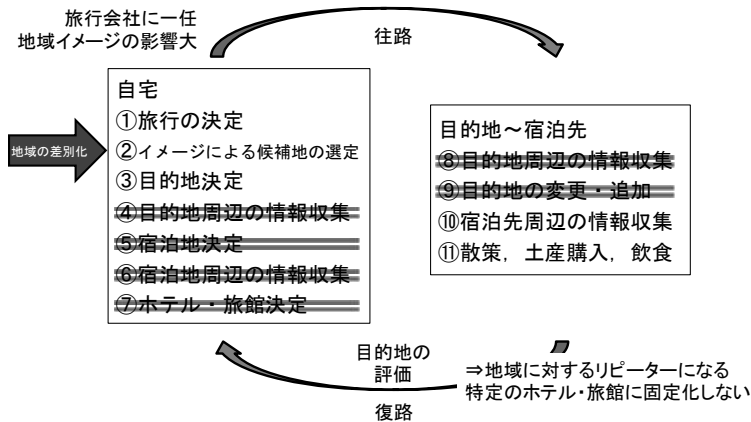


図5-5 募集型企画旅行の旅行者の意思決定過程

受注型企画旅行（団体旅行）の旅行者の場合（図5-6）：旅行者の自由度はきわめて低く、旅行の日程からすでに決定されていることもある。観光や休養といった旅そのものが持つ魅力というよりは、懇親あるいは慰安といった人間

関係の緩和に旅行の目的が設定されることが多く、目的地、宿泊地、宿泊先とともに、ここに取り上げた形態の中では最もリピーター客を期待できない旅行形態であると考えられる。ただし、比率的には少ないものの、外国人の受注型企画旅行については、国家レベルで今後の増加が予想される。

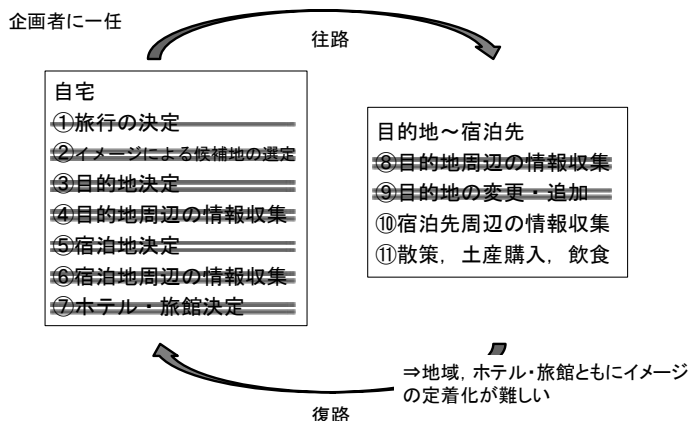


図5-6 受注型企画旅行の旅行者の意思決定過程

3 上山市に求められること

宿泊客の意思決定仮定を整理すると、彼らと呼び込むためには地域の差別化と旅館の差別化によって同地が他所と違う魅力がある場所であることを発信していく必要がある。旅館が日帰り客のために施設を解放している今日においては、二つの差別化は日帰り客を含めた来訪者全般に対する誘引材料になるはずである（図5-7）。

旅館の差別化は、地域内に流入する来訪者を地域内で「取り合う」だけだとする見方もできるが、今回の調査結果を見る限り、特定の旅館を強く指向する宿泊客は、宿泊地の選択を飛ばし、直接旅館に予約を入れる傾向にあり、各旅館のPRは結果的に宿泊総数を増やしている。旅館経営者にも近隣旅館と競合す

る意図はなく、付帯施設の相互利用による相乗効果を期待する声も聞かれた。もちろん、類似する商品が並ぶことは差別化とは言えないため、隣接する旅館同士が連携してそれぞれに工夫する必要があるが、上山市においては、このような連携の進展が今後見込まれる状況にある。

また、歴史的・地理的な要因によって3つの地区に分けられた旅館群には多様性があり、それぞれの地区の特徴が宿泊客の固有な行動パターンを生み出している。湯町・新湯に壮高年齢層の一見客が集中している点などはその一例である。対応できる宿泊客層は限定的であるものの、宿泊サービスや価格設定に見られる旅館の階層性が、旅館間での競争を軽減させていることが上山市における宿泊業の大きな強みと言える。

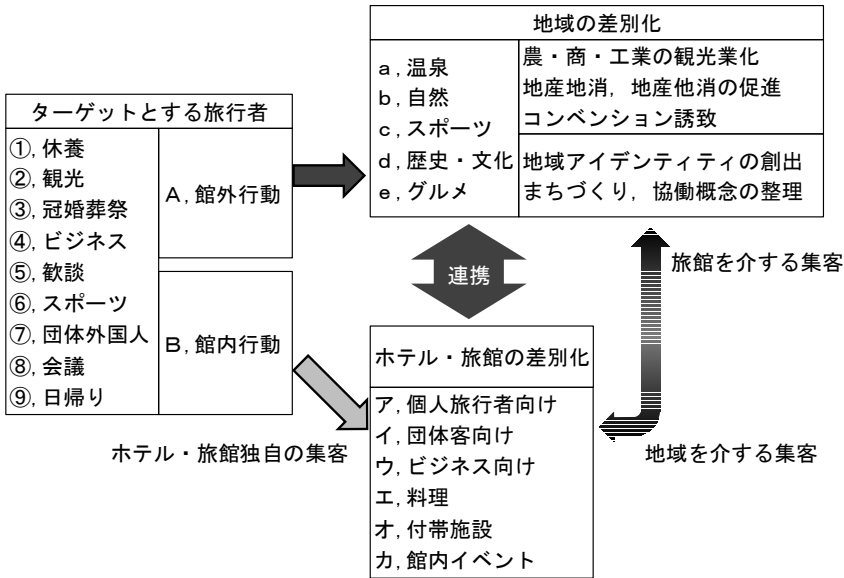


図 5-7 地域と旅館の連携のあり方

一方、地域の差別化は、現在、行政が主体となっていて行われている。しかし、地域の魅力を高めていくためには上山市内の温泉，自然環境，スポーツ，歴史・

文化、地元グルメ等を広く外側に発信していかなければならず、市民全体での協働が必要である。観光の産業化に伴い、既存の農、商、工業もそれに対応していくことが必要である。特に農業については地産地消の意識を農業者と住民の双方が持ち、上山米や上山野菜をブランド化していくことが上山産品を地域外で販売する地産他消を促進させ、地域の差別化に結びつくであろう。同様に、まちづくりや中心市街地の再生に関しても、まずは住民が危機意識を持ち、観光による地域再生が最も実現可能な方向性であることを認識する必要がある。観光以外にも上山市を活性化する材料はあるかもしれないが、方向性を統一しない限り、まちづくりは単発のイベントで終わってしまう。

さらに、提示された地域の魅力が宿泊客を誘引した場合、彼らには旅館外の行動を期待することになるが、これは付帯施設の整備・充実によって旅館の差別化を進めてきた旅館の経営方針とは異なる。上山市が抱える問題点の一つとして、地域と旅館との競合を挙げることができる。もちろん、旅館にとっても、付帯施設への資本投下には限界があり、バリュー・チェーンにおける支援活動の肥大化は最終利益を圧迫することになるため、地域の差別化による集客は今後ますます必要になることは必至である。また、温泉街である以上、観光客のおよそ4割を占める宿泊客をまちづくりに取り込まないと交流人口増による経済効果は半減してしまうため、地域にとっても旅館の差別化による宿泊客増には期待したいところである（前掲、図1-5）。旅館の差別化による来訪者と地域の差別化による来訪者を旅館と地域が「取り合う」のではなく、それぞれに「提供し合う」システムの構築が理想である。

学生から提出されたレポートによれば、二つの差別化は必ずしも競合しない。彼らは20歳代前半の大学生というきわめて限定された階層であることに注意しなければならないが、彼らは次世代のリピーター客であり、彼らの情報発信力を侮ることはできない。彼らは着地型観光による街歩きと付帯施設やその相互利用による楽しみを上手く使い分け、館外行動と館内行動を両立させている。彼らの旅館滞在時間は20時間に満たず、睡眠と食事を除いた時間は8～9時間である。チェック・イン後、彼らはそれぞれに感激するものの、翌日は食事を

して飄々とチェック・アウトを済ます。我々が期待しているほど、彼らは余韻に浸らず、チェック・アウト後はきわめてアクティブに行動する。チェック・イン前の館外行動とチェック・アウト後の館外行動の時間は10時間を超えており、宿泊費以外に使ったお金も旅行後の感想も館外行動に集中している。

学生はレポートを書かなければならないという負荷を追っていたため、一般の宿泊客よりもアクティブだったと思われるが、クーポンを超える実費を支払い、滞在時間を有意義なものにするために彼らなりの旅行の楽しみかたを示したことは明らかである。彼らが示したように、旅行者が行楽時間をチェック・イン～チェック・アウトではなく、電車から降りた時～電車に乗った時、あるいは自宅を出た時～自宅に帰った時と考えられるような旅行商品を提示することが、旅館と地域が来訪者をそれぞれに「分け合う」ことに繋がっていくものと考えられる。

参考文献

大方優子 2006. 旅行先選択行動に関する考察, 東海大学福岡短期大学紀要 6号
24-38.

前田 勇 1995. 『観光とサービスの心理学 ―観光行動学序説』, 学文社.

Brown, L. A. and Moore, E. G. 1970. The Intra-Urban Migration Process: A Perspective, *Geografiska Annaler*, 52B, 368-381.

おわりに

平成 25 年度の大学 COC 事業「地（知）の拠点事業」として山形大学の「自立分散型（地域）社会システムを構築し、運営する人材の育成」事業が採択され、個別分野の研究として本研究が認可されたことは、地方都市の観光政策に当該地域の大学が参与していく大きなきっかけになったと考える。地方都市の活性化に必要な観光は着地型観光である。それは、地域資源の掘り起こしに始まり、広域からの観光客のニーズに対応しながら、地域全体の経済活性化を目指すものであり、社会環境や自然環境のアセスメントも多岐にわたる。着地型観光を考えることは、個々の観光客の満足度を高めることや彼らを送り出す業種の利益を増大させることを起点とする発地型観光を考えるよりも、はるかに多くの視点が必要であり、個々の研究者が対応しきれるものではない。「課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核」として存在する大学が組織的に携わることによって、はじめて着地型観光の研究は可能となり、その成果を地域に還元できると思われる。今後、同事業の進行とともに様々な分野から観光政策研究がなされ、体系づけられていくことだろう。

本研究は東北創生研究所のモデル都市研究として、筆者が 2012 年から行ってきた観光動向調査の延長線上にあり、足掛け 3 年にわたる調査から得た知見をまとめたものである。内容的には未だ中間報告の域を出ないが、ひとまず上市を訪れる観光客の行動パターンを類型化することができたことで、同市の地域性に基づく観光政策の方向性を示すことができたのではないかと考える。とくに、観光動向調査から導き出された、「若年者の行動パターンが、今後の上山観光に新しい動きをもたらす」という仮説が、学生参加型の現地調査によって確認されたことは非常に大きな意義がある。

個々の地域の特性を理論よりも現地での観察や体験によって明らかにしてい

く「地誌学」という講義を利用しての現地学習は、平成 24 年度に行った東松島市の視察に続き 2 回目である。今回はプログラムを講義に組み込み、受講者全員の同行を義務づけたが、団体行動となったために現地における参加者個人の自由度は狭められ「視察」に終わった。一方、今回の現地学習は、実際の観光を体験するという目的のもと、有志学生による 2 名 1 組の行動となり自由度は大幅に高められた。いずれも一長一短の現地学習法であるが、講義の内容に合わせて使い分ければ、大きな学習成果を上げることが分かった。現地学習を考える大学教員の参考になれば幸いである。

冒頭にも述べたが、本研究は平成 25 年度の大学 COC 事業として採択された山形大学の「自立分散型（地域）社会システムを構築し、運営する人材の育成」事業の支援を受けた。連携自治体の上山市横戸長兵衛市長には、震災時の自治体連携に関する研究や観光動向調査においても長年にわたりお世話になっている。経営企画課の平吹義浩主幹には、同市でのあらゆる調査で御助言を頂いてきた。現地調査では、観光課石井隆課長、観光物産協会伊藤こずえ主事にお世話になった。観光動向調査は、上山市観光物産協会に加盟する主要な 18 軒のホテル・旅館の経営者の協力によって実施することができた。また、山形大学人文学部地理学教室の福岡麻美さん、横尾莉紗さんには、観光動向調査の資料整理をお願いした。同教室の木村瑠奈さんには、本書編集作業をお願いした。このほかにも、本研究はここに記載しきれない多くの住民の方々に支えられてきた。ここに付して、厚く感謝の意を表したい。

2014 年 3 月

山形大学人文学部

山田浩久

<執筆者紹介>

山田 浩久（やまだ ひろひさ）

1964 年 兵庫県生まれ

東北大学大学院理学研究科博士課程後期修了

山形大学人文学部 教授 博士（理学）

人文地理学担当

専門

地域政策，市街地価格形成論

主著書

『地価変動のダイナミズム』（単著），大明堂，1999 年

『北東日本の地域経済』（共著），八朔社，2012 年

『地方都市の持続可能な発展を目指して』，山形大学出版会，2013 年

『現地学習を中心にした災害復興学の実践』，山形大学人文学部叢書 3，2013 年

山形大学人文学部開講科目「地誌学」を通じて宿泊実習に参加した有志学生

4 年次生 14 名，3 年次生 6 名，2 年次生 12 名

山形大学人文学部叢書 4
平成 25 年度 「地（知）の拠点整備事業」
自立分散型（地域）社会システムを構築し、運営する人材の育成

観光資源の有効利用と中心市街地の活性化
—連携自治体 山形県上山市—

2014 年 3 月 1 日 初版 第 1 版発行

編著者 山田 浩久

発行者 北川 忠明

発行所 山形大学人文学部

〒990-8560

山形県山形市小白川町 1-4-12

電話 023-628-4203

FAX 023-628-4212

印刷 田宮印刷株式会社

© YAMADA Hirohisa 2013
ISBN 978-4-907085-03-2 C3337
Printed in Japan



9784907085032

ISBN978-4-907085-03-2
C3337

